

東大和市

男女共同参画に関する市民意識調査報告書

令和2年3月

東大和市

内容

I	調査概要	1
1	調査の目的	1
2	調査概要	1
3	調査項目	1
4	図表の見方	2
II	調査結果の概要	3
1	男女共同参画に関する意識について	3
2	家庭生活について	4
3	仕事について	5
4	ワーク・ライフ・バランスについて	6
5	社会参加・地域参加について	7
6	人権について	7
7	男女共同参画の推進について	8
III	調査結果	9
1	あなたご自身のことについて	9
2	男女共同参画に関する意識について	24
3	家庭生活について	35
4	仕事について	49
5	ワーク・ライフ・バランスについて	55
6	社会参加・地域参加について	66
7	人権について	70
8	男女共同参画の推進について	84
IV	調査票	90

I 調査概要

1 調査の目的

この調査は平成 28 年に策定した「第二次東大和市男女共同参画推進計画（改訂版）」の進捗状況や次期東大和市男女共同参画推進計画の策定に向けた課題を把握し、今後の男女共同参画の取組に向けた基礎資料とするため、実施しました。

2 調査概要

- (1) 調査地域：東大和市全域
- (2) 調査対象：市内在住の満 20 歳以上男女 1,000 人
- (3) 抽出方法：住民基本台帳による無作為抽出（地域・年齢比率）
- (4) 調査方法：郵送配布・郵送回収
- (5) 調査時期：令和元年 12 月 1 日～12 月 16 日
- (6) 回収結果：配布 1,000 件、回収 368 件（回収率 36.8%）

3 調査項目

大項目	調査項目
回答者の属性	問1 性別
	問2 年代
	問3 結婚(事実婚を含む)をしているか
	問4 働き方の状況
	問5 家族構成
	問6 子ども・高齢者との同居状況(誰かと同居している人)
	問7 職業
	問8 通勤時間(自宅外で働いている人)
	問9 パート、アルバイト等を選んでいる理由(パート、アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託員、内職の人)
	問10 家事専業、無職を選んでいる理由(家事専業(主婦・主夫)、無職の人)
	問11 離職の経験・理由
男女共同参画に関する意識	問12 各分野における男女平等観
	問13 市の男女共同参画推進事業や男女共同参画に関する用語の認知度
家庭生活	問14 家庭における男女の役割分担の理想と現実
	問15 子育てに対する考え方
	問16 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

大項目	調査項目
仕事	問 17 管理職に昇進することへのイメージ
	問 18 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やす際の障害
	問 19 女性が働き続けたり、結婚・出産等の後に再就職しやすい環境をつくるために必要なこと
ワーク・ライフ・バランス	問 20 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度の希望と現実
	問 21 ワーク・ライフ・バランスを阻害している要因
	問 22 家事代行等の外部サービスの利用状況と希望
社会参加・地域参加	問 23 地域活動への現在の参加状況と今後の希望
人権	問 24 LGBT等(性的少数者)の認知度
	問 25 暴力に対する認識
	問 26 配偶者やパートナーから暴力を受けた経験
	問 27 暴力を受けたことを相談したか(暴力を受けた経験がある人)
	問 28 暴力を受けたことに関する相談相手(暴力を受けた経験を相談した人)
	問 29 暴力を受けたことを相談しなかった理由(暴力を受けた経験を相談しなかった人)
男女共同参画の推進	問 30 暴力を受けた際にあればよかったと思う助け(暴力を受けた経験がある人)
	問 31 ワーク・ライフ・バランスの実現や、女性の活躍推進に関して必要になると思う情報
	問 32 男女共同参画社会の実現のために市が力を入れるべきこと
	問 33 自由意見

4 図表の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- SA (Single Answer) は単数回答、MA (Multiple Answer) は複数回答を表しています。
- 設問や回答の選択肢を省略している場合があります。

Ⅱ 調査結果の概要

1 男女共同参画に関する意識について

社会における各分野の男女平等観については、学校教育の場、地域活動の場では5割程度と高くなっているものの、社会通念・習慣・しきたり、政治の場、家事・子育て・介護等家庭生活の場では1割前後と低くなっています。特に家庭生活の場については、女性で“男性優遇”が男性に比べて約20ポイント高く、その差が大きくなっているほか、女性のすべての年齢で“男性優遇”が5割を超えています。

東大和市が男女共同参画推進のために行っている事業や男女共同参画に関する用語の認知度は、「ドメスティック・バイオレンス」「マタニティ・ハラスメント」では5割前後となっているものの、市が実施している事業は2割以下、「男女共同参画社会基本法」、「女性活躍推進法」、「パタニティ・ハラスメント」、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」では1割前後と、低くなっています。

- 社会通念・習慣・しきたり、政治の場における男女平等に向けて、継続的な啓発を行うとともに、意思決定の場で男女双方の視点を取り入れることができるよう、環境づくりや意識改革等の支援をしていくことが重要となっています。
- 家庭生活の場における男女平等観は、男女でその実感に差がある一方、年齢では傾向に差がみられないことから、世代を問わず固定的な性別役割分担意識を払しょくするなど、互いに支え合う家庭づくりを支援する必要があります。
- 東大和市が男女共同参画推進のために行っている事業や、認知度の低くなっている用語について、周知・啓発の方法等を検討していく必要があります。

2 家庭生活について

子ども・高齢者との同居状況を年齢別にみると、30歳代で「就学前の子ども」が、40歳代で「中学生以上の未成年者」が、それぞれ最も高くなっています。また、40歳代では「小学生」、「中学生以上の未成年者」、「介護を必要としない65歳以上の方」がいずれも3割台と、子育てと介護に同時に直面しやすい年代であることがうかがえます。

家庭における男女の役割分担について、理想は“仕事も、家事・子育て・介護も男女がともに分担”が最も高くなっています。一方で、実際に結婚している、パートナーと同居している方の現状は“男女とも仕事、家事・子育て・介護は主に女性”が最も高く、次いで“男性は仕事、女性は家事・子育て・介護”、“男性は仕事、女性は家事・子育て・介護にさしつかえない範囲で仕事”と、女性が家事・子育て・介護を主に担っている家庭が多くなっています。

子育てに対する考え方について、【父親はもっと子育てに関わる方がよい】、【子育ては地域社会の支援も必要である】、【男の子も、家事ができるように育てるのがよい】で“思う”が9割前後となっています。

また、【女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てるのがよい】、【母親は、子どもが3歳になるまでは子育てに専念するのがよい】で“思わない”が3割前後と、他の項目に比べて高くなっています。

- 家庭における男女の役割分担について、理想と現実には食い違いがあり、特に女性が家事・子育て・介護を主に担っている家庭が多くなっていることから、固定的な性別役割分担意識の払しょくや、ワーク・ライフ・バランスの推進など、男女が共にそれぞれの希望に応じて仕事と家事・子育て・介護を担うことのできる環境づくりに取り組む必要があります。
- 子育てについて、【父親はもっと子育てに関わる方がよい】、【男の子も、家事ができるように育てるのがよい】など、男性の家事・子育てへの参画に向けた教育の推進や、講座などを通じた支援が重要となっています。また、地域全体で子どもを育て、見守ることができるよう、自治会・ボランティア団体等の活動支援が重要となっています。

3 仕事について

回答者の職業を年齢別にみると、男性の20歳代で「会社員、団体職員」と「公務員、教員」が、男性の30・40・50歳代で「会社員、団体職員」が、男性の60歳以上と女性の70歳以上で「無職」が、女性の20歳代で「学生」が、女性の30歳代で「パート、アルバイト」と「家事専業（主婦・主夫）」が、女性の40・50歳代で「パート、アルバイト」が、女性の60歳代で「家事専業（主婦・主夫）」がそれぞれ最も高くなっています。

パート、アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託員、内職のいずれかの働き方を選んでいる理由は、女性の20歳代で“正社員では家庭との両立が難しい”、“自分の生活にあわせた時間で働ける”、“趣味などと両立させたい”、“介護のための環境が整っていない”が、30・60・70歳代で“自分の生活にあわせた時間で働ける”が、40・50歳代で“正社員では家庭との両立が難しい”が最も高くなっています。

家事専業（主婦・主夫）、無職を選んでいる理由として、女性の20・30歳代で“子育ての負担が大きい”、40歳代で“希望の仕事が見つからない”、50歳代で“家事の負担が大きい”が最も高く、子育て・家事と仕事との両立が難しかったため家事専業、無職を選んでいる回答が女性で多くなっています。

管理職に昇進することへのイメージは「責任が重くなる」が最も高く、次いで「給与が上がる」、「能力が認められた結果である」となっています。性別にみると、男性で「自分自身で決められる事柄が多くなる」が女性に比べて13.2ポイント高く、女性で「責任が重くなる」「仕事と家庭の両立が困難になる」が、男性に比べて10ポイント以上高くなっています。

政治・経済・地域などの各分野で女性リーダーを増やす際の障害は“保育・介護・家事などへの家族の支援が不十分”が最も高く、次いで“保育・介護などの公的サービスが不十分”、“長時間労働の改善が不十分”となっています。性別にみると、男性では“女性自身がリーダーを希望しない”が、女性では“同僚となる男性や顧客が女性リーダーを希望しない”、“保育・介護・家事などへの家族の支援が不十分”が、それぞれ高くなっています。

女性が働き続けたり、結婚・出産等の後に再就職しやすい環境をつくるために必要なことは“保育環境を充実させる”が最も高く、年齢別にみると、男性の20・70歳代と女性の40歳代で“元の職場に復帰できるようにする”、女性の20・30歳代で“多様な働き方の実現”が、それぞれ最も高くなっています。また女性の20・50歳代で“男性の家事・子育てへの参加促進”が6割を超えており、他に比べて高くなっています。

- 家庭との両立、子育ての負担などを理由に正規雇用を選択できない女性がいることから、ワーク・ライフ・バランスの推進や、家事・子育て・介護等をしながらでも働き続けることのできる職場環境の推進に取り組む必要があります。
- 管理職に昇進することへの消極的なイメージや、「女性リーダーが周囲から受け入れられない」という認識を払しょくし、性別ではなく個人の希望や能力に応じた人事・人材配置がなされるよう、意識の改革や環境の整備が重要となっています。
- 働く場における女性の活躍推進にあたっては、保育環境の充実のほか、多様な働き方の実現、男性の家事・子育てへの参画促進が重要となっています。

4 ワーク・ライフ・バランスについて

回答者が家事専業（主婦・主夫）、無職を選んでいる理由として、女性の20・30歳代で“子育ての負担が大きい”が最も高くなっています。

離職の経験と理由を性別にみると、女性で“結婚または子育てのため離職した”が男性に比べて高く、男性で“離職したことはない”が女性に比べて高くなっています。

「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度の希望は「どれかを優先せず、すべて充実」が最も高く、年齢別にみると、男性の20・30歳代と女性の30歳代で「家庭生活」が優先が2割を超え、男性の40歳代で「家庭生活」と「個人の生活」が優先が3割半ばと、他に比べて高くなっています。

一方で、現実には「仕事」が優先が最も高く、年齢別にみると、女性の30歳代で「家庭生活」が優先が6割と他に比べて高くなっています。また、希望の回答結果にかかわらず「仕事」が優先の割合が高くなっています。

ワーク・ライフ・バランスを阻害している要因を性別にみると、女性では「保育・介護の施設やサービスが不足している」が男性に比べて高く、男性では「長時間労働が恒常化している」が女性に比べて高くなっています。働き方状況別にみると、【共働き】で「休業時など経済的保障が不十分である」、【夫（男性・パートナー）のみ働いている】と【妻（女性・パートナー）のみ働いている】で「子育て・介護で仕事を休むと人事評価が下がる」が3割台と、他に比べて高くなっています。

家事代行等の外部サービスの利用状況を年齢別にみると、女性の30歳代で「食材配達」が5割と、他に比べて高くなっています。働き方状況別にみると、【共働き】で「食材配達」が他に比べて高くなっています。今後利用の利用希望は“年に数回必要となる家事”が最も高く、年齢別にみると、男性の30歳代で“料理以外の日常の家事”が、女性の20歳代で“子どもの世話”が、それぞれ他に比べて高くなっています。

- ワーク・ライフ・バランスの希望と現実が一致していない回答が多くなっていることから、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けて、長時間労働の是正や働き方改革の推進など、企業への働きかけが重要となっています。また、家事等の負担軽減として家事代行等のサービスの利用意向が高くなっており、利用にあたっての支援が重要となっています。
- ワーク・ライフ・バランスの阻害要因として、保育・介護施設やサービスの不足が挙げられており、子育てや介護に直面しても働き続けることのできる福祉サービスの充実が重要となっています。

5 社会参加・地域参加について

地域活動への現在の参加状況は「特にない」が最も高く、性別にみると、女性で「趣味やスポーツなどの活動」「町会や自治会、PTAなどの地域活動」「子育て支援に関連した活動」が、男性に比べて高くなっています。

今後参加したい活動は「趣味やスポーツなどの活動」が最も高く、性別にみると、男性で「防犯、防災、交通安全などに関する地域活動」が女性に比べて高く、女性で「高齢者や障害者の介護・介助などの活動」が男性に比べて高くなっています。年齢別にみると、男性の30歳代と女性の30・40・50歳代で「趣味やスポーツなどの活動」が4割を超えて、他に比べて高くなっています。

- 男女が共に地域活動や様々な意思決定の場に参画することができるよう、性別によらず活動しやすい環境づくりに努める必要があります。

6 人権について

LGBT等（性的少数者）の認知度は「言葉も意味も両方を知っている」が最も高く、「言葉を聞いたことがあるが、意味は知らない」を合わせると8割を超えています。

配偶者やパートナーとの間で行われた場合「どんな場合でも暴力にあたる」と思うのは、性的暴力が最も高く、次いで侮辱的なことを言う精神的暴力、平手で打つ身体的暴力となっています。また、外出などを制限する社会的暴力は、「暴力にあたるとは思わない」が1割弱と他に比べて高くなっています。

これまでに配偶者やパートナーから受けた暴力は「特にない」が最も高く、次いで「大声でどなられる」精神的暴力が17.4%、「生活費を十分に渡されない」経済的暴力が6.8%となっています。

暴力を受けた経験の相談は「相談しようと思わなかった」が44.9%と最も高く、次いで「相談した」が28.6%、「相談したかったが、相談しなかった」が13.3%となっています。

暴力を受けた内容別にみると、【なぐるふりをしておどされる】と【生活費を十分に渡されない】で「相談した」が最も高くなっています。また、「相談したかったが、相談しなかった」と「相談しようと思わなかった」を合わせた“相談しなかった”は、性的暴力で8割を超えて高くなっています。

暴力を受けたことを相談した相手は「友人・知人」が最も高く、「市の相談窓口」「弁護士、家庭裁判所など」がそれぞれ1割台となっています。

相談しなかった理由は“相談するほどではないと思った”が最も高く、次いで“我慢すればこのままやっていけるといった”、“自分にも悪いところがあると思った”となっており、暴力を受けているという認識や、適切な相談窓口の普及が課題となっています。

暴力を受けた際にあればよかったと思う助けは“身近な人や同様の経験をした人からの助言、援助”、“カウンセリングなどの精神的援助”など、精神的な支援へのニーズが高くなっています。

- 暴力であるとの認識の低かった社会的暴力や、一定数の被害がみられた精神的暴力、経済的暴力など、暴力への正しい認識を普及するとともに、被害者が適切な支援につながるための相談先の普及、支援体制の充実が重要となっています。

7 男女共同参画の推進について

ワーク・ライフ・バランスの実現や、女性の活躍推進に関して必要になると思う情報は“介護・家事の支援サービスに関する情報”が最も高く、年齢別にみると、男性の20歳代で“仕事と子育て・介護との両立支援制度に関する情報”、“働き方の見直しの実践例に関する情報”が、女性の30歳代で“保育所（園）や幼稚園に関する情報”、“学童保育に関する情報”が、他に比べて高くなっています。

男女共同参画社会の実現のために市が力を入れるべきことを年齢別にみると、男女ともに20・30・40歳代で「ワーク・ライフ・バランスの実現のための保育の充実や相談の実施等」が、男性の50歳代と女性の50・60・70歳代で「ワーク・ライフ・バランスの実現のための介護支援や相談体制の充実等」が、男性の60歳代と80歳以上で「意思決定の場への男女共同参画の推進」が、男性の70歳代と女性の80歳以上で「教育の場における男女共同参画の推進」がそれぞれ最も高く、年代によって関心が異なることがうかがえます。

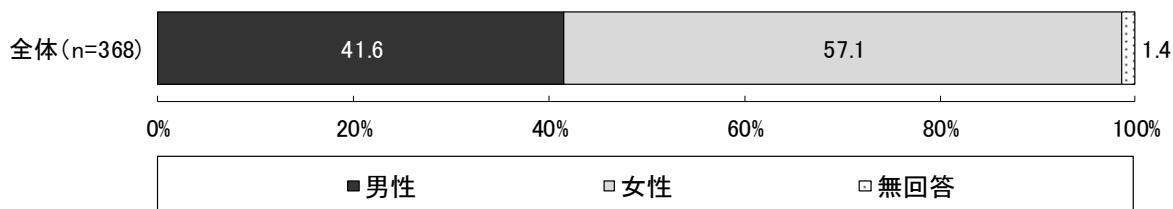
- 必要な情報提供として、子育て・介護との両立支援制度やサービスに関する情報や、働き方改革にあたっての実践例が求められています。
- 男女共同参画社会の実現にあたっては、世代によって求められる取組が異なる傾向にあり、特に働き盛り・子育て世代からはワーク・ライフ・バランスの実現に向けた保育・介護サービスの充実が求められています。また、60歳以上の世代からは教育の場における意識の形成、意思決定の場で男女双方の視点を取り入れることが求められています。

Ⅲ 調査結果

1 あなたご自身のことについて

問1 あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)

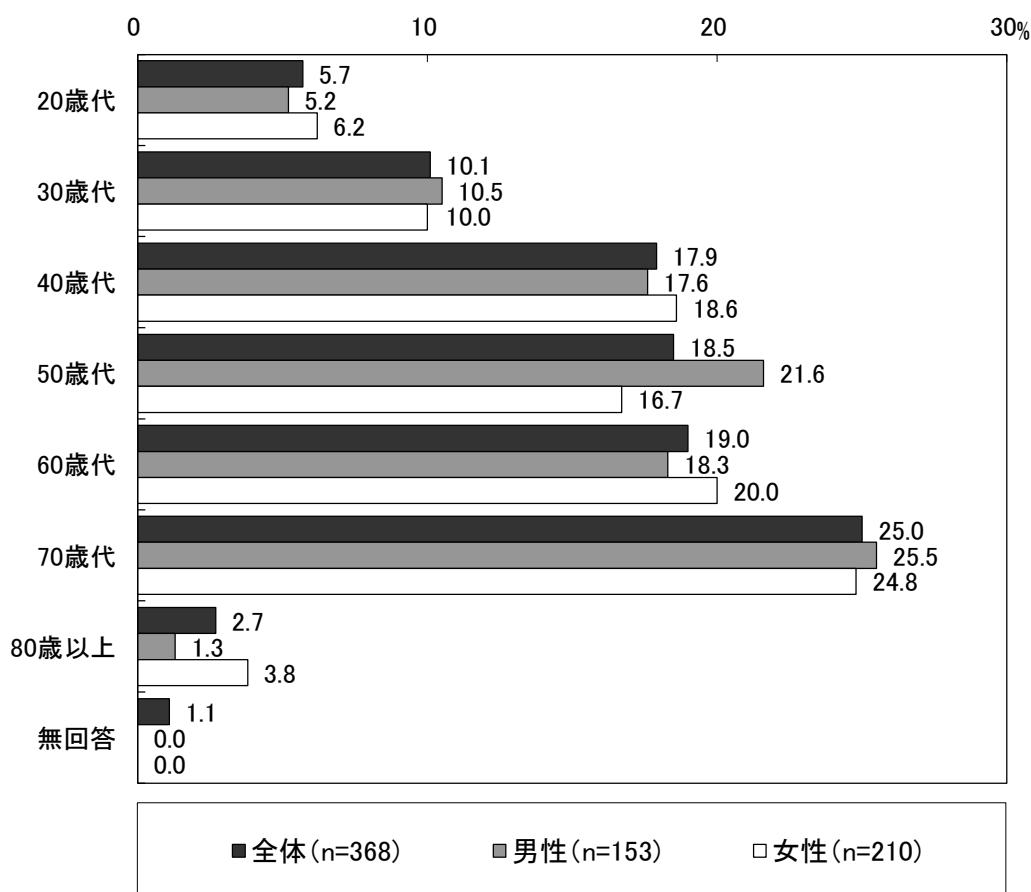
女性が57.1%と、男性の41.6%を上回っています。



問2 あなたの年代(令和元年12月1日現在)を教えてください。(〇は1つ)

「70歳代」が25.0%と最も高く、次いで「60歳代」が19.0%、「50歳代」が18.5%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

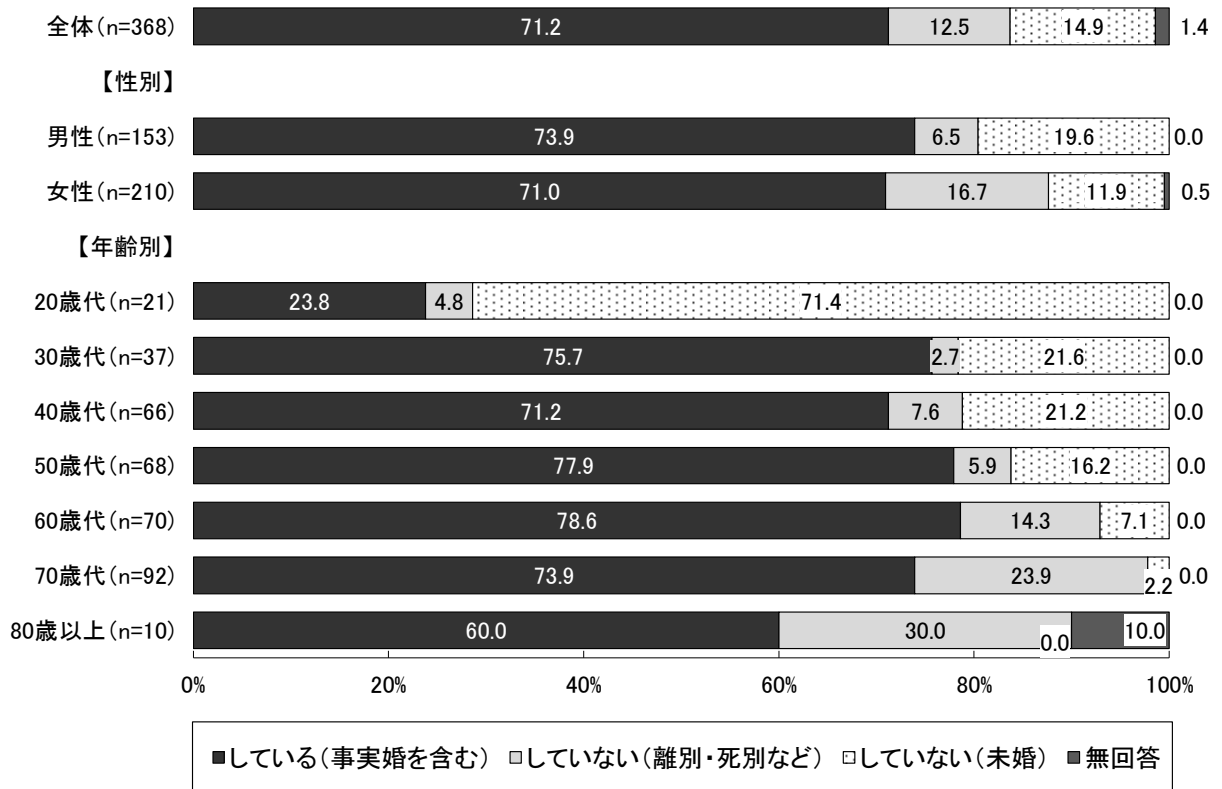


問3 あなたは現在、結婚(事実婚を含む)していますか。(〇は1つ)

「している(事実婚を含む)」が71.2%と最も高く、次いで「していない(未婚)」が14.9%、「していない(離婚・死別など)」が12.5%となっています。

性別にみると、男性で「していない(未婚)」が19.6%と女性に比べて高く、女性で「していない(離婚・死別など)」が16.7%と男性に比べて高くなっています。

年齢別にみると、20歳代で「していない(未婚)」が7割、30・40歳代でも2割を超えています。



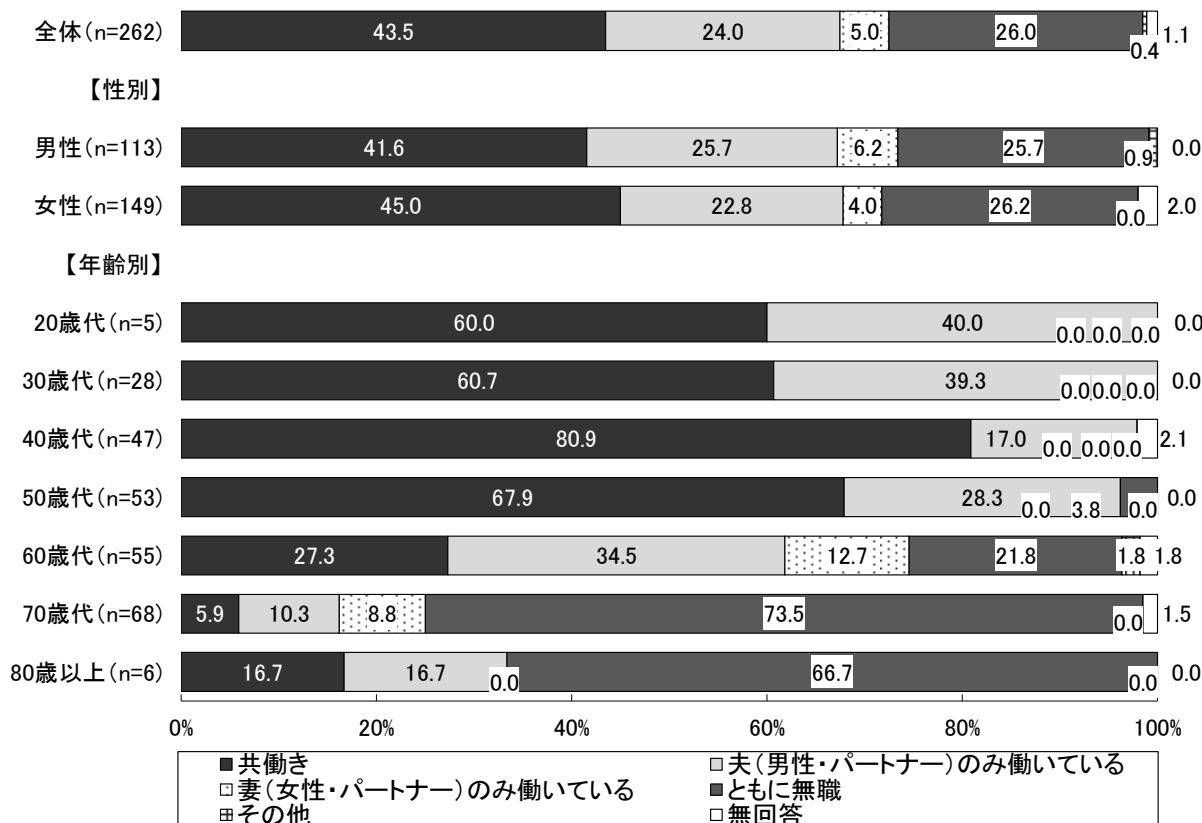
問3で「1 している（事実婚を含む）」とお答えの方にお聞きします。

問4 あなたのご家庭の就労状況はどれですか。（〇は1つ）

「共働き」が43.5%と最も高く、次いで「ともに無職」が26.0%、「夫（男性・パートナー）のみ働いている」が24.0%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

年齢別にみると、50歳代以下で「共働き」が高く、特に40歳代で8割を超えています。また、70歳代以上で「ともに無職」が6割を超えて高くなっています。

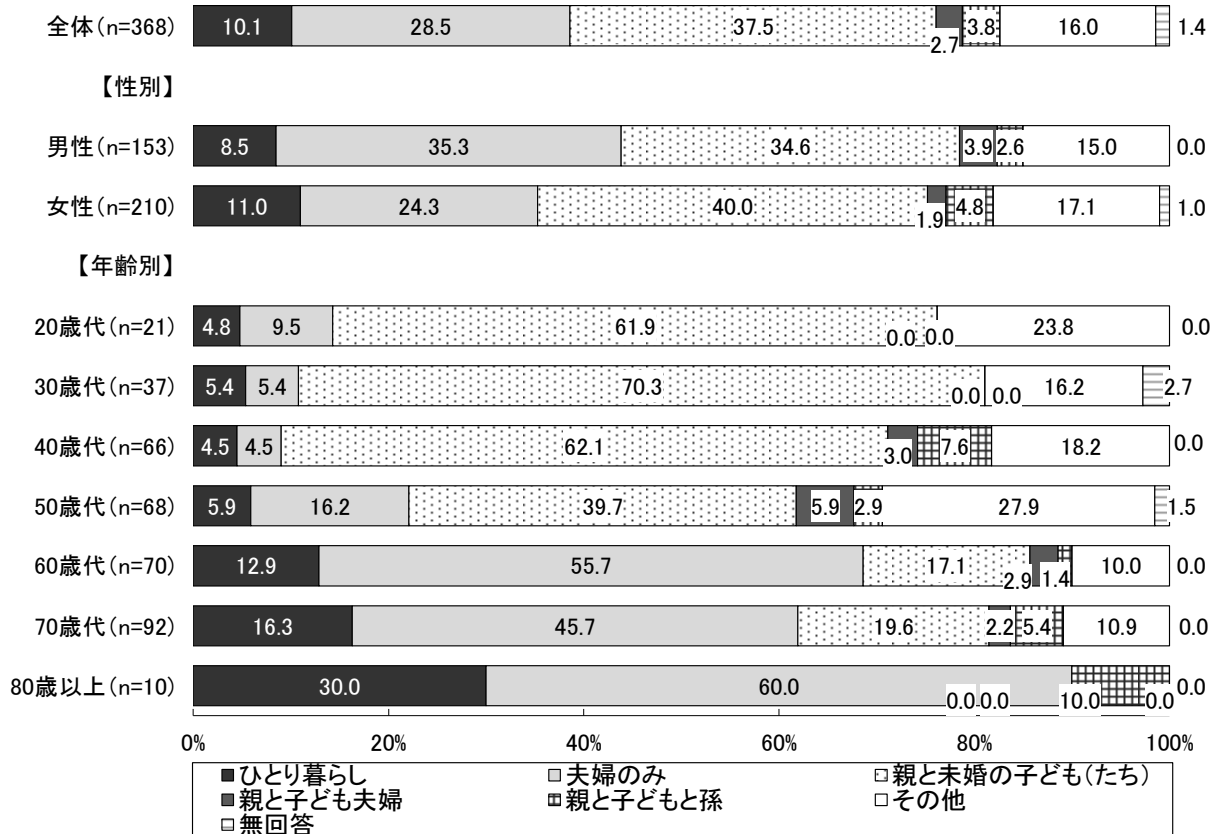


問5 あなたの現在の家族構成はどれですか。(〇は1つ)

「親と未婚の子ども(たち)」が37.5%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が28.5%、「その他」が16.0%となっています。

性別にみると、男性で「夫婦のみ」が35.3%と、女性に比べて11.0ポイント高くなっています。

年齢別にみると、40歳代以下で「親と未婚の子ども(たち)」が6割を超えています。また、60歳代以上で「夫婦のみ」が4割半ばを超えて、80歳以上で「ひとり暮らし」が30.0%と、他に比べて高くなっています。

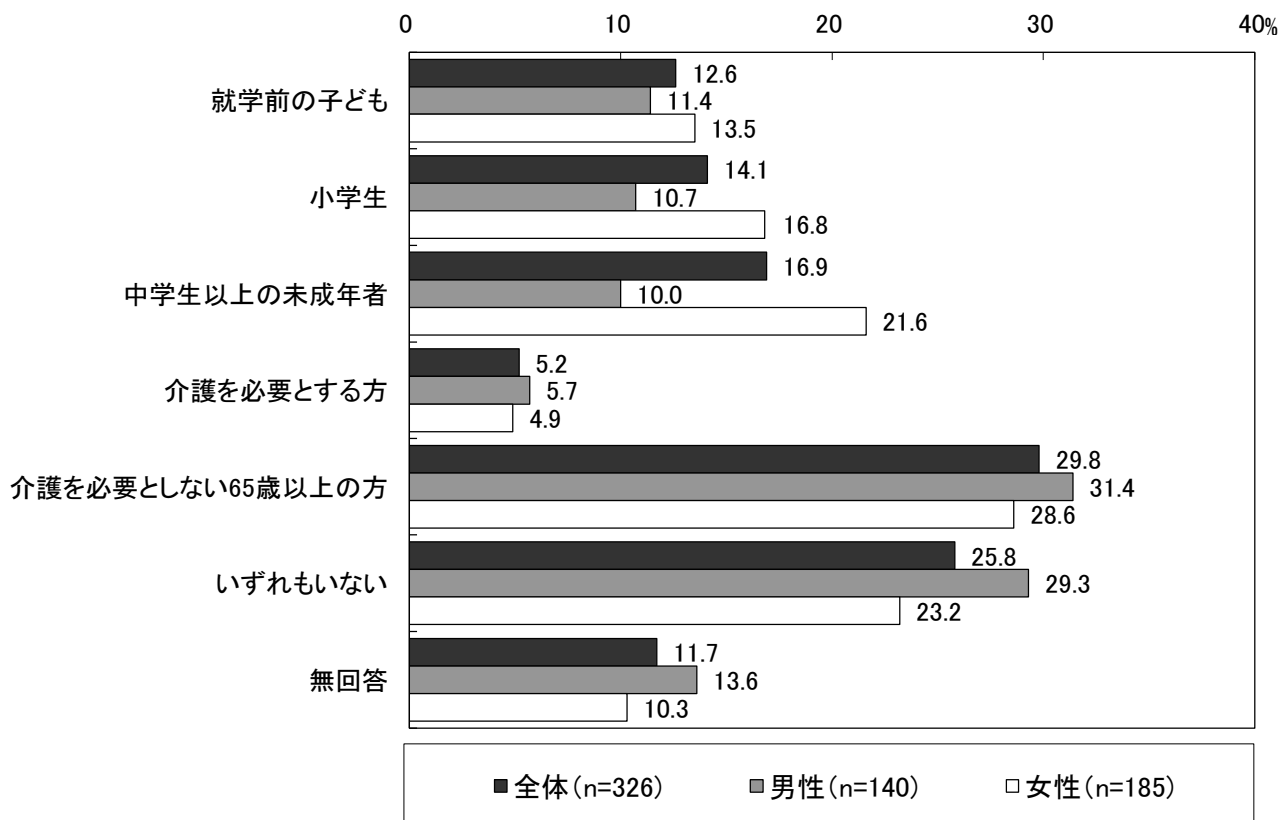


問5で「2」～「6」（誰かと同居している）とお答えの方にお聞きします。

問6 あなたは次の方と同居していますか。あなた以外の方についてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

「介護を必要としない65歳以上の方」が29.8%と最も高く、次いで「いずれもない」が25.8%、「中学生以上の未成年者」が16.9%となっています。

性別にみると、女性で「中学生以上の未成年者」が21.6%と、男性に比べて11.6ポイント高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、30歳代で「就学前の子ども」が、20・50歳代、80歳以上で「いずれもない」が、40歳代で「中学生以上の未成年者」が、それぞれ最も高くなっています。

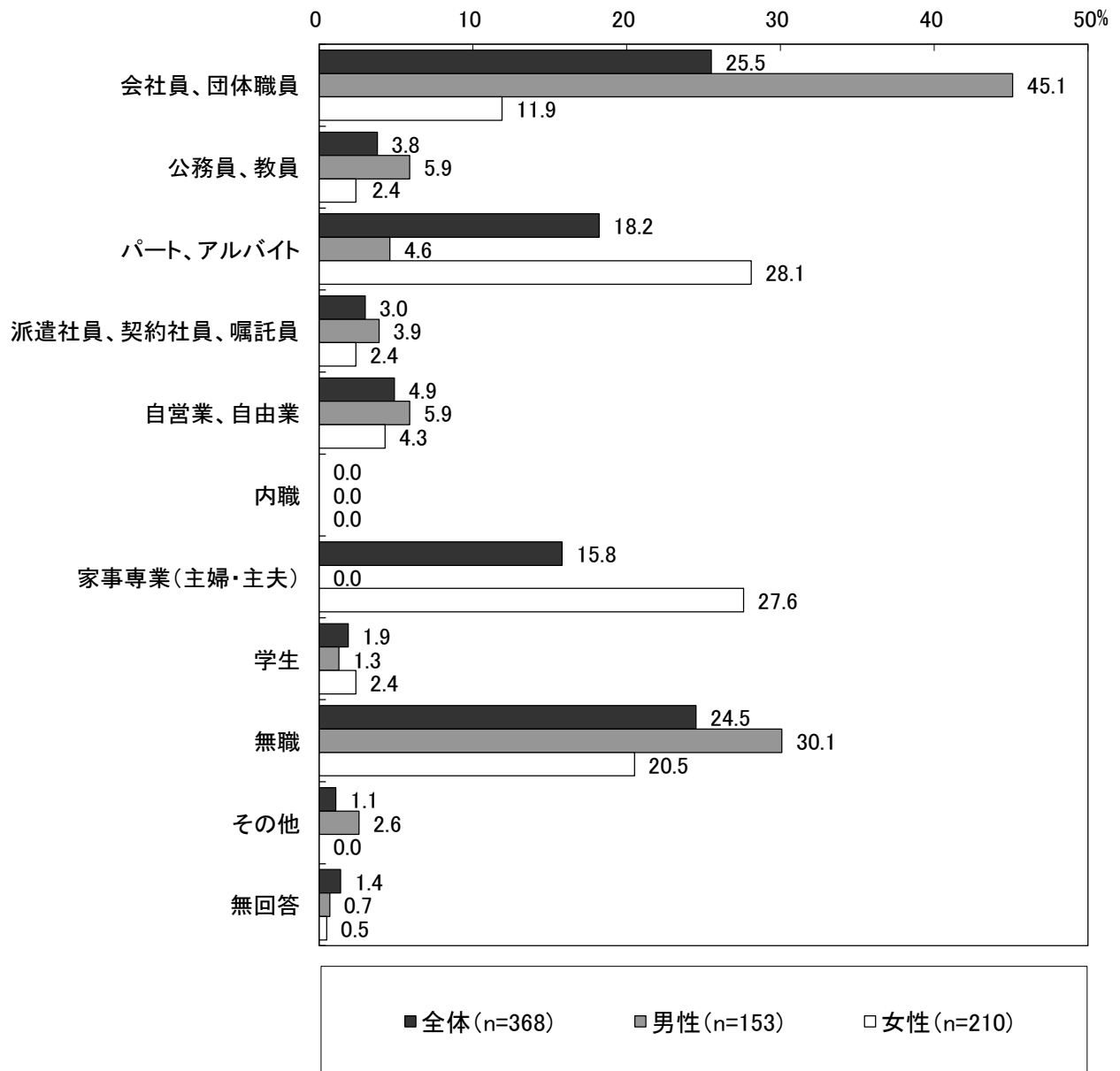
また、40歳代では「小学生」、「中学生以上の未成年者」、「介護を必要としない65歳以上の方」いずれも3割台となっています。

	合計	就学前の子ども	小学生	中学生以上の未成年者	介護を必要とする方	介護を必要としない65歳以上の方	いずれもない	無回答
【年齢別】								
20歳代	20	15.0	0.0	15.0	5.0	10.0	50.0	5.0
30歳代	34	61.8	44.1	8.8	2.9	8.8	17.6	0.0
40歳代	63	20.6	33.3	39.7	3.2	31.7	3.2	4.8
50歳代	63	4.8	6.3	27.0	3.2	20.6	41.3	4.8
60歳代	61	1.6	0.0	0.0	3.3	44.3	34.4	18.0
70歳代	77	0.0	7.8	7.8	10.4	40.3	22.1	22.1
80歳以上	7	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	28.6	42.9

問7 あなたのご職業をお答えください。(〇は1つ)

「会社員、団体職員」が25.5%と最も高く、次いで「無職」が24.5%、「パート、アルバイト」が18.2%となっています。

性別にみると、男性で「会社員、団体職員」が45.1%と、女性に比べて33.2ポイント高く、「無職」が30.1%と、女性に比べて9.6ポイント高くなっています。また女性で「パート、アルバイト」「家事専業(主婦・主夫)」が、男性に比べて20ポイント以上高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、男性の20歳代で「会社員、団体職員」と「公務員、教員」が、男性の30・40・50歳代で「会社員、団体職員」が、男性の60歳以上と女性の70歳以上で「無職」が、女性の20歳代で「学生」が、女性の30・40・50歳代で「パート、アルバイト」が、女性の30・60歳代で「家事専業（主婦・主夫）」がそれぞれ最も高くなっています。

	合計	会社員、 団体職員	公務員、 教員	パート、 アルバイト	派遣社員、 契約社員、 嘱託員	自営業、 自由業	内職	家事専業 (主婦・主夫)	学生	無職	その他	無回答
【年齢別・男性】												
20歳代	8	37.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	16	75.0	18.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0
40歳代	27	85.2	3.7	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	7.4	0.0	0.0
50歳代	33	57.6	6.1	3.0	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	3.0	9.1	3.0
60歳代	28	28.6	0.0	14.3	7.1	10.7	0.0	0.0	0.0	35.7	3.6	0.0
70歳代	39	10.3	0.0	5.1	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	76.9	0.0	0.0
80歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
【年齢別・女性】												
20歳代	13	30.8	0.0	23.1	0.0	0.0	0.0	7.7	38.5	0.0	0.0	0.0
30歳代	21	14.3	4.8	33.3	0.0	4.8	0.0	33.3	0.0	9.5	0.0	0.0
40歳代	39	28.2	5.1	43.6	5.1	2.6	0.0	10.3	0.0	5.1	0.0	0.0
50歳代	35	20.0	2.9	34.3	5.7	8.6	0.0	22.9	0.0	2.9	0.0	2.9
60歳代	42	0.0	2.4	31.0	2.4	7.1	0.0	45.2	0.0	11.9	0.0	0.0
70歳代	52	0.0	0.0	11.5	0.0	1.9	0.0	32.7	0.0	53.8	0.0	0.0
80歳以上	8	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	62.5	0.0	0.0

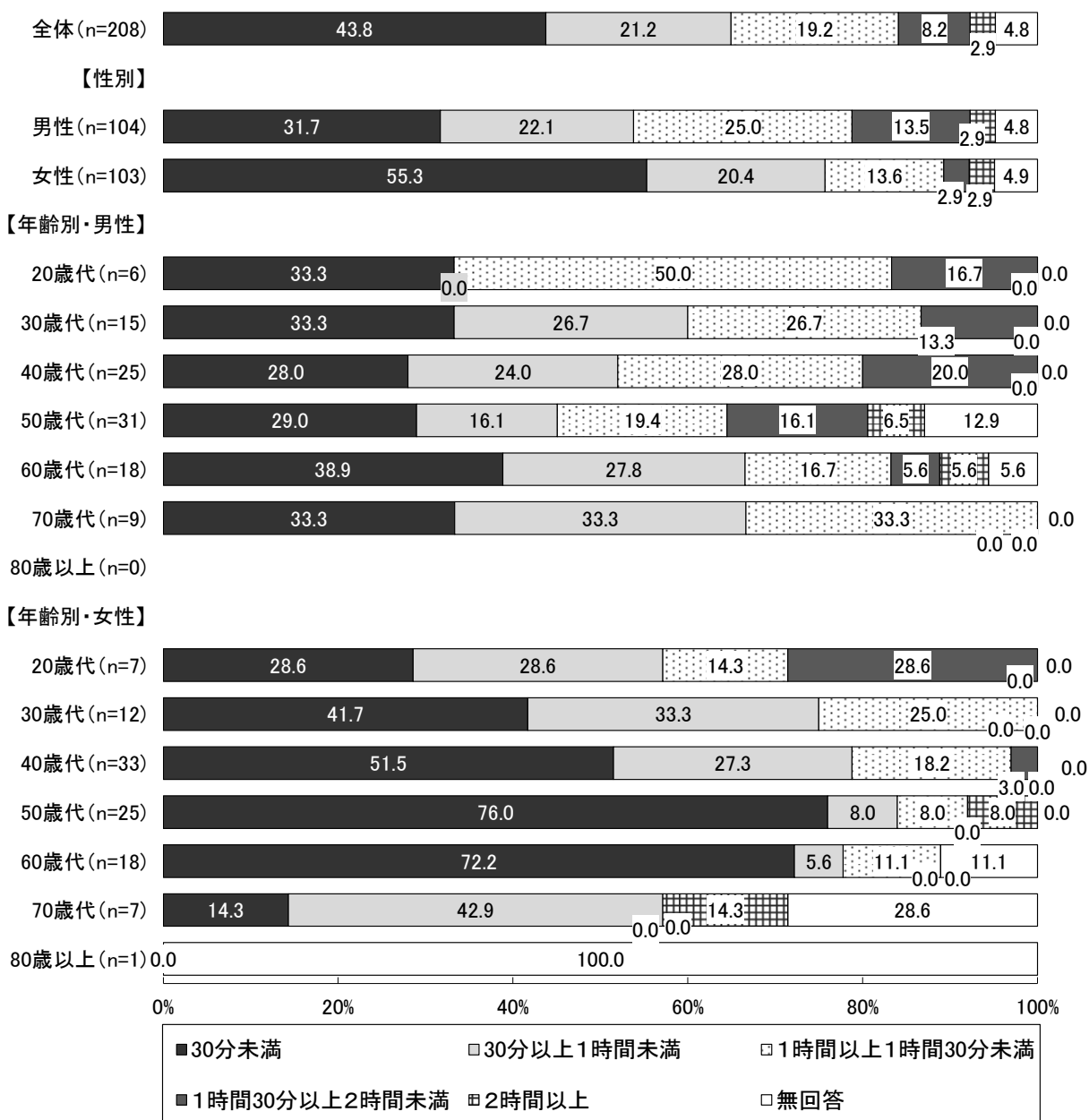
問7で「1」「2」「3」「4」「5」「10」のいずれか（自宅外で働いている）をお答えの方にお聞きします。

問8 あなたのお勤め先までの所要時間はどのくらいですか。（〇は1つ）

「30分未満」が43.8%と最も高く、次いで「30分以上1時間未満」が21.2%、「1時間以上1時間30分未満」が19.2%となっています。

性別にみると、女性で「30分未満」が55.3%と、男性に比べて23.6ポイント高く、男性で「1時間以上1時間30分未満」が25.0%と、女性に比べて11.4ポイント高くなっています。

年齢別にみると、男性の20歳代で「1時間以上1時間30分未満」が50.0%、女性の50・60歳代で「30分未満」が7割を超えており、他に比べて高くなっています。また、女性の70歳代で「2時間以上」が14.3%と、やや高くなっています。

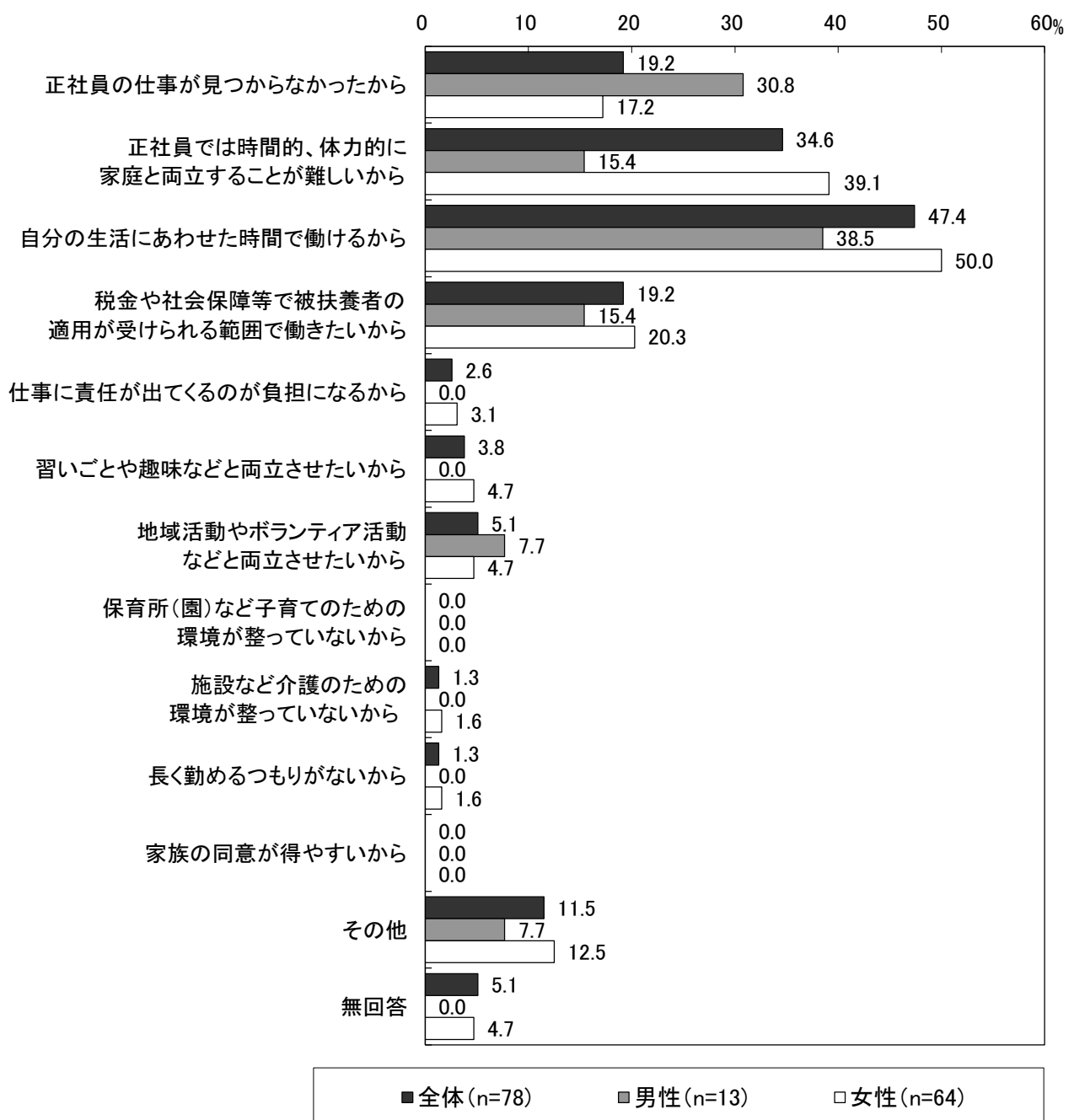


問7で「3」「4」「6」のいずれか（パート、アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託員、内職の方）をお答えの方にお聞きします。

問9 あなたが、パート、アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託員、内職のいずれかの働き方を選んでいる理由は何ですか。（〇は2つまで）

「自分の生活にあわせた時間で働けるから」が47.4%、次いで「正社員では時間的、体力的に家庭と両立することが難しいから」が34.6%、「正社員の仕事が見つからなかったから」「税金や社会保障等で被扶養者の適用が受けられる範囲で働きたいから」がそれぞれ19.2%となっています。

性別にみると、男性で「正社員の仕事が見つからなかったから」が30.8%と、女性に比べて13.6ポイント高く、女性で「正社員では時間的、体力的に家庭と両立することが難しいから」が39.1%と、男性に比べて23.7ポイント高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、男性の40歳代で「地域活動やボランティア活動などと両立させたいから」が、50歳代で「正社員の仕事が見つからなかったから」が、60歳代で「正社員の仕事が見つからなかったから」「正社員では時間的、体力的に家庭と両立することが難しいから」「自分の生活にあわせた時間で働けるから」が、70歳代で「自分の生活にあわせた時間で働けるから」が最も高くなっています。

また、女性の20歳代で「正社員では時間的、体力的に家庭と両立することが難しいから」「自分の生活にあわせた時間で働けるから」「習い事や趣味などと両立させたいから」「施設など介護のための環境が整っていないから」「その他」が、30・60・70歳代で「自分の生活にあわせた時間で働けるから」が、40・50歳代で「正社員では時間的、体力的に家庭と両立することが難しいから」が最も高くなっています。

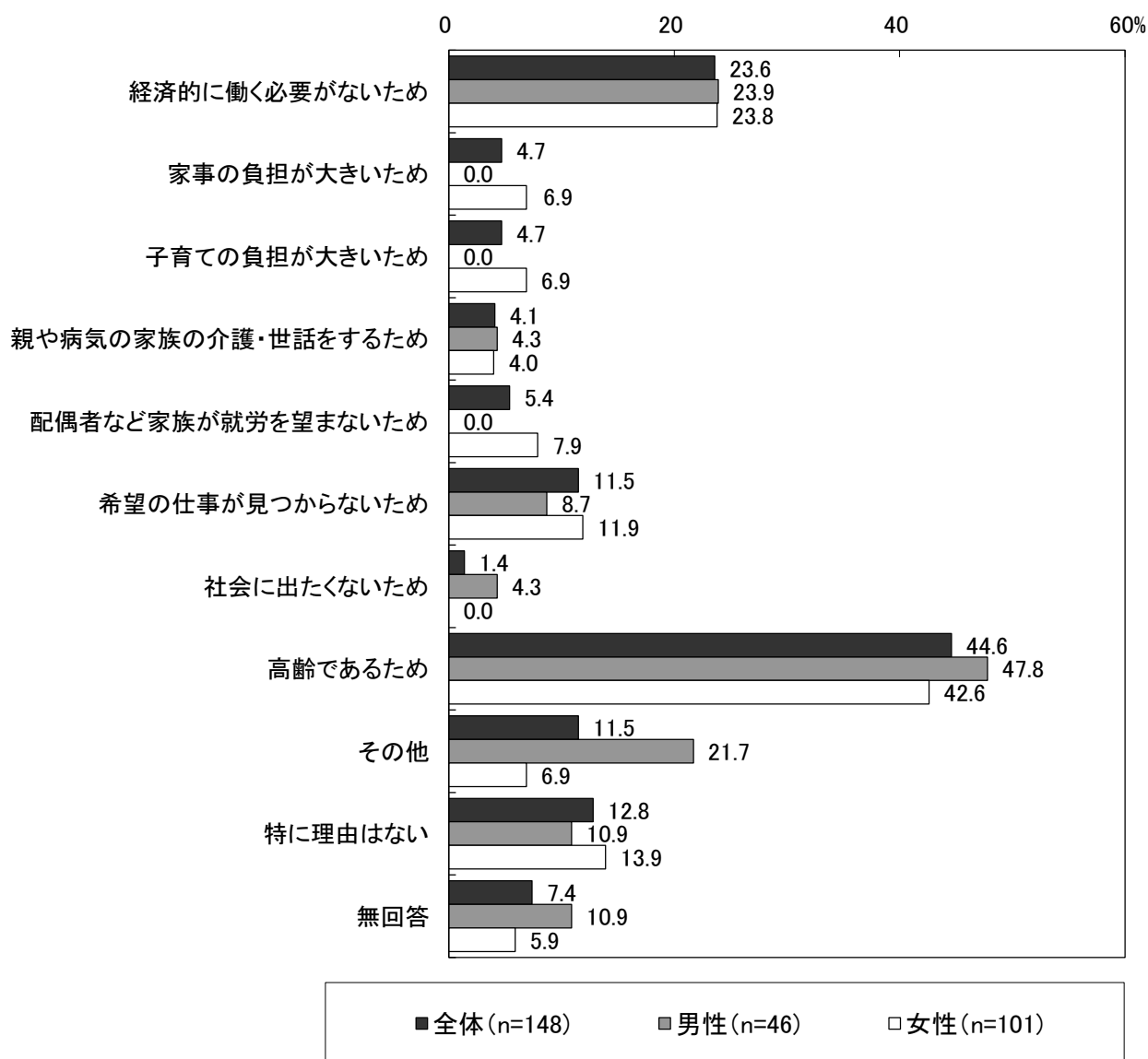
	合計	から 正社員の 仕事が見つ からなかつ た	正社員 では時間 的、体力的 に家庭 と両立す ることが 難しいか ら	自 分の生 活にあ わせた 時間 で働 ける から	税 金や 社会 保 障 等 で 被 扶 養 者 の 適 用 が 受 け ら れ る 範 囲 で 働 き た い か ら	仕 事 に 責 任 が 出 て く る の が 負 担 に な る か ら	習 い ご と や 趣 味 な ど と 両 立 さ せ た い か ら	地 域 活 動 や ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 な ど と 両 立 さ せ た い か ら	保 育 所 （ 園 ） な ど 子 育 て の た め の 環 境 が 整 っ て い な い か ら	施 設 な ど 介 護 の た め の 環 境 が 整 っ て い な い か ら	長 く 勤 め る つ も り が な い か ら	家 族 の 同 意 が 得 や す い か ら	そ の 他	無 回 答	
【年齢別・男性】															
20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50歳代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60歳代	6	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	
70歳代	5	20.0	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
80歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
【年齢別・女性】															
20歳代	3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	
30歳代	7	0.0	28.6	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	
40歳代	19	15.8	52.6	47.4	21.1	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0	
50歳代	14	28.6	57.1	50.0	28.6	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	
60歳代	14	28.6	21.4	50.0	14.3	7.1	7.1	14.3	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	7.1	
70歳代	6	0.0	16.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	
80歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

問7で「7」「9」のいずれか（家事専業（主婦・主夫）、無職の方）をお答えの方にお聞きします。

問10 あなたが家事専業（主婦・主夫）、無職を選んでいる理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「高齢であるため」が44.6%と最も高く、次いで「経済的に働く必要がないため」が23.6%、「特に理由はない」が12.8%となっています。

性別にみると、女性で「家事の負担が大きい」「子育ての負担が大きい」「配偶者など家族が就労を望まないため」が男性に比べてやや高く、男性で「その他」が21.7%と、女性に比べて14.8ポイント高くなっています。



【年齢別】

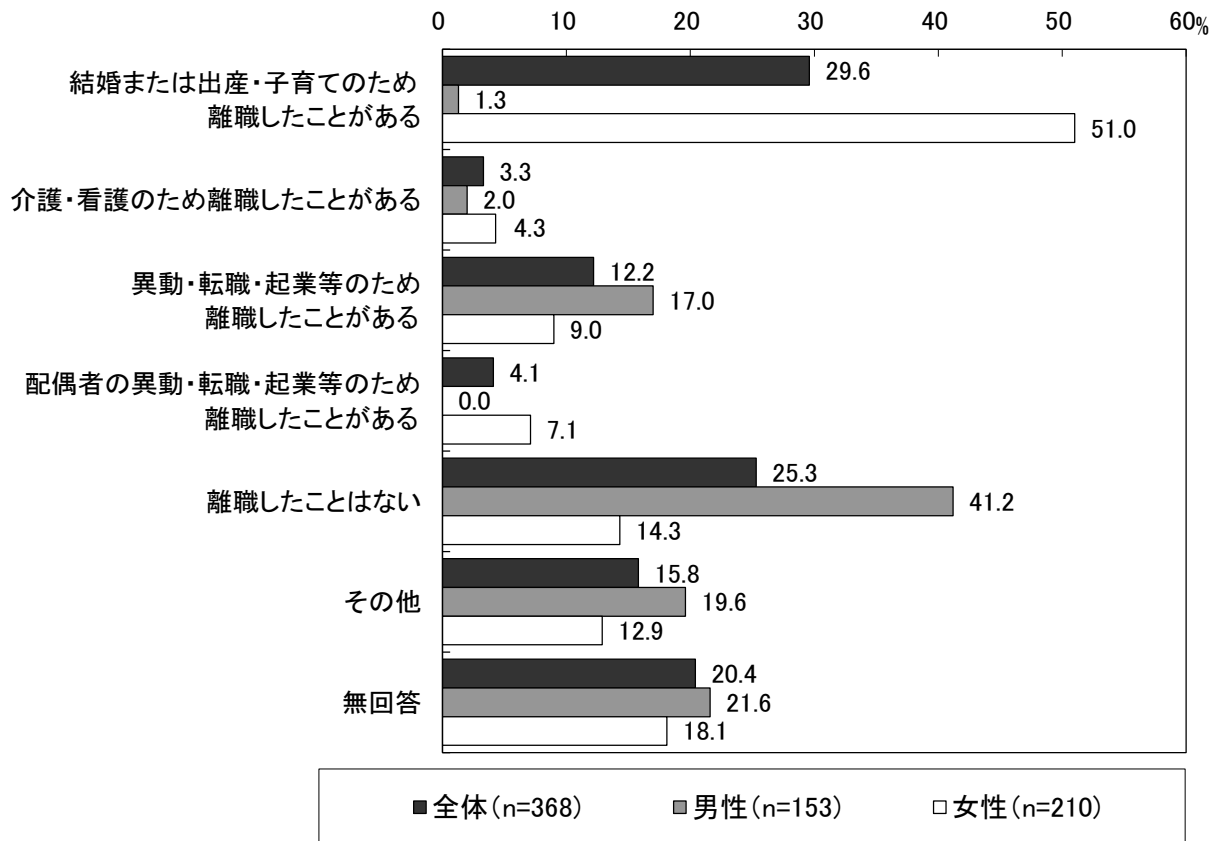
年齢別にみると、男性の30歳代で「希望の仕事が見つからないため」「その他」が、40歳代で「その他」が、60歳代で「経済的に働く必要がないため」「高齢であるため」「特に理由はない」が、70歳代で「高齢であるため」が、80歳以上で「経済的に働く必要がないため」「高齢であるため」が最も高くなっています。女性の20・30歳代で「子育ての負担が大きいため」が、40歳代で「希望の仕事が見つからないため」が、50歳代で、「経済的に働く必要がないため」「家事の負担が大きいため」「特に理由はない」が、60歳代で「経済的に働く必要がないため」が、70歳代以上で「高齢であるため」が最も高くなっています。

	合計	経済的に働く必要がないため	家事の負担が大きいため	子育ての負担が大きいため	親や病気の家族の介護・世話をす るため	配偶者など家族が就労を望まない ため	希望の仕事が見つからないため	社会に出たくないため	高齢であるため	その他	特に理由はない	無回答
【年齢別・男性】												
20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
40歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	100.0	0.0	0.0
50歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
60歳代	10	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	30.0	20.0	30.0	0.0
70歳代	30	23.3	0.0	0.0	6.7	0.0	10.0	0.0	60.0	16.7	6.7	10.0
80歳以上	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
【年齢別・女性】												
20歳代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	9	11.1	22.2	55.6	0.0	11.1	44.4	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0
40歳代	6	33.3	0.0	16.7	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
50歳代	9	22.2	22.2	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1	22.2	11.1
60歳代	24	45.8	8.3	0.0	8.3	12.5	12.5	0.0	16.7	16.7	29.2	4.2
70歳代	45	17.8	2.2	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0	73.3	0.0	8.9	6.7
80歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	85.7	0.0	0.0	14.3

問11 離職の経験と、その理由についてお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）

「結婚または出産・子育てのため離職したことがある」が29.6%と最も高く、次いで「離職したことはない」が25.3%、「その他」が15.8%となっています。

性別にみると、女性で「結婚または出産・子育てのため離職したことがある」が51.0%と、男性に比べて49.7ポイント高く、男性で「離職したことはない」が41.2%と、女性に比べて26.9ポイント高くなっています。



【年齢別】

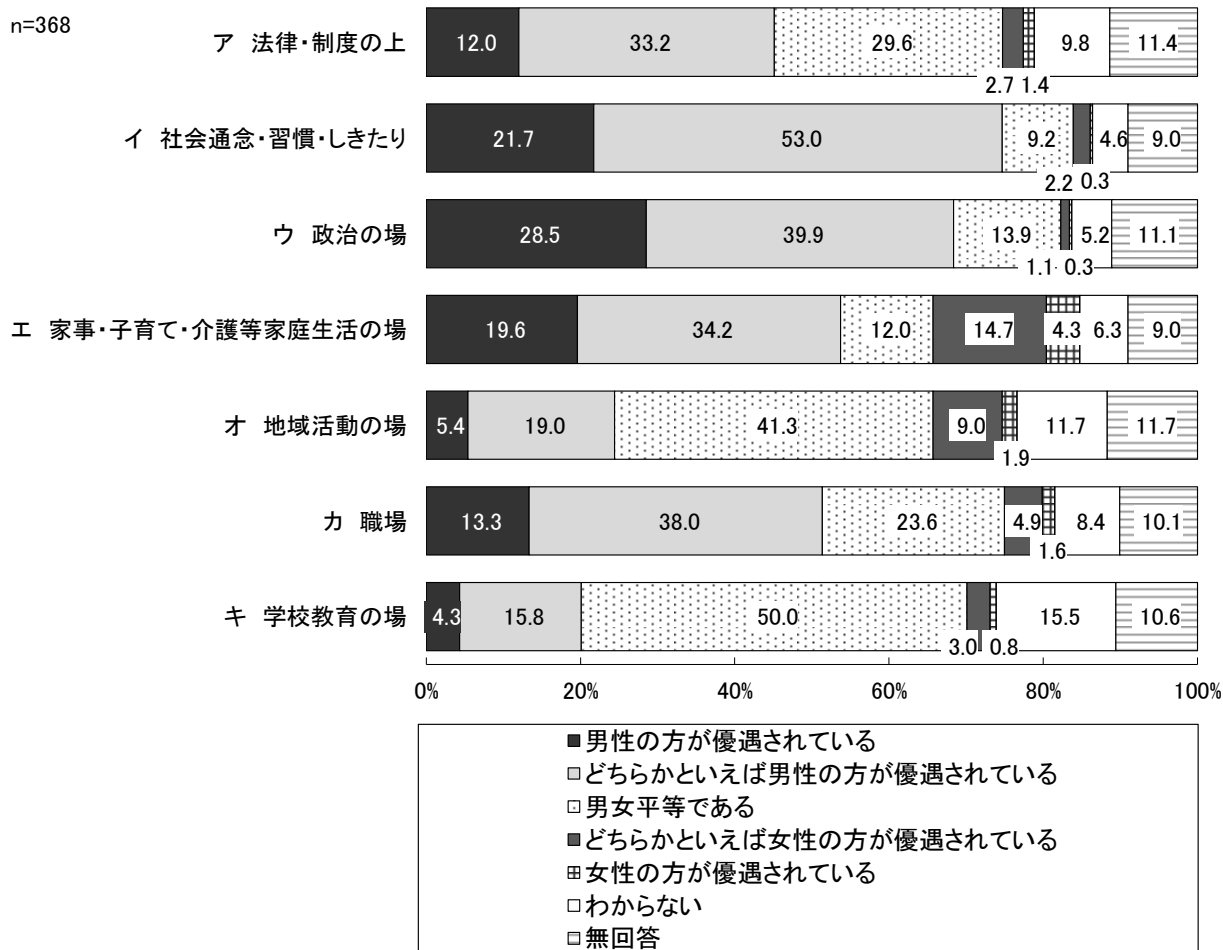
年齢別にみると、男性の40歳代で「異動・転職・起業等のため離職したことがある」が37.0%、80歳以上で「その他」が50.0%、女性の20歳代・80歳以上で「離職したことはない」が3割台後半を超えており、他に比べて高くなっています。

	合計	が ある	結 婚 た ま た は 出 産 ・ 子 育 た め の 離 職 し た こ と	介 護 ・ 看 護 の た め の 離 職 し た こ と が あ る	異 動 ・ 転 職 し た こ と が あ る	起 業 等 の た め の 離 職 し た こ と が あ る	配 偶 者 の 異 動 ・ 転 職 し た こ と が あ る	離 職 し た こ と は な い	そ の 他	無 回 答
【年齢別・男性】										
20歳代	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0
30歳代	16	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	6.3	18.8
40歳代	27	0.0	0.0	37.0	0.0	0.0	0.0	37.0	11.1	14.8
50歳代	33	6.1	0.0	12.1	0.0	0.0	0.0	33.3	21.2	30.3
60歳代	28	0.0	3.6	21.4	0.0	0.0	0.0	32.1	28.6	17.9
70歳代	39	0.0	5.1	5.1	0.0	0.0	0.0	48.7	20.5	25.6
80歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
【年齢別・女性】										
20歳代	13	7.7	7.7	23.1	0.0	0.0	0.0	46.2	7.7	23.1
30歳代	21	71.4	0.0	19.0	4.8	0.0	0.0	9.5	9.5	0.0
40歳代	39	53.8	0.0	7.7	17.9	0.0	0.0	15.4	12.8	15.4
50歳代	35	51.4	5.7	14.3	8.6	0.0	0.0	14.3	14.3	17.1
60歳代	42	59.5	7.1	7.1	9.5	0.0	0.0	9.5	16.7	14.3
70歳代	52	46.2	3.8	1.9	0.0	0.0	0.0	7.7	11.5	32.7
80歳以上	8	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5	12.5	0.0

2 男女共同参画に関する意識について

問12 次のような場で男女が平等になっていると思いますか。あなたの感じ方に最も近いものを選んでください。(ア～キまでそれぞれ〇は1つ)

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性優遇”では、【社会通念・習慣・しきたり】が74.7%と最も高く、次いで【政治の場】が68.4%、【家事・子育て・介護等家庭生活の場】が53.8%となっています。また、“男女平等”では、【学校教育の場】が50.0%、【地域活動の場】が41.3%となっています。

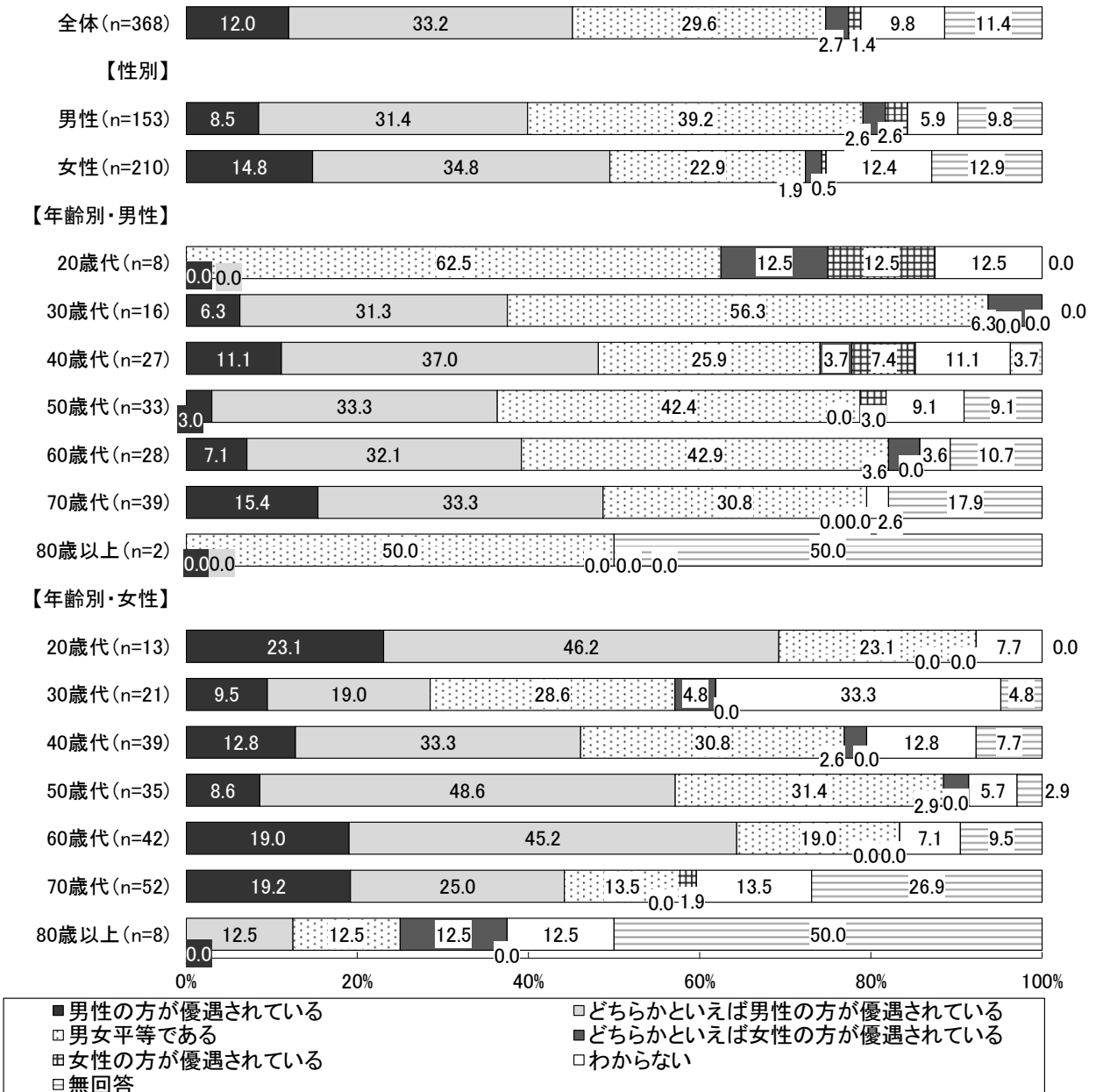


ア 法律・制度の上

“男性優遇”が45.2%と、“男女平等”の29.6%と“女性優遇”の4.1%を上回っています。

性別にみると、女性で“男性優遇”が49.6%と、男性に比べて9.7ポイント高くなっています。

年齢別にみると、女性の20・50・60歳代で“男性優遇”が5割を超えて高くなっています。また、男性の20・30歳代・80歳以上で“男女平等”が5割以上と高くなっています。

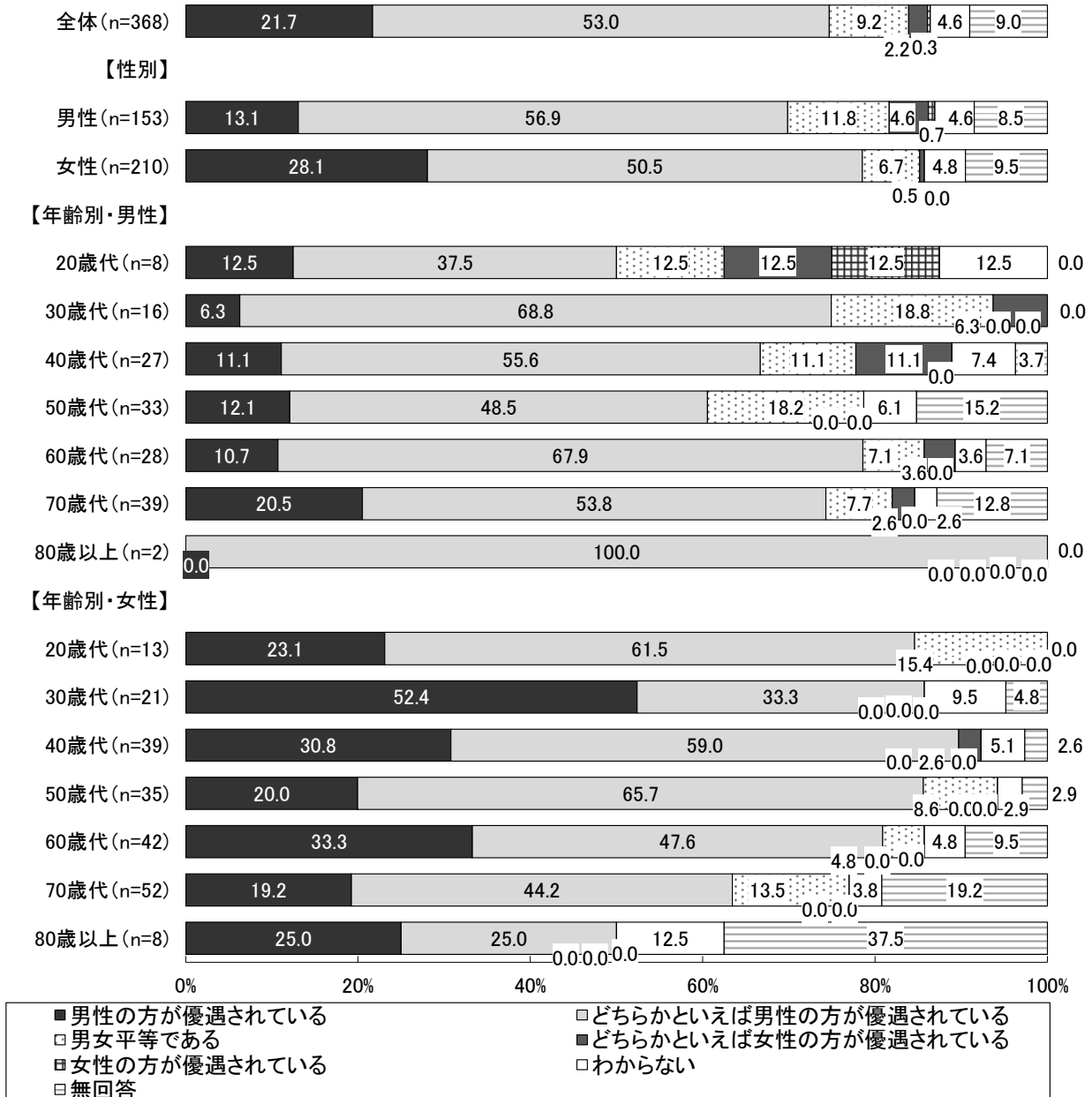


イ 社会通念・習慣・しきたり

“男性優遇”が74.7%と、“男女平等”の9.2%と“女性優遇”の2.5%を上回っています。

性別にみると、女性で“男性優遇”が78.6%と、男性に比べて8.6ポイント高くなっています。

年齢別にみると、男性の80歳以上と女性の60歳代以下で“男性優遇”が8割を超えて特に高くなっています。

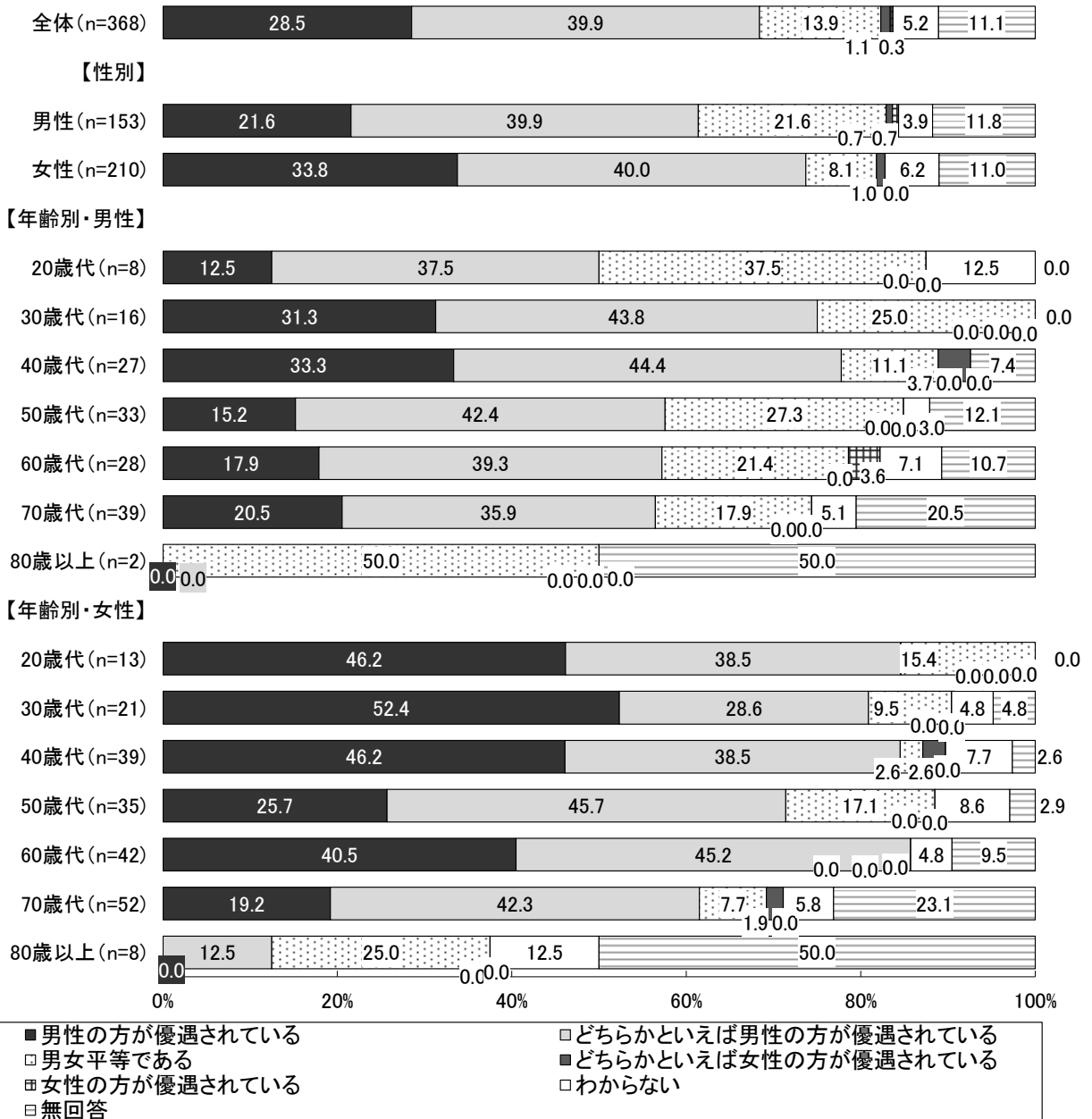


ウ 政治の場

“男性優遇”が68.4%と、“男女平等”の13.9%と“女性優遇”の1.4%を上回っています。

性別にみると、女性で“男性優遇”が73.8%と、男性に比べて12.3ポイント高くなっています。

年齢別にみると、男性の30・40歳代、女性の60歳代以下で“男性優遇”が7割を超えて特に高くなっています。また、男女ともに80歳以上で“男女平等”が“男性優遇”を上回っています。

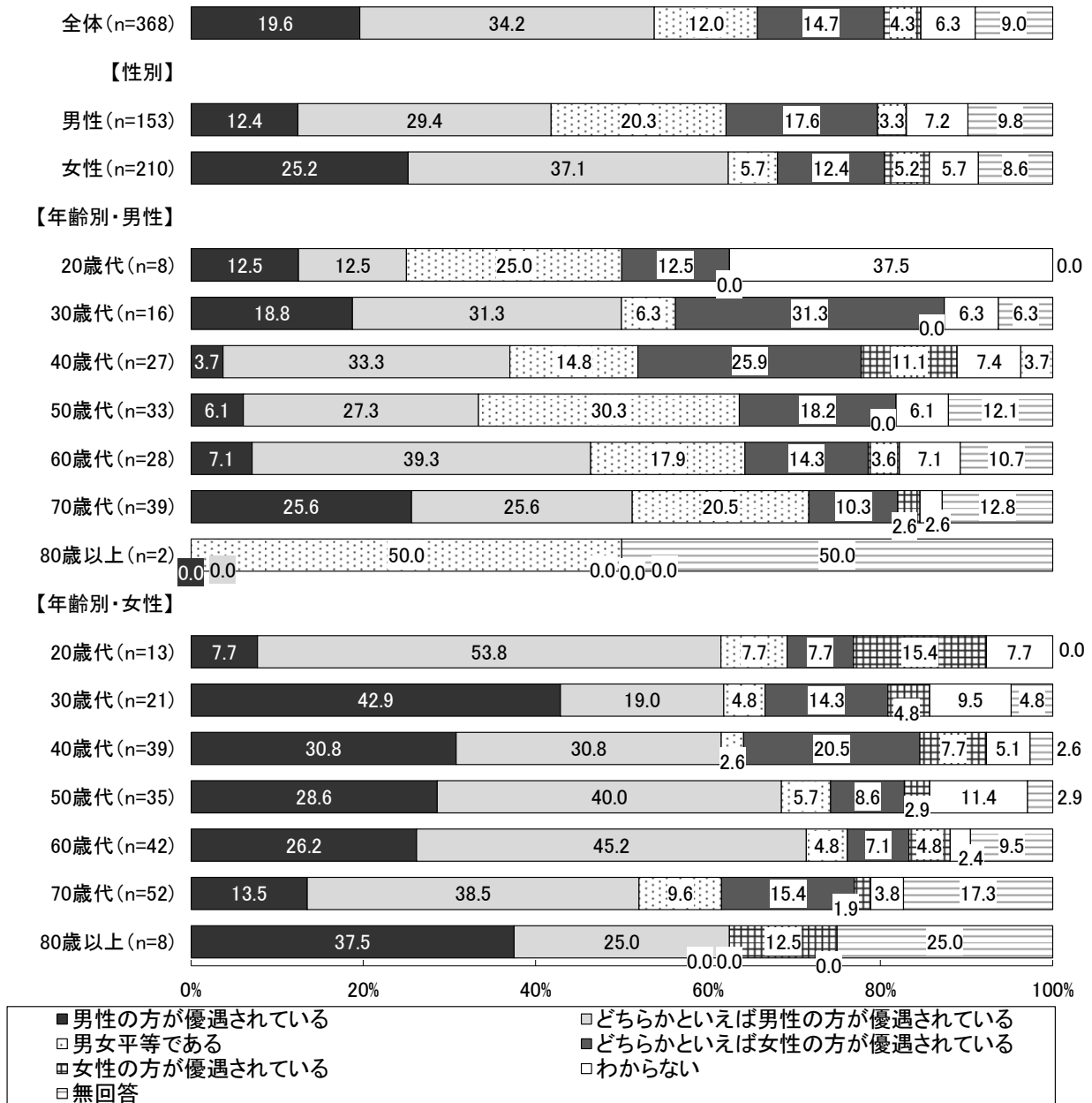


エ 家事・子育て・介護等家庭生活の場

“男性優遇”が53.8%と、“男女平等”の12.0%と“女性優遇”の19.0%を上回っています。

性別にみると、女性で“男性優遇”が62.3%と、男性に比べて20.5ポイント高くなっています。

年齢別にみると、男性の20歳代で“男性優遇”と“男女平等”がそれぞれ25.0%、40歳代で“男性優遇”と“女性優遇”がそれぞれ37.0%、80歳以上で“男女平等”が50.0%と最も高くなっている一方、女性ではすべての年齢で“男性優遇”が5割を超えています。



オ 地域活動の場

“男女平等”が41.3%と、“男性優遇”の24.4%と“女性優遇”の10.9%を上回っています。

性別にみると、男性で“男女平等”が49.0%と、女性に比べて13.3ポイント高くなっています。

年齢別にみると、男性の20歳代で“男女平等”と“女性優遇”がそれぞれ25.0%、女性の40歳代で“男性優遇”と“男女平等”がそれぞれ30.8%、80歳以上で“男性優遇”が25.0%と最も高くなっています。

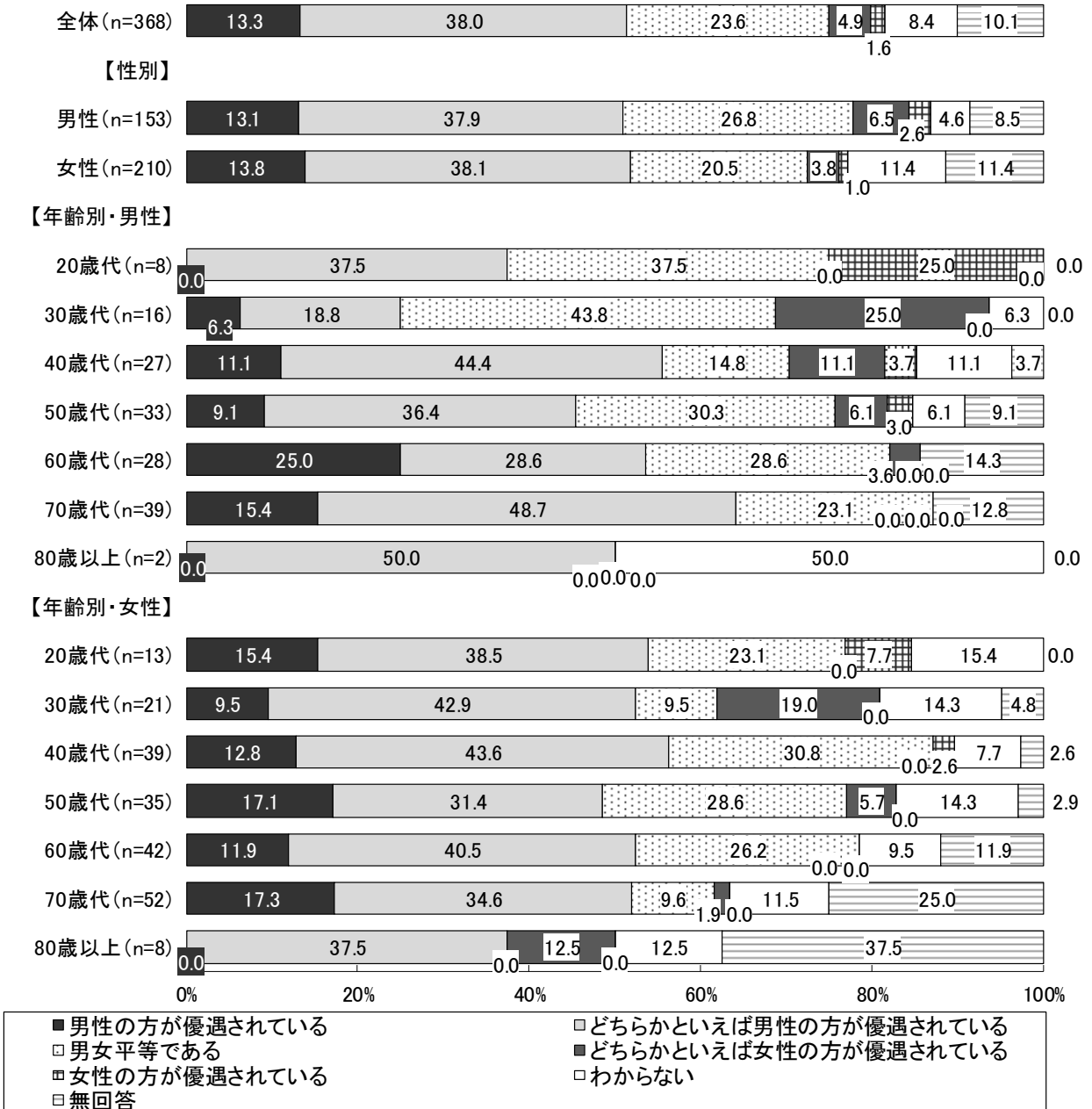


カ 職場

“男性優遇”が51.3%と、男女平等の23.6%と女性優遇の6.5%を上回っています。

性別にみると、男性で“男女平等”が26.8%と、女性に比べて6.3ポイント高くなっています。

年齢別にみると、男性の20・30歳代で“男女平等”が3割半ばを超えて、“女性優遇”が2割半ばを超えており、他に比べて高くなっています。

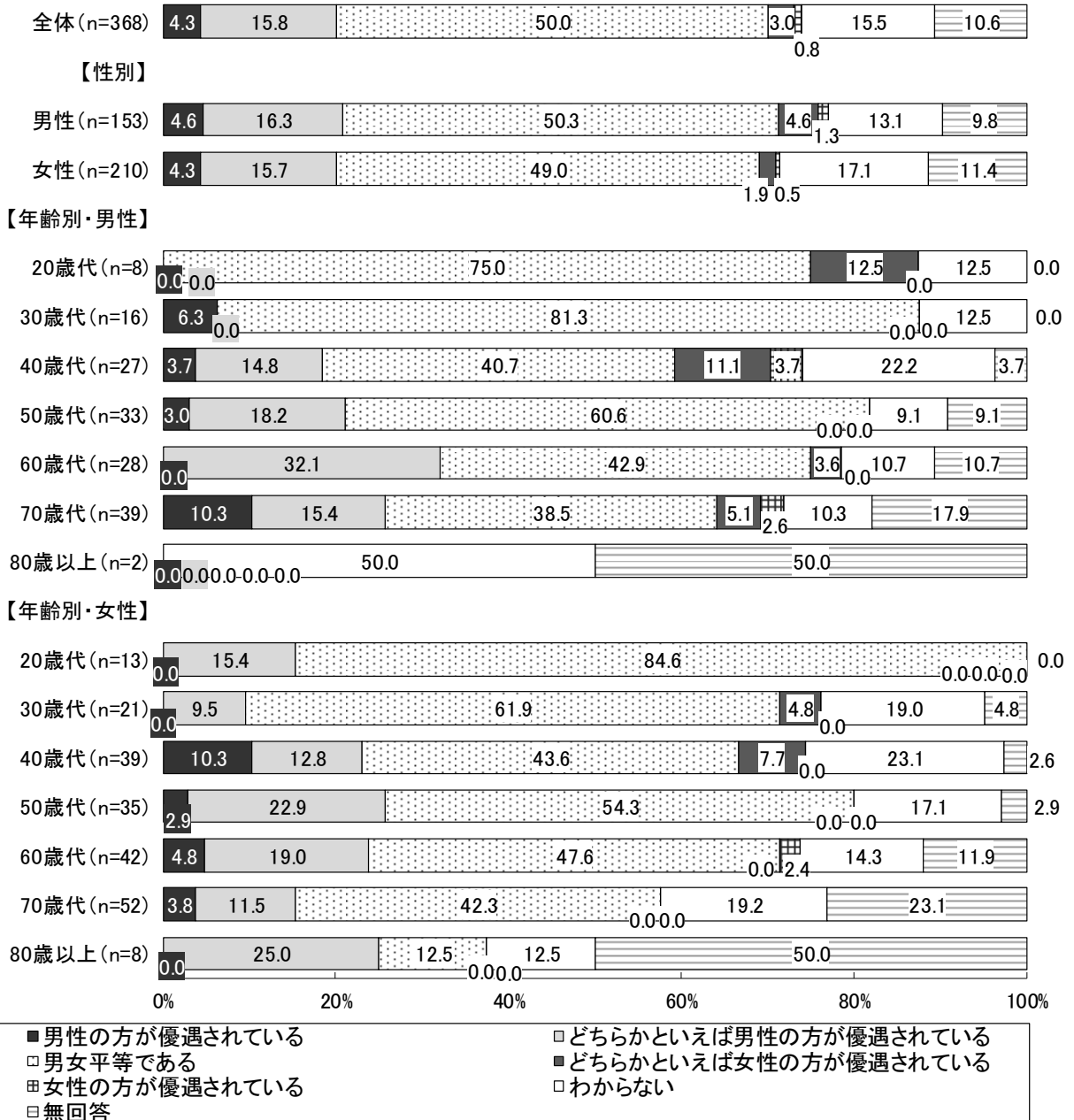


キ 学校教育の場

“男女平等”が50.0%と、“男性優遇”の20.1%と“女性優遇”の3.8%を上回っています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

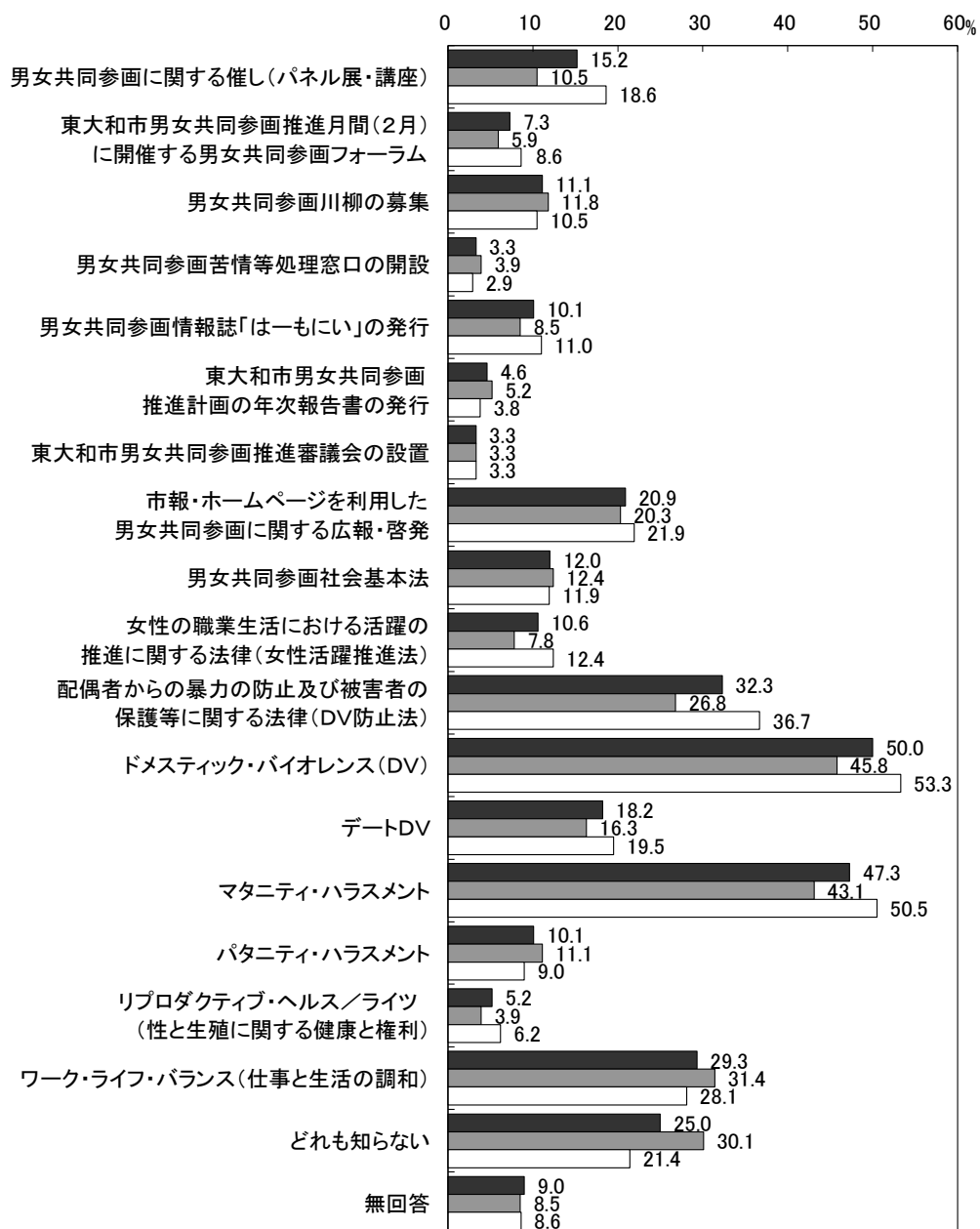
年齢別にみると、男性の20・30・50歳代と女性の20・30歳代で“男女平等”が6割を超えて特に高くなっています。また、女性の80歳以上では“男性優遇”が25.0%と、最も高くなっています。



問13 次の東大和市が男女共同参画推進のために行っている事業や男女共同参画に関する用語について、あなたが知っているものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「ドメスティック・バイオレンス(DV)」が50.0%と最も高く、次いで「マタニティ・ハラスメント」が47.3%、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)」が32.3%となっています。

性別にみると、女性で「男女共同参画に関する催し(パネル展・講座)」「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)」、「ドメスティック・バイオレンス(DV)」、「マタニティ・ハラスメント」が男性に比べてやや高く、男性で「どれも知らない」が30.1%と、女性に比べて8.7ポイント高くなっています。



■ 全体(n=368) ■ 男性(n=153) □ 女性(n=210)

【年齢別】

年齢別にみると、男性の80歳以上で「市報・ホームページを利用した男女共同参画に関する広報・啓発」「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」「デートDV」「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」がいずれも50.0%、男性の20歳代で「男女共同参画社会基本法」「ドメスティック・バイオレンス（DV）」「マタニティ・ハラスメント」「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」が5割を超えて、男性の30歳代で「どれも知らない」が62.5%と、他に比べて高くなっています。

	合計	男女共同参画に関する催し（パネル展・講座）	東大和市男女共同参画推進月間（2月）に開催する男女共同参画フォーラム	男女共同参画川柳の募集	男女共同参画苦情等処理窓口の開設	男女共同参画情報誌「はーもにい」の発行	東大和市男女共同参画推進計画の年次報告書の発行	東大和市男女共同参画推進審議会の設置	市報・ホームページを利用した男女共同参画に関する広報・啓発	男女共同参画社会基本法	女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）
【年齢別・男性】											
20歳代	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	12.5
30歳代	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3
40歳代	27	7.4	0.0	3.7	0.0	3.7	0.0	0.0	7.4	11.1	18.5
50歳代	33	6.1	12.1	18.2	6.1	18.2	9.1	6.1	18.2	9.1	3.0
60歳代	28	10.7	3.6	3.6	0.0	0.0	7.1	3.6	25.0	14.3	7.1
70歳代	39	23.1	10.3	25.6	10.3	15.4	7.7	5.1	38.5	10.3	5.1
80歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
【年齢別・女性】											
20歳代	13	15.4	0.0	7.7	0.0	7.7	7.7	7.7	23.1	30.8	23.1
30歳代	21	4.8	9.5	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5
40歳代	39	15.4	2.6	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	10.3	20.5	17.9
50歳代	35	22.9	5.7	14.3	5.7	11.4	0.0	2.9	25.7	5.7	14.3
60歳代	42	21.4	11.9	14.3	2.4	14.3	4.8	4.8	31.0	11.9	9.5
70歳代	52	25.0	15.4	13.5	5.8	15.4	9.6	5.8	28.8	11.5	7.7
80歳以上	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	12.5
	合計	法律（DV防止法）及び配偶者からの暴力の防止に関する	ドメスティック・バイオレンス（DV）	デートDV	マタニティ・ハラスメント	パタニティ・ハラスメント	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	どれも知らない	無回答	
【年齢別・男性】											
20歳代	8	25.0	87.5	25.0	62.5	0.0	12.5	75.0	12.5	0.0	
30歳代	16	18.8	31.3	25.0	31.3	12.5	6.3	25.0	62.5	6.3	
40歳代	27	25.9	48.1	14.8	48.1	11.1	0.0	44.4	40.7	7.4	
50歳代	33	18.2	42.4	15.2	42.4	18.2	6.1	30.3	36.4	3.0	
60歳代	28	32.1	46.4	14.3	39.3	3.6	7.1	25.0	21.4	14.3	
70歳代	39	33.3	46.2	12.8	46.2	12.8	0.0	20.5	15.4	12.8	
80歳以上	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	
【年齢別・女性】											
20歳代	13	30.8	46.2	38.5	30.8	23.1	15.4	38.5	46.2	0.0	
30歳代	21	33.3	57.1	28.6	57.1	9.5	4.8	42.9	23.8	4.8	
40歳代	39	38.5	66.7	25.6	59.0	10.3	5.1	43.6	23.1	2.6	
50歳代	35	37.1	54.3	14.3	48.6	5.7	5.7	20.0	20.0	5.7	
60歳代	42	38.1	54.8	21.4	52.4	9.5	7.1	21.4	16.7	7.1	
70歳代	52	40.4	46.2	11.5	51.9	7.7	5.8	23.1	19.2	13.5	
80歳以上	8	12.5	25.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	50.0	

□■□用語について□■□

◆男女共同参画社会基本法

男女共同参画社会の形成に関し、基本理念を定め、並びに国、地方公共団体及び国民の責務を明らかにするとともに、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の基本となる事項を定めることにより、男女参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進することを目的として、平成 11 年に施行された。

◆配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV 防止法)

配偶者からの暴力に係る通報、相談、保護、自立支援等の体制を整備し、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図ることを目的として、平成 16 年に施行。「配偶者」には婚姻の届出をしていない「事実婚」を含むほか、性別を問わない。「暴力」は身体に対する暴力またはこれに準ずる心身に有害な影響を及ぼす言動を指す。また、離婚後の暴力を含んでいる。

◆女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)

平成 27 年8月に成立。これにより、平成 28 年4月1日から、労働者 301 人以上の大企業は、女性の活躍推進に向けた行動計画の策定などが義務付けられている。

◆ドメスティック・バイオレンス(DV)

配偶者やパートナー、恋人を含む親密な関係にある男女の間で起きる身体的、精神的、性的、経済的暴力等のこと。

◆デートDV

恋人などの親密な関係にある者(配偶者等を除く)の一方から他方に対してふるわれる身体的、精神的、性的、経済的暴力等のこと。

◆マタニティ・ハラスメント／パタニティ・ハラスメント

「マタニティ・ハラスメント」は働く女性が自身の妊娠・出産をきっかけに、「パタニティ・ハラスメント」は配偶者等の妊娠・出産をきっかけに、職場で精神的・肉体的な嫌がらせを受けたり、不当な扱いを受けたりすることを意味することば。

◆リプロダクティブ・ヘルス／ライツ(性と生殖に関する健康と権利)

個人の自己決定権を保障する考え方で、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持し、子どもを産むかどうか、いつ産むか、どれくらいの間隔で産むかなどについて選択し、自ら決定する権利のことをいう。

◆ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)

一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、人生の各段階に応じて様々な生き方が選択・実現できることを示す。

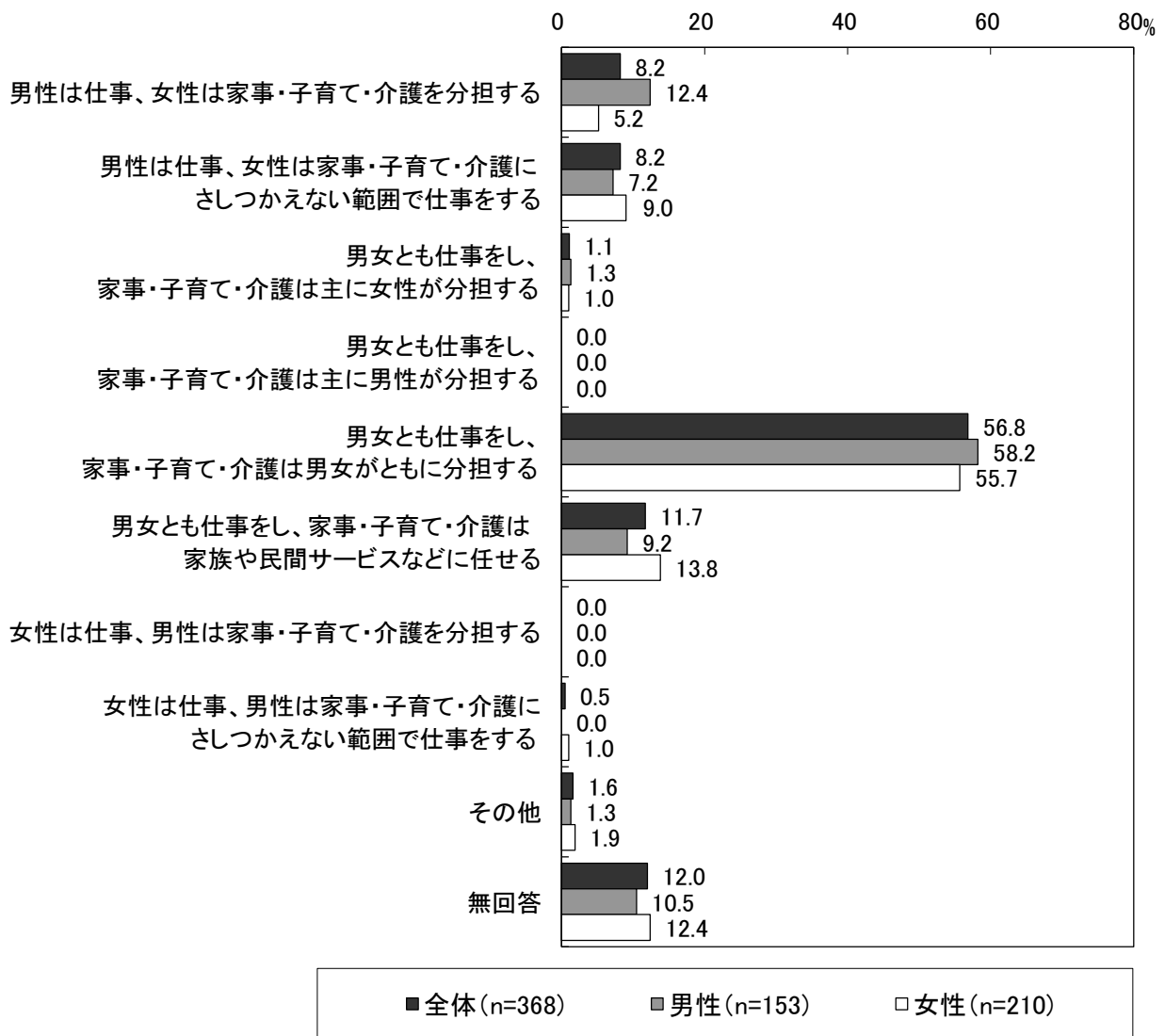
3 家庭生活について

問14 家庭における男女の役割分担について、理想はどうあるべきだと思いますか。また、実際に結婚している方や、パートナーと同居している方の状況はどうですか。次の中から、あなたの考え方に最も近いものを選んで□の中に番号を記入してください。（番号はそれぞれ1つずつ記入）

理想

「男女とも仕事をし、家事・子育て・介護は男女がともに分担する」が56.8%と最も高く、次いで「男女とも仕事をし、家事・子育て・介護は家族や民間サービスなどに任せる」が11.7%、「男性は仕事、女性は家事・子育て・介護を分担する」と「男性は仕事、女性は家事・子育て・介護にさしつかえない範囲で仕事をする」が8.2%となっています。

性別にみると、男性で「男性は仕事、女性は家事・子育て・介護を分担する」が12.4%と、女性に比べて7.2ポイント高くなっています。



【年齢別・働き方状況別】

年齢別にみると、男性の80歳以上で「男性は仕事、女性は家事・子育て・介護を分担する」が50.0%と、他に比べて高くなっています。また、女性の70歳代以上で「男女とも仕事をし、家事・子育て・介護は男女がともに分担する」が3割後半から4割台と、他に比べて低くなっています。

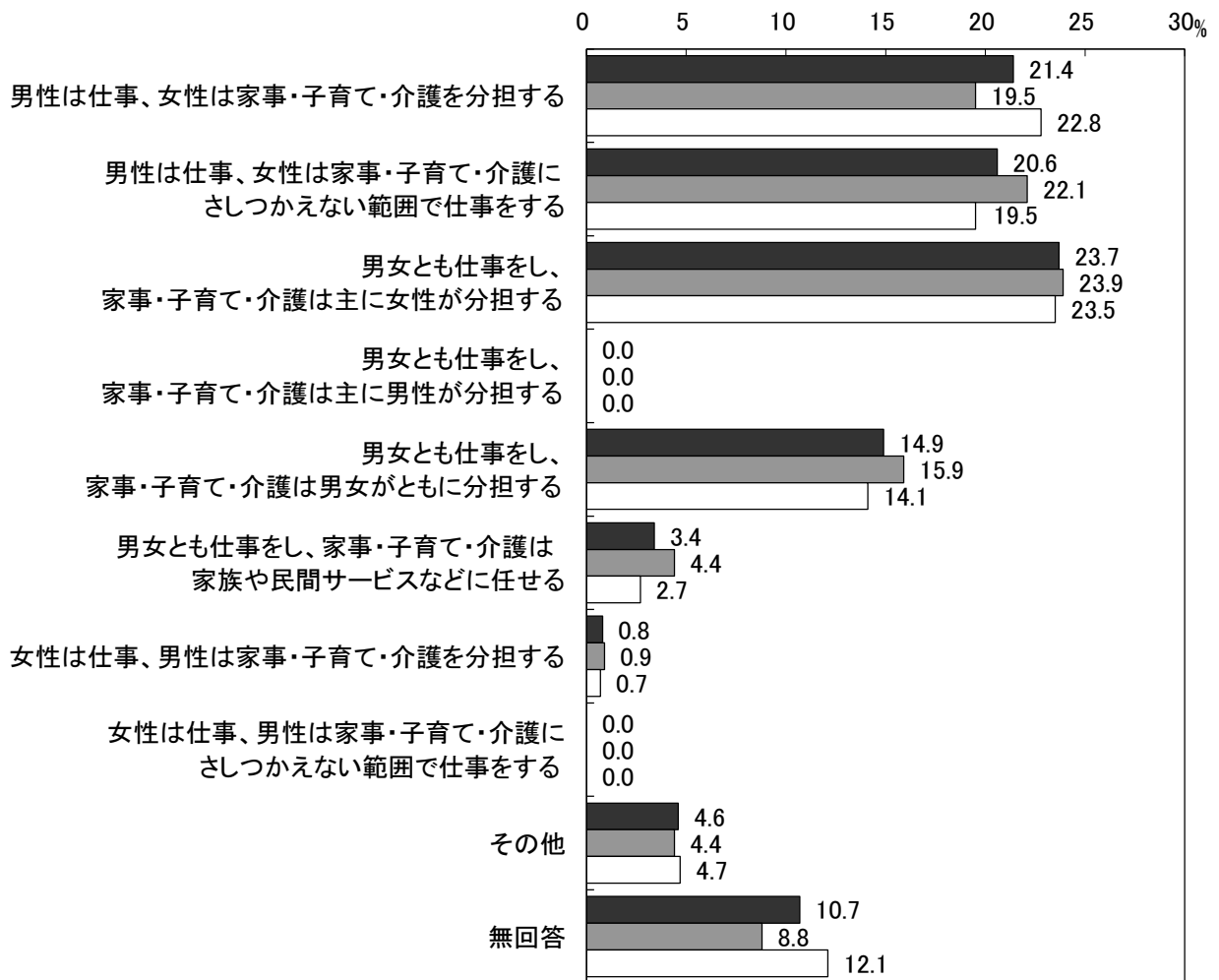
働き方の状況別にみると、概ね全体と同様の傾向となっています。

	合計	男性は仕事、女性は家事・子育て・介護を分担する	男性は仕事、女性は家事・子育て・介護にさしかえない範囲で	男女とも仕事をし、家事・子育て	男女とも仕事をし、家事・子育て	男女とも仕事をし、家事・子育て	男女とも仕事をし、家事・子育て	男女とも仕事をし、家事・子育て	男女とも仕事をし、家事・子育て	男女とも仕事をし、家事・子育て	男女とも仕事をし、家事・子育て	男女とも仕事をし、家事・子育て	その他	無回答
【年齢別・男性】														
20歳代	8	0.0	12.5	0.0	0.0	62.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	
30歳代	16	12.5	6.3	12.5	0.0	50.0	18.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
40歳代	27	18.5	0.0	0.0	0.0	70.4	3.7	0.0	0.0	0.0	3.7	3.7		
50歳代	33	3.0	9.1	0.0	0.0	57.6	12.1	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2		
60歳代	28	14.3	3.6	0.0	0.0	57.1	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3		
70歳代	39	15.4	12.8	0.0	0.0	53.8	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	10.3		
80歳以上	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
【年齢別・女性】														
20歳代	13	0.0	7.7	0.0	0.0	61.5	23.1	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0		
30歳代	21	4.8	19.0	0.0	0.0	76.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
40歳代	39	12.8	7.7	0.0	0.0	66.7	10.3	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0		
50歳代	35	5.7	5.7	0.0	0.0	60.0	22.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7		
60歳代	42	2.4	11.9	0.0	0.0	52.4	16.7	0.0	0.0	0.0	2.4	14.3		
70歳代	52	1.9	7.7	3.8	0.0	40.4	11.5	0.0	3.8	1.9	28.8			
80歳以上	8	12.5	0.0	0.0	0.0	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5		
【働き方状況別】														
共働き	114	8.8	6.1	2.6	0.0	64.0	12.3	0.0	0.0	1.8	4.4			
夫(男性・パートナー)のみ働いている	63	7.9	9.5	0.0	0.0	66.7	9.5	0.0	0.0	0.0	6.3			
妻(女性・パートナー)のみ働いている	13	7.7	7.7	0.0	0.0	61.5	15.4	0.0	0.0	0.0	7.7			
ともに無職	68	8.8	8.8	1.5	0.0	55.9	8.8	0.0	1.5	1.5	13.2			
その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

現状

「男女とも仕事をし、家事・子育て・介護は主に女性が分担する」が23.7%と最も高く、次いで「男性は仕事、女性は家事・子育て・介護を分担する」が21.4%、「男性は仕事、女性にさしつかえない範囲で仕事をする」が20.6%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。



■ 全体 (n=262) ■ 男性 (n=113) □ 女性 (n=149)

【年齢別・働き方状況別】

年齢別にみると、男性の30歳代と女性の20歳代で「男女とも仕事をし、家事・子育て・介護は男女がともに分担する」が4割を超えており、他に比べて高くなっています。それ以外の年齢では、男女ともに「家事・子育て・介護は女性の分担」と考えている傾向がみられます。

働き方状況別にみると、【妻（女性・パートナー）のみ働いている】で、「女性は仕事、男性は家事・子育て・介護を分担する」「その他」が15.4%と、他に比べてやや高くなっています。

	合計	て男性は仕事、女性は家事・子育てを分担する	て男性は仕事、女性は家事・子育てを主にさしかえない範囲	て男女とも仕事をし、家事・子育てを主に女性が分担する	て男女とも仕事をし、家事・子育てを主に男性が分担する	て男女とも仕事をし、家事・子育てをともに分担する	て男女とも仕事をし、家事・子育てをともに分担する	て女性も仕事をし、家事・子育てをともに分担する	て女性も仕事をし、家事・子育てをともに分担する	て女性も仕事をし、家事・子育てをともに分担する	その他	無回答
【年齢別・男性】												
20歳代	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	10	20.0	10.0	30.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	17	17.6	17.6	35.3	0.0	23.5	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0
50歳代	24	12.5	29.2	25.0	0.0	12.5	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
60歳代	24	25.0	16.7	25.0	0.0	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3
70歳代	34	17.6	26.5	17.6	0.0	8.8	2.9	2.9	0.0	0.0	11.8	11.8
80歳以上	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
【年齢別・女性】												
20歳代	3	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	18	33.3	33.3	27.8	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	30	16.7	26.7	36.7	0.0	16.7	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50歳代	29	13.8	10.3	41.4	0.0	27.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	3.4
60歳代	31	29.0	22.6	3.2	0.0	9.7	9.7	3.2	0.0	0.0	9.7	12.9
70歳代	34	20.6	14.7	14.7	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	8.8	35.3
80歳以上	4	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
【働き方状況別】												
共働き	114	2.6	24.6	35.1	0.0	28.1	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4
夫（男性・パートナー）のみ働いている	63	55.6	12.7	15.9	0.0	4.8	1.6	0.0	0.0	0.0	3.2	6.3
妻（女性・パートナー）のみ働いている	13	15.4	15.4	7.7	0.0	7.7	7.7	15.4	0.0	0.0	15.4	15.4
ともに無職	68	23.5	22.1	16.2	0.0	2.9	1.5	0.0	0.0	0.0	11.8	22.1
その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【男女の役割分担・理想別】

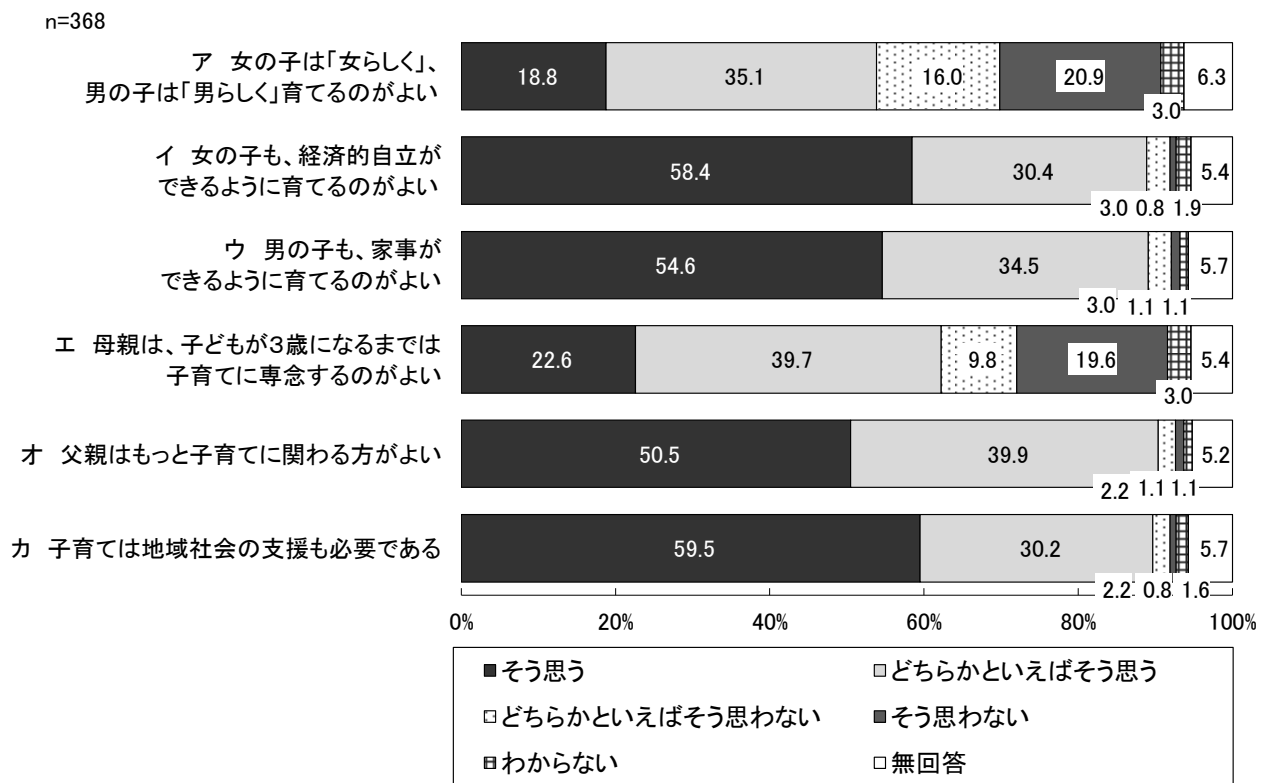
理想の回答別にみると、多くの項目で「理想」のとおり「現実」を選択している割合（斜体・下線部）は1～2割台と低くなっています。

一方、【男性は仕事、女性は家事・子育て・介護を分担する】【その他】で理想と現実が一致している回答が最も高くなっています。

	合計	男性は仕事・子育て・介護を分担する・女性 は家事	男性は仕事・子育て・介護を しない範囲で仕事をする 女性 は家事	男女とも仕事をし、家事が 主に女性 が	男女とも仕事をし、家事が 主に男性 が	男女とも仕事をし、家事も に 男女 が	男女とも仕事をし、家事・ サ ー ビ ス な ど に 任 せ る	女性 は 仕事 ・ 介 護 を 分 担 す る	女性 は 仕事 ・ 介 護 に さ し つ か え ない 範 囲 で 仕事 を す る	その他	無 回 答
【男女の役割分担・理想】											
男性は仕事、女性は家事・子育て・介護を 分担する	23	39.1	13.0	30.4	0.0	17.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性は仕事、女性は家事・子育て・介護に さしつかえない範囲で仕事をする	21	33.3	14.3	19.0	0.0	9.5	4.8	4.8	0.0	0.0	14.3
男女とも仕事をし、家事・子育て・介護は主 に女性が分担する	4	0.0	0.0	25.0	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男女とも仕事をし、家事・子育て・介護は主 に男性が分担する	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
男女とも仕事をし、家事・子育て・介護は男 女がともに分担する	161	21.7	24.8	26.1	0.0	13.7	2.5	0.6	0.0	6.2	4.3
男女とも仕事をし、家事・子育て・介護は家 族や民間サービスなどに任せる	29	10.3	24.1	20.7	0.0	24.1	13.8	0.0	0.0	3.4	3.4
女性は仕事、男性は家事・子育て・介護を 分担する	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女性は仕事、男性は家事・子育て・介護に さしつかえない範囲で仕事をする	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0

問15 次にあげる子育てに対する考え方について、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。（ア～カまでそれぞれ○は1つ）

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“思う”では、【オ. 父親はもっと子育てに関わる方がよい】が90.4%と最も高く、次いで【カ. 子育ては地域社会の支援も必要である】が89.7%、【ウ. 男の子も、家事ができるように育てるのがよい】が89.1%となっています。また、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた“思わない”では、【ア. 女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てるのがよい】が36.9%と最も高く、次いで【エ. 母親は、子どもが3歳になるまでは子育てに専念するのがよい】が29.4%となっています。

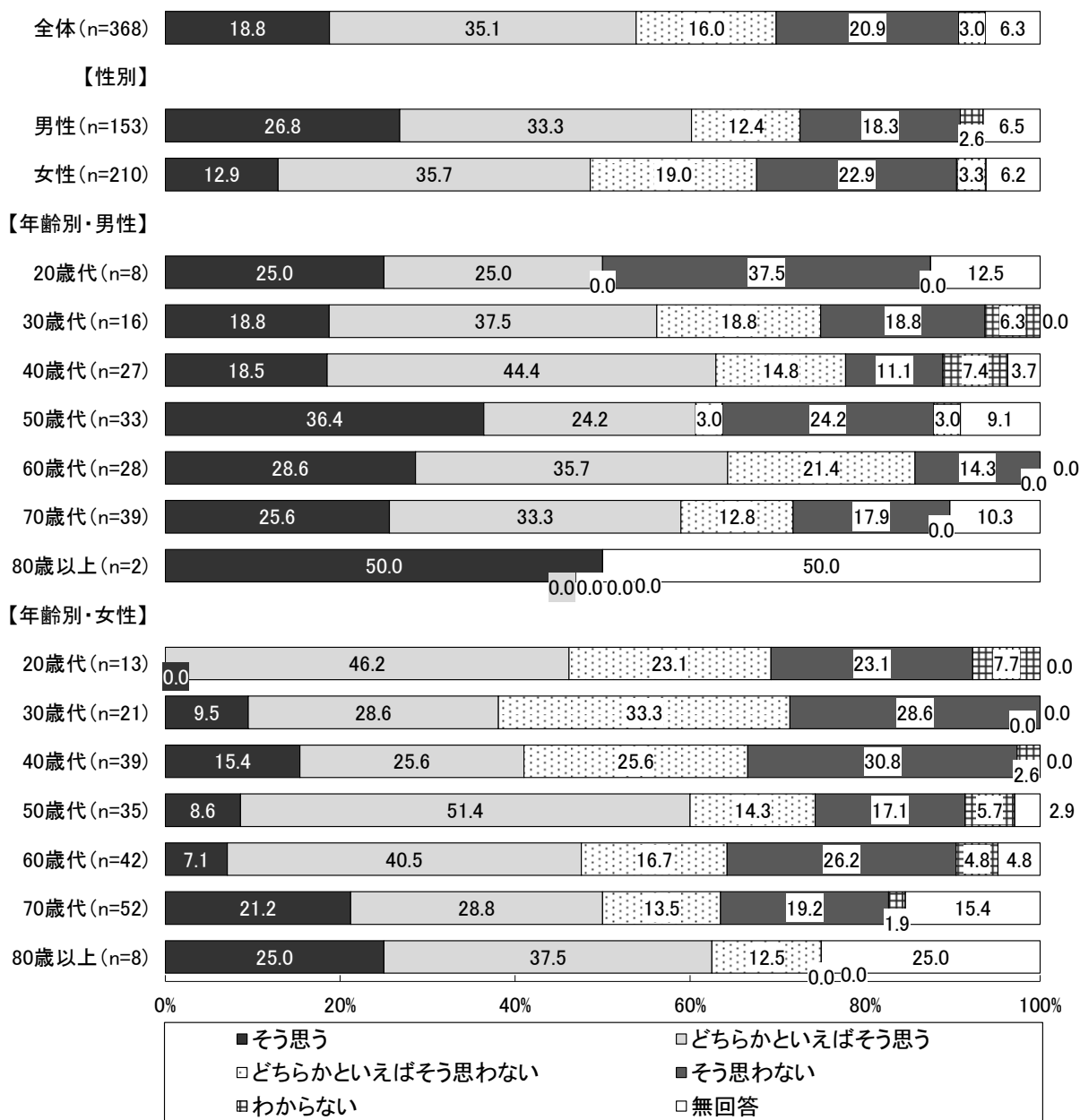


ア 女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てるのがよい

“思う” が 53.9%と、“思わない” の 36.9%を上回っています。

性別にみると、男性で“思う” が 60.1%と、女性に比べて 11.5 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、女性の 30 歳代で“思う” が 38.1%と、他に比べてやや低くなっています。

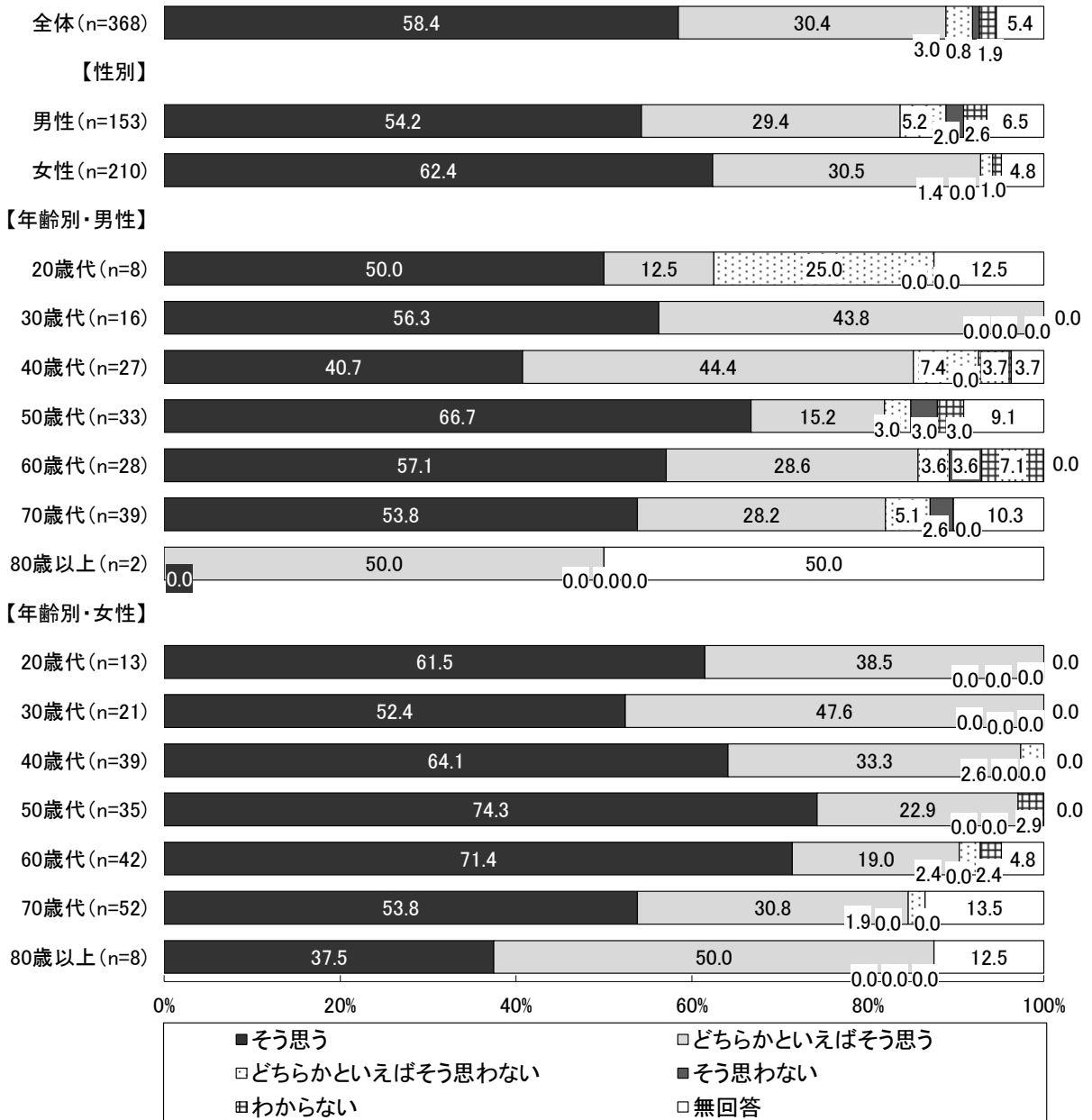


イ 女の子も、経済的自立ができるように育てるのがよい

“思う”が88.8%と、“思わない”の3.8%を上回っています。

性別にみると、女性で“思う”が92.9%と、男性に比べて9.3ポイント高くなっています。

年齢別にみると、男性の20歳代・80歳以上で“思う”が5割から6割前半と、他に比べて低くなっています。

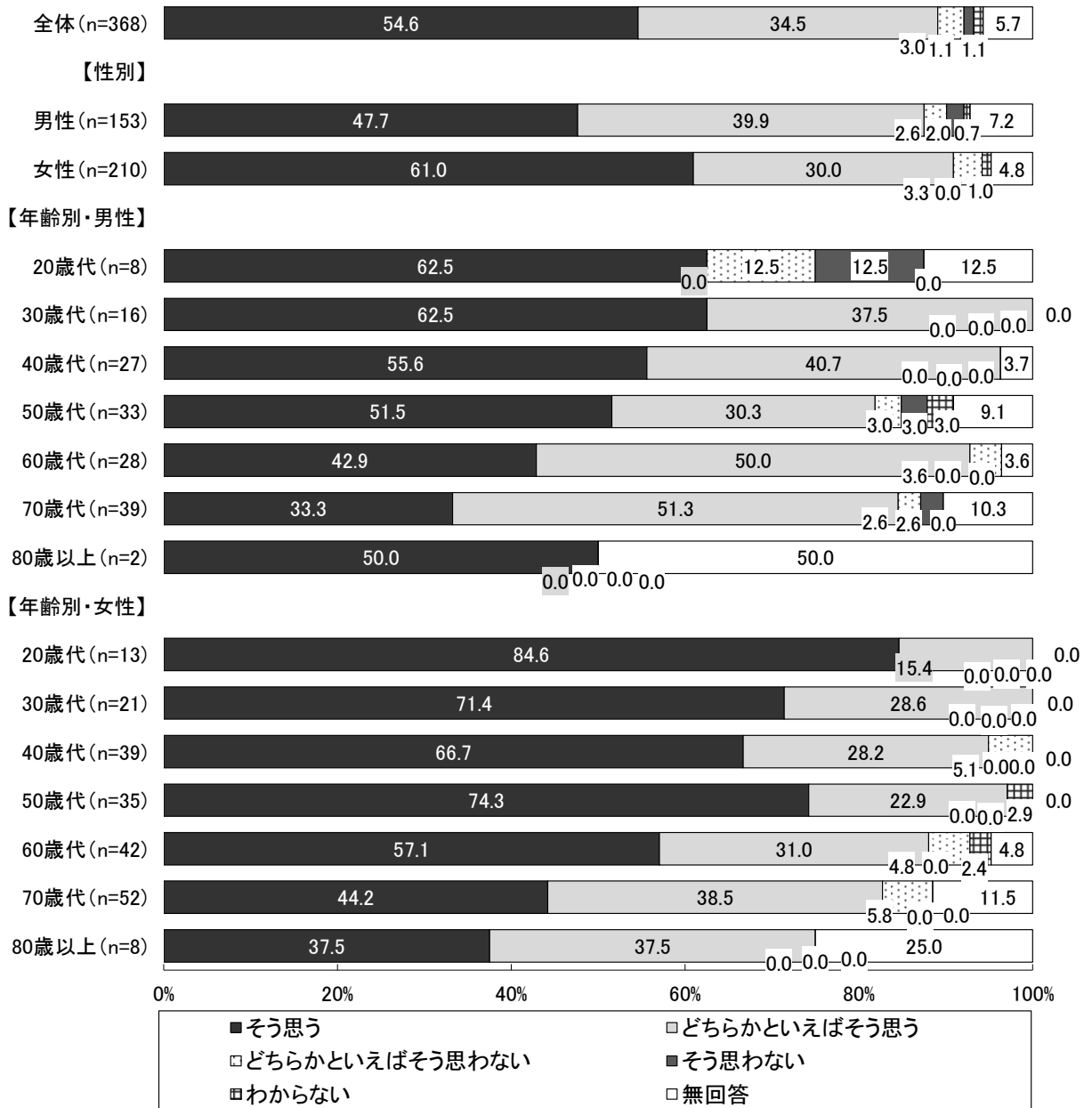


ウ 男の子も、家事ができるように育てるのがよい

“思う”が89.1%と、“思わない”の4.1%を上回っています。

性別にみると、“思う”では同様の傾向となっているものの、女性で「そう思う」が61.0%と、男性に比べて13.3ポイント高くなっています。

年齢別にみると、男性の20歳代・80歳以上で“思う”が5割から6割台前半と、他に比べて低くなっています。

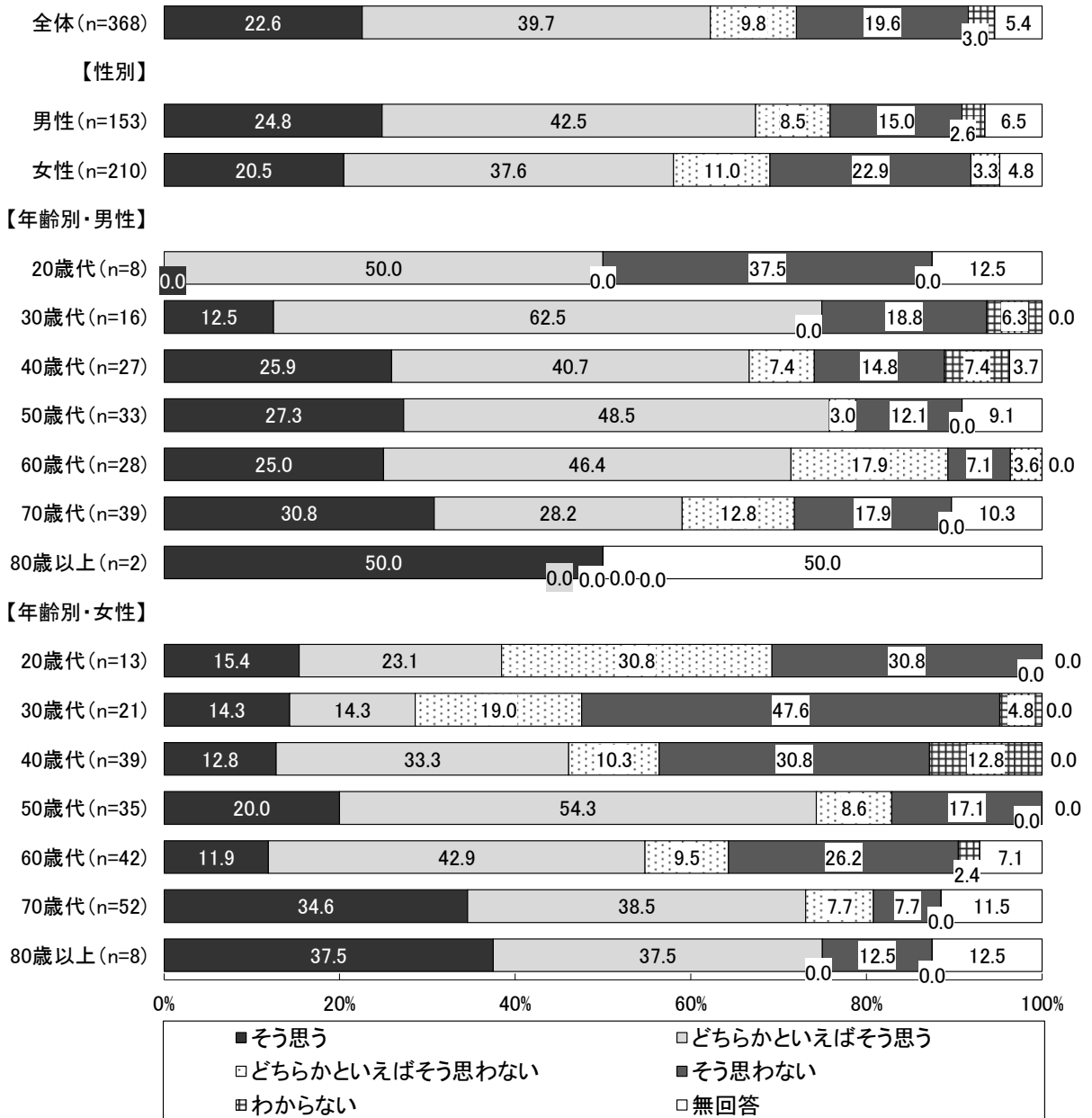


エ 母親は、子どもが3歳になるまでは子育てに専念するのがよい

“思う” が62.3%と、“思わない” の29.4%を上回っています。

性別にみると、男性で“思う” が67.3%と、女性に比べて9.2ポイント高くなっています。

年齢別にみると、男性の30・50・60歳代と女性の50歳代・70歳代以上で“思う” が7割を超えており、他に比べて高くなっています。

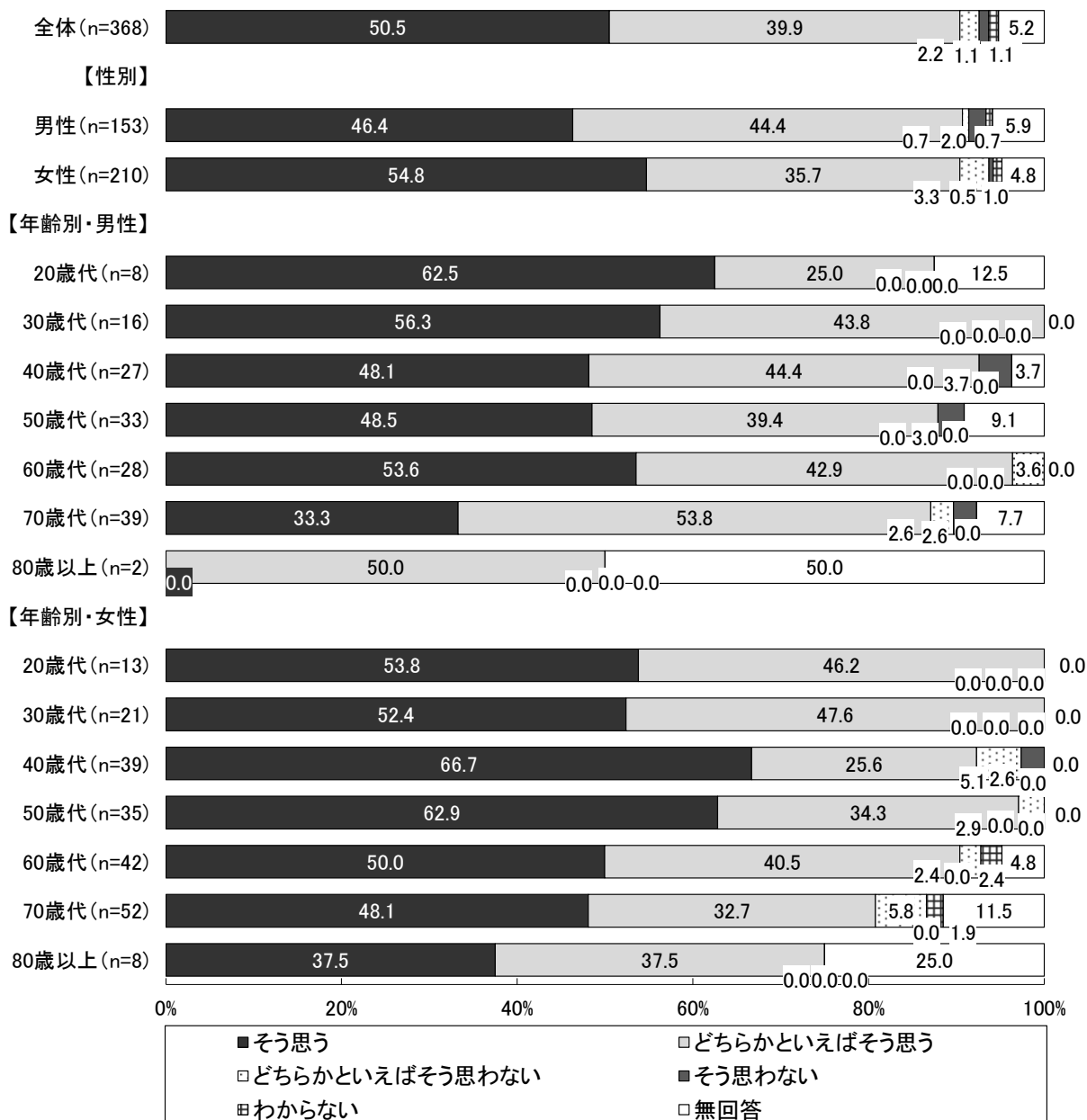


オ 父親はもっと子育てに関わる方がよい

“思う” が90.4%と、“思わない” の3.3%を上回っています。

性別にみると、“思う” では同様の傾向となっているものの、女性で「そう思う」が54.8%と、男性に比べて8.4ポイント高くなっています。

年齢別にみると、男性の80歳以上で“思う” が50.0%と、他に比べて低くなっています。

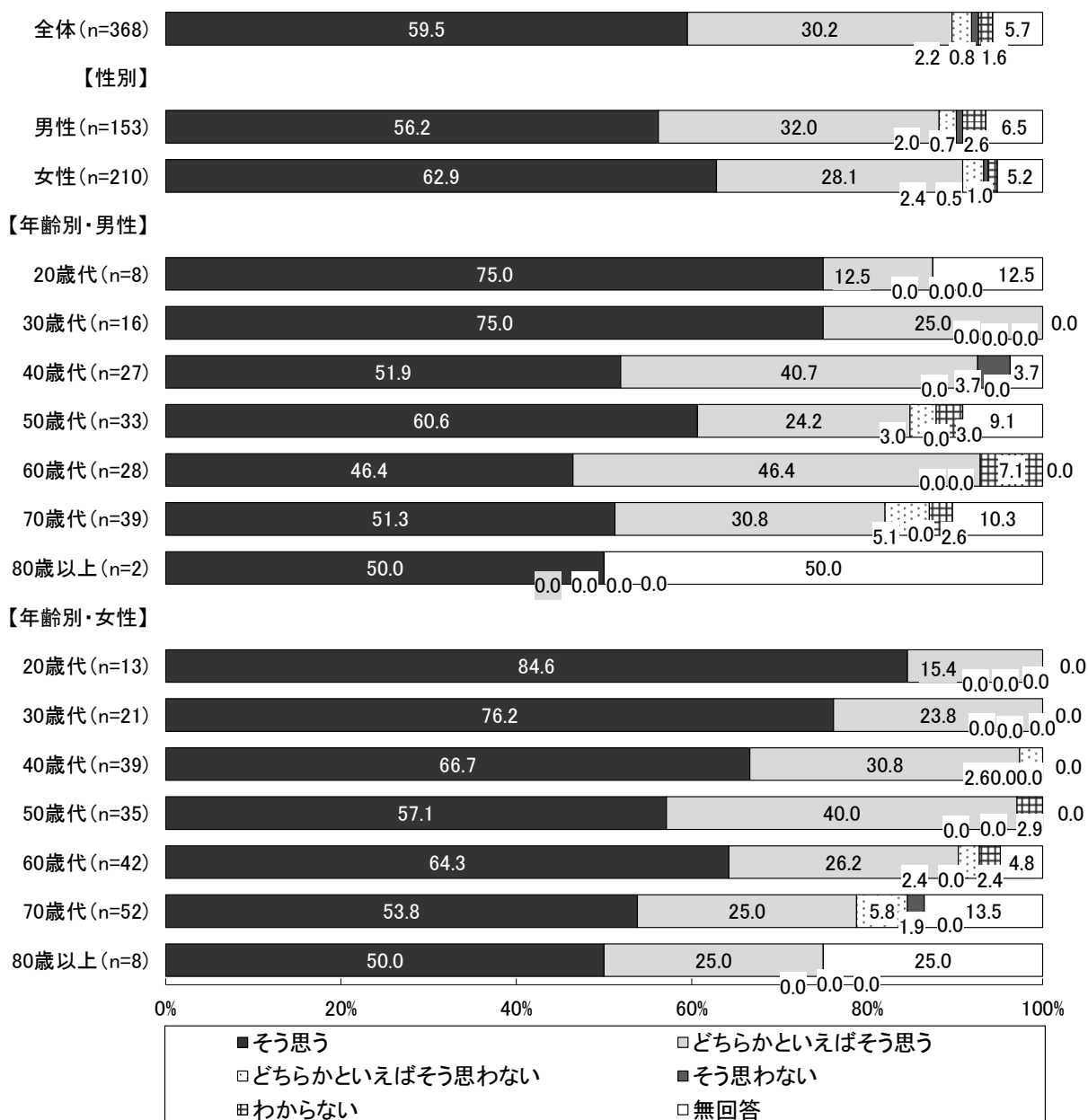


カ 子育ては地域社会の支援も必要である

“思う” が 89.7%と、“思わない” の 3.0%を上回っています。

性別にみると、“思う” では同様の傾向となっているものの、女性で「そう思う」が 62.9%と、男性に比べて 6.7 ポイント高くなっています。

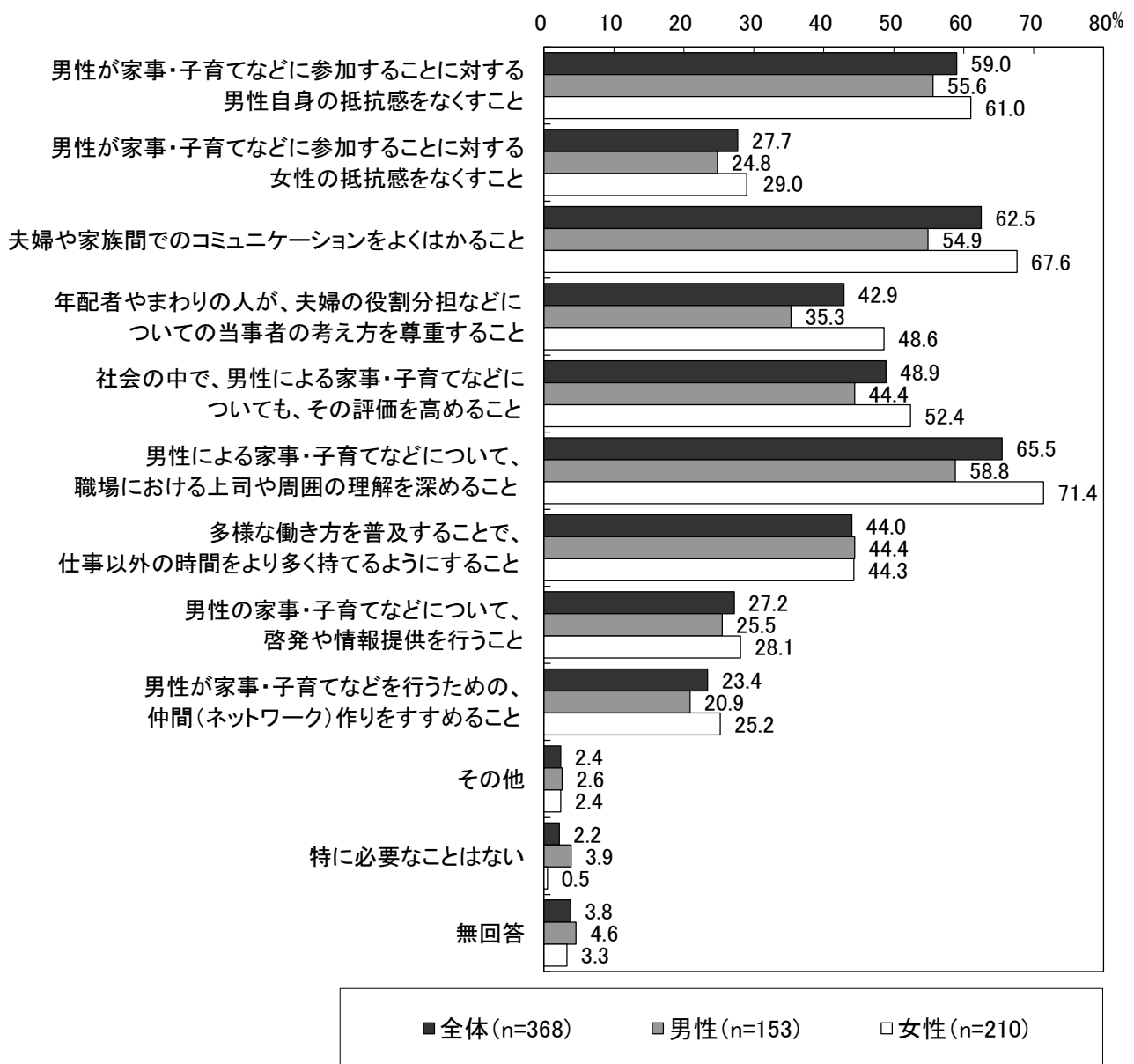
年齢別にみると、男性の 80 歳以上で “思う” が 50.0%と、他に比べて低くなっています。



問16 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「男性による家事・子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解を深めること」が65.5%と最も高く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が62.5%、「男性が家事・子育てなどに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が59.0%となっています。

性別にみると、女性で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」「男性による家事・子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解を深めること」が、男性に比べて10ポイント以上高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、男性の20歳代で「多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が、30・40・70歳代で「男性による家事・子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解を深めること」が、50歳代で「男性が家事・子育てなどに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が、60歳代で「男性が家事・子育てなどに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が、最も高くなっています。

また、女性の50歳代以下で「男性による家事・子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解を深めること」が、60歳代で「男性が家事・子育てなどに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「男性による家事・子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解を深めること」が、70歳代で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も高くなっています。

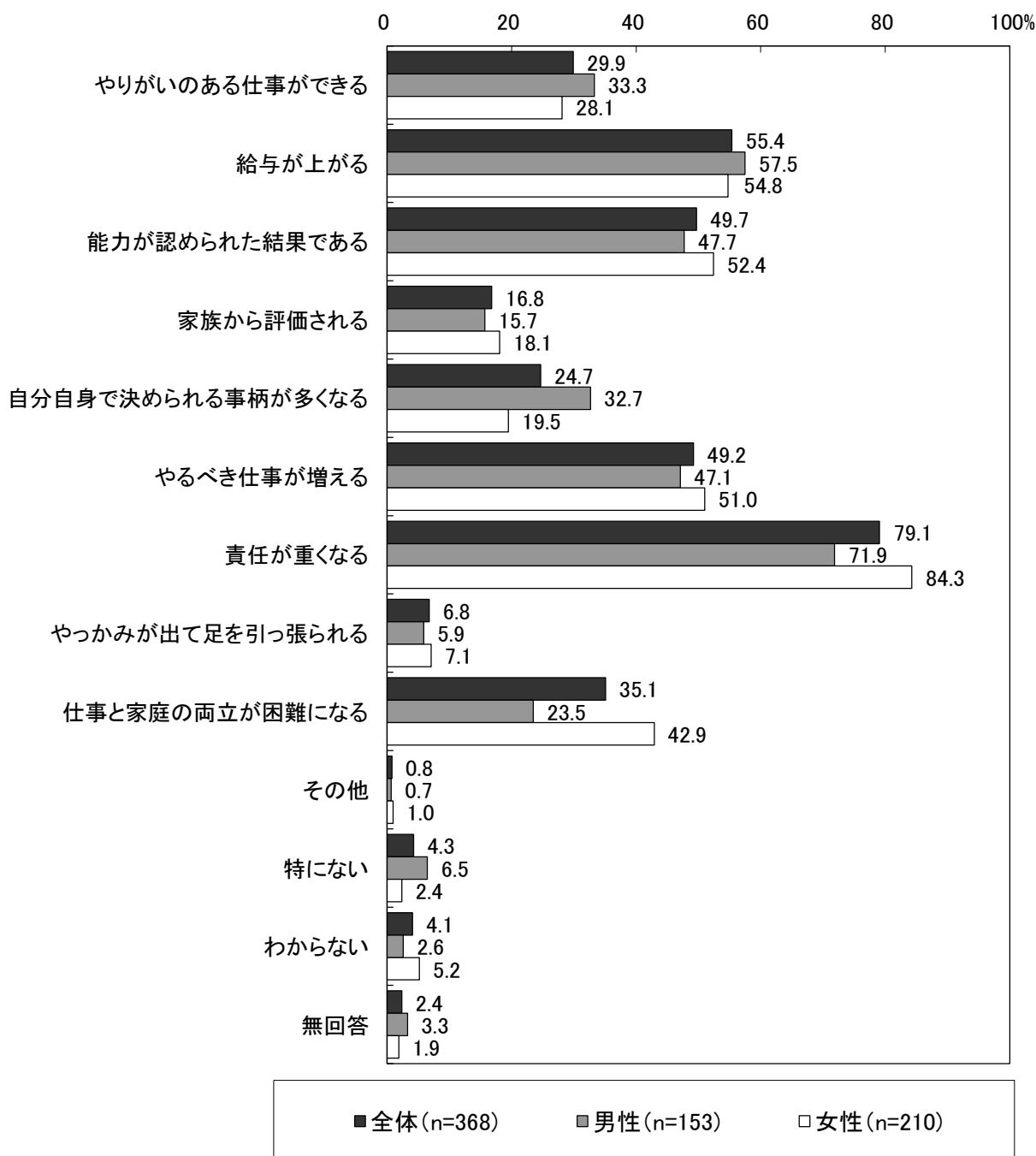
	合計	男性が家事・子育てなどに参加することをなくすこと	男性が家事・子育てなどに参加することをなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担を尊重すること	高社会の中で、男性による家事・子育てなどについて、その評価を高めること	理解を深めること	男性による家事・子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解を深めること	多様な働き方を普及すること、より多くの時間をより多く持つこと	男性の啓発や情報提供を行うこと	男性が家事・子育てなどを行うための仲間（ネットワーキング）を作ること	その他	特に必要なことはない	無回答
【年齢別・男性】														
20歳代	8	50.0	25.0	50.0	0.0	37.5	50.0	75.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
30歳代	16	56.3	37.5	62.5	37.5	31.3	75.0	31.3	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	27	44.4	37.0	40.7	44.4	51.9	66.7	55.6	33.3	22.2	7.4	3.7	3.7	3.7
50歳代	33	63.6	30.3	51.5	33.3	48.5	60.6	51.5	30.3	33.3	0.0	3.0	3.0	3.0
60歳代	28	60.7	3.6	60.7	25.0	50.0	39.3	42.9	25.0	7.1	0.0	7.1	3.6	3.6
70歳代	39	53.8	20.5	61.5	46.2	41.0	64.1	33.3	25.6	28.2	5.1	5.1	5.1	5.1
80歳以上	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
【年齢別・女性】														
20歳代	13	76.9	7.7	84.6	76.9	84.6	100.0	76.9	30.8	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	21	52.4	33.3	76.2	47.6	66.7	95.2	61.9	33.3	19.0	4.8	0.0	0.0	0.0
40歳代	39	61.5	33.3	66.7	46.2	53.8	69.2	61.5	28.2	15.4	7.7	0.0	2.6	2.6
50歳代	35	60.0	28.6	71.4	51.4	60.0	77.1	42.9	25.7	37.1	0.0	0.0	0.0	0.0
60歳代	42	64.3	31.0	54.8	50.0	35.7	64.3	40.5	26.2	28.6	2.4	0.0	4.8	4.8
70歳代	52	55.8	28.8	69.2	44.2	50.0	61.5	23.1	30.8	23.1	0.0	1.9	3.8	3.8
80歳以上	8	75.0	25.0	62.5	25.0	25.0	50.0	25.0	12.5	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0

4 仕事について

問17 あなたは、管理職に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。(あてはまるものすべてに○)

「責任が重くなる」が79.1%と最も高く、次いで「給与が上がる」が55.4%、「能力が認められた結果である」が49.7%となっています。

性別にみると、男性で「自分自身で決められる事柄が多くなる」が32.7%と、女性に比べて13.2ポイント高く、女性で「責任が重くなる」「仕事と家庭の両立が困難になる」が、男性に比べて10ポイント以上高くなっています。



【年齢別】

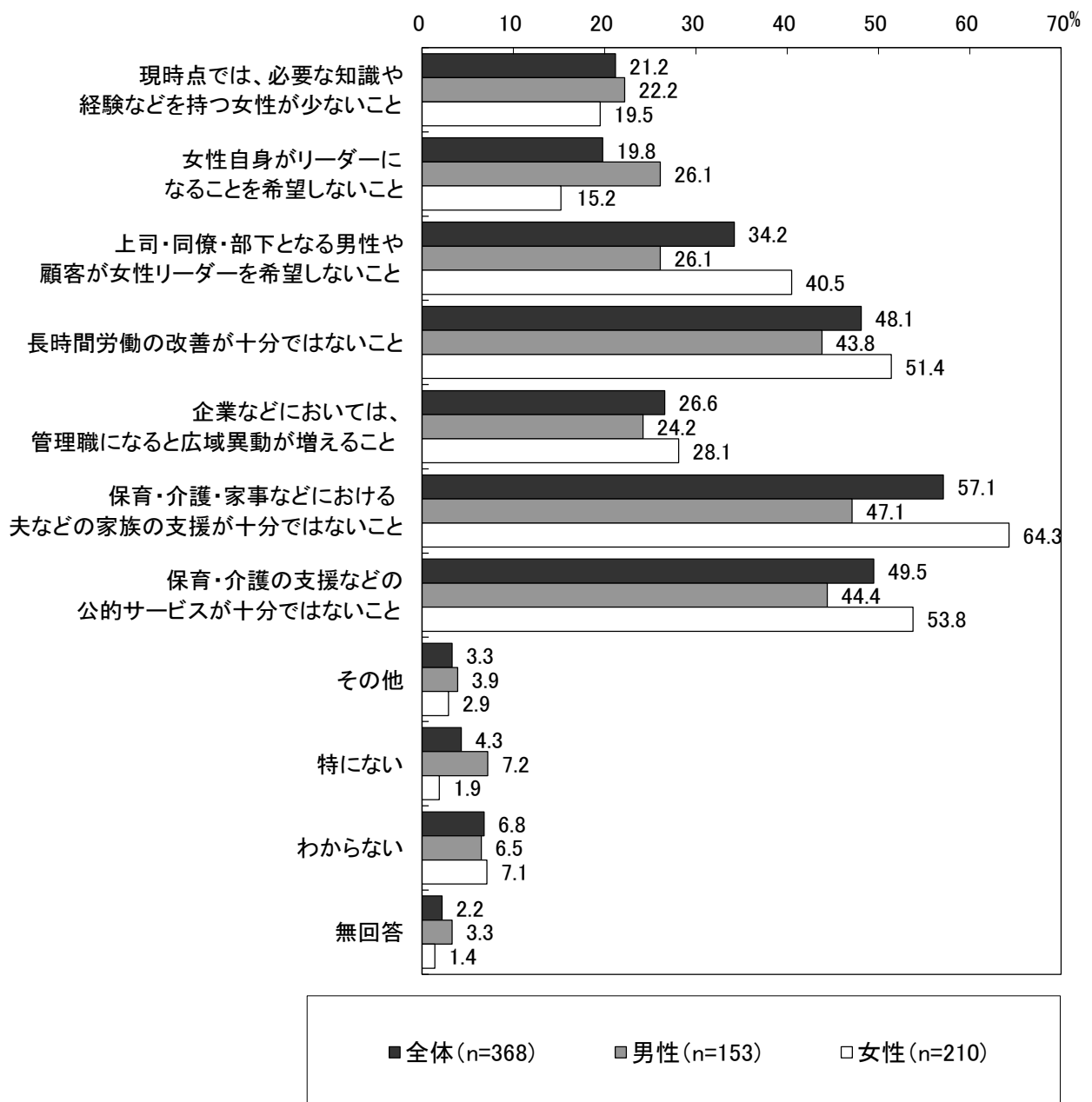
年齢別にみると、いずれの年齢も男女ともに「給与が上がる」「能力が認められた結果である」「責任が重くなる」が高くなっており、特に男性の20歳代と女性の40歳代以下で「給与が上がる」が7割を超えて、女性の20歳代で「能力が認められた結果である」が84.6%、女性の40歳代以下で「責任が重くなる」が9割を超えており、他に比べて高くなっています。

	合計	やりがいのある仕事ができる	給与が上がる	能力が認められた結果である	家族から評価される	自分自身で決められる事柄が多くなる	やるべき仕事が増える	責任が重くなる	やっかみが出て足を引っ張られる	仕事と家庭の両立が困難になる	その他	特にない	わからない	無回答
【年齢別・男性】														
20歳代	8	12.5	75.0	25.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5
30歳代	16	12.5	56.3	25.0	6.3	25.0	56.3	75.0	12.5	18.8	0.0	0.0	6.3	0.0
40歳代	27	29.6	51.9	63.0	7.4	40.7	48.1	59.3	18.5	44.4	0.0	3.7	3.7	3.7
50歳代	33	36.4	60.6	51.5	18.2	30.3	45.5	78.8	3.0	12.1	3.0	6.1	3.0	0.0
60歳代	28	35.7	64.3	57.1	17.9	35.7	35.7	67.9	0.0	14.3	0.0	10.7	3.6	0.0
70歳代	39	46.2	51.3	43.6	25.6	38.5	59.0	76.9	2.6	30.8	0.0	10.3	0.0	5.1
80歳以上	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
【年齢別・女性】														
20歳代	13	38.5	76.9	84.6	23.1	15.4	69.2	100.0	15.4	46.2	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	21	33.3	71.4	61.9	4.8	23.8	76.2	100.0	0.0	57.1	4.8	0.0	0.0	0.0
40歳代	39	25.6	71.8	46.2	15.4	20.5	66.7	94.9	10.3	48.7	2.6	0.0	2.6	0.0
50歳代	35	28.6	48.6	57.1	20.0	25.7	40.0	88.6	8.6	37.1	0.0	2.9	2.9	0.0
60歳代	42	28.6	66.7	57.1	19.0	21.4	47.6	88.1	7.1	33.3	0.0	2.4	4.8	2.4
70歳代	52	23.1	28.8	38.5	21.2	13.5	38.5	65.4	1.9	44.2	0.0	5.8	11.5	3.8
80歳以上	8	37.5	25.0	50.0	25.0	12.5	25.0	50.0	25.0	37.5	0.0	0.0	12.5	12.5

問18 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いませんか。（あてはまるものすべてに○）

「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が57.1%と最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が49.5%、「長時間労働の改善が十分ではないこと」が48.1%となっています。

性別にみると、男性で「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」が26.1%と、女性に比べて10.9ポイント高く、女性で「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が、男性に比べて10ポイント以上高くなっています。



【年齢別】

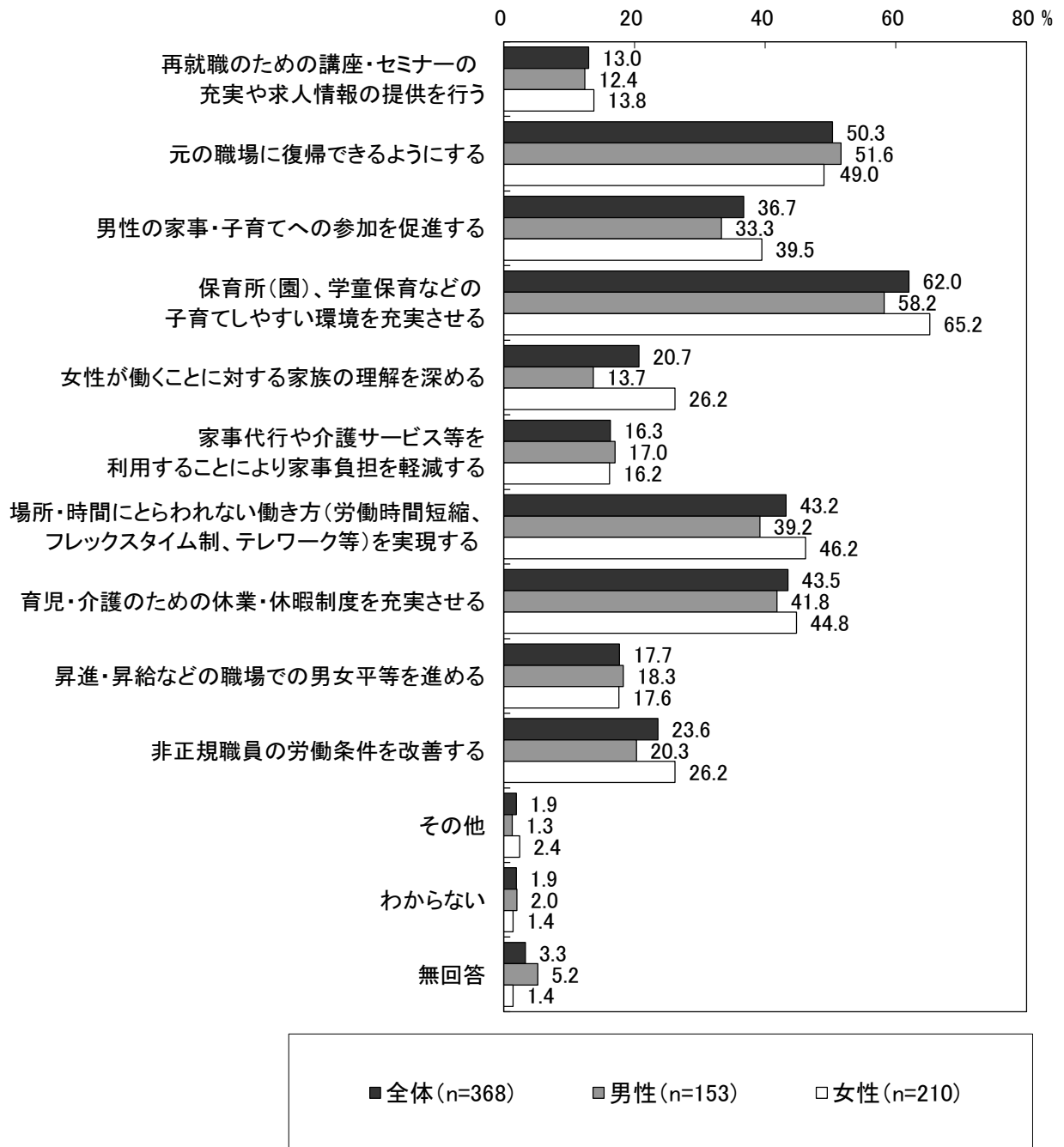
年齢別にみると、男女ともに80歳以上で「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」が5割を超えており、他に比べて高くなっています。また、女性の60歳代以下で「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が4割を超えて、女性の20歳代で「長時間労働の改善が十分ではないこと」が84.6%と、他に比べて高くなっています。

	合計	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	長時間労働の改善が十分ではないこと	企業などにおいて、管理職になるなど、広域異動が増えること	保育・介護・家族の支援が十分ではないこと	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	その他	特になし	わからない	無回答
【年齢別・男性】												
20歳代	8	0.0	25.0	25.0	12.5	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0	25.0	12.5
30歳代	16	6.3	25.0	31.3	43.8	25.0	56.3	50.0	0.0	0.0	6.3	0.0
40歳代	27	18.5	22.2	18.5	51.9	18.5	33.3	25.9	7.4	7.4	7.4	3.7
50歳代	33	24.2	30.3	30.3	27.3	18.2	42.4	48.5	9.1	12.1	6.1	0.0
60歳代	28	17.9	32.1	32.1	53.6	28.6	46.4	46.4	0.0	7.1	7.1	0.0
70歳代	39	35.9	23.1	23.1	53.8	35.9	66.7	59.0	0.0	5.1	2.6	5.1
80歳以上	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
【年齢別・女性】												
20歳代	13	7.7	0.0	53.8	84.6	38.5	69.2	61.5	0.0	0.0	7.7	0.0
30歳代	21	14.3	9.5	57.1	57.1	38.1	81.0	66.7	4.8	0.0	0.0	0.0
40歳代	39	15.4	25.6	43.6	41.0	17.9	64.1	43.6	10.3	5.1	0.0	0.0
50歳代	35	14.3	11.4	45.7	51.4	28.6	68.6	60.0	0.0	2.9	11.4	0.0
60歳代	42	11.9	19.0	47.6	57.1	28.6	69.0	59.5	2.4	0.0	2.4	2.4
70歳代	52	30.8	13.5	25.0	46.2	30.8	51.9	50.0	0.0	1.9	15.4	1.9
80歳以上	8	62.5	12.5	0.0	37.5	12.5	50.0	25.0	0.0	0.0	12.5	12.5

問19 あなたは、女性が働き続けたり、結婚・出産等の後に再就職しやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「保育所(園)、学童保育などの子育てしやすい環境を充実させる」が62.0%と最も高く、次いで「元の職場に復帰できるようにする」が50.3%、「育児・介護のための休業・休暇制度を充実させる」が43.5%となっています。

性別にみると、女性で「女性が働くことに対する家族の理解を深める」が26.2%と、男性に比べて12.5ポイント高くなっています。



【年齢別・働き方状況別】

年齢別にみると、男性の20・70歳代と女性の40歳代で「元の職場に復帰できるようにする」が、女性の20・30歳代で「場所・時間にとられない働き方（労働時間短縮、フレックスタイム制、テレワーク等）を実現する」が、それぞれ最も高くなっています。

また女性の20・50歳代で「男性の家事・子育てへの参加を促進する」が6割を超えており、他に比べて高くなっています。

働き方状況別にみると、【妻（女性・パートナー）のみ働いている】で「元の職場に復帰できるようにする」が最も高くなっています。

	合計	再就職のための講座・セミナーの充	元の職場に復帰できるようにする	男性の家事・子育てへの参加を促進する	保育所（園）、学童保育などの子育てしやすい環境を充実させる	女性が働くことに対する家族の理解を深める	家事代行や介護サービス等を利用することにより家事負担を軽減する	場所・時間にとられない働き方（労働時間短縮、フレックスタイム制、テレワーク等）を実現する	育児・介護のための休業・休暇制度を充実させる	昇進・昇給などの職場での男女平等を進める	非正規職員の労働条件を改善する	その他	わからない	無回答
【年齢別・男性】														
20歳代	8	12.5	75.0	50.0	50.0	12.5	0.0	12.5	62.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	16	6.3	43.8	31.3	56.3	18.8	31.3	43.8	43.8	12.5	6.3	0.0	6.3	0.0
40歳代	27	3.7	40.7	25.9	63.0	14.8	11.1	55.6	44.4	14.8	18.5	7.4	0.0	3.7
50歳代	33	24.2	51.5	39.4	60.6	12.1	21.2	39.4	42.4	15.2	18.2	0.0	3.0	3.0
60歳代	28	7.1	46.4	32.1	53.6	17.9	21.4	32.1	35.7	17.9	25.0	0.0	3.6	7.1
70歳代	39	12.8	64.1	33.3	61.5	10.3	12.8	38.5	38.5	23.1	30.8	0.0	0.0	7.7
80歳以上	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
【年齢別・女性】														
20歳代	13	0.0	38.5	61.5	61.5	7.7	15.4	76.9	53.8	30.8	38.5	0.0	0.0	0.0
30歳代	21	19.0	38.1	28.6	57.1	19.0	14.3	71.4	47.6	23.8	28.6	0.0	0.0	0.0
40歳代	39	12.8	56.4	48.7	53.8	33.3	12.8	48.7	33.3	20.5	23.1	7.7	2.6	2.6
50歳代	35	20.0	60.0	60.0	77.1	25.7	28.6	45.7	48.6	25.7	20.0	0.0	0.0	0.0
60歳代	42	14.3	50.0	23.8	78.6	26.2	11.9	47.6	45.2	16.7	31.0	2.4	0.0	2.4
70歳代	52	13.5	42.3	30.8	57.7	28.8	17.3	28.8	50.0	7.7	25.0	1.9	3.8	1.9
80歳以上	8	0.0	50.0	37.5	75.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
【働き方状況別】														
共働き	114	11.4	43.9	40.4	64.0	21.9	19.3	51.8	42.1	18.4	18.4	0.9	1.8	2.6
夫（男性・パートナー）のみ働いている	63	11.1	54.0	36.5	60.3	17.5	7.9	44.4	41.3	11.1	23.8	3.2	3.2	1.6
妻（女性・パートナー）のみ働いている	13	0.0	76.9	15.4	61.5	23.1	15.4	46.2	38.5	15.4	30.8	0.0	0.0	0.0
ともに無職	68	14.7	52.9	26.5	64.7	17.6	19.1	32.4	47.1	22.1	26.5	1.5	1.5	5.9
その他	1	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

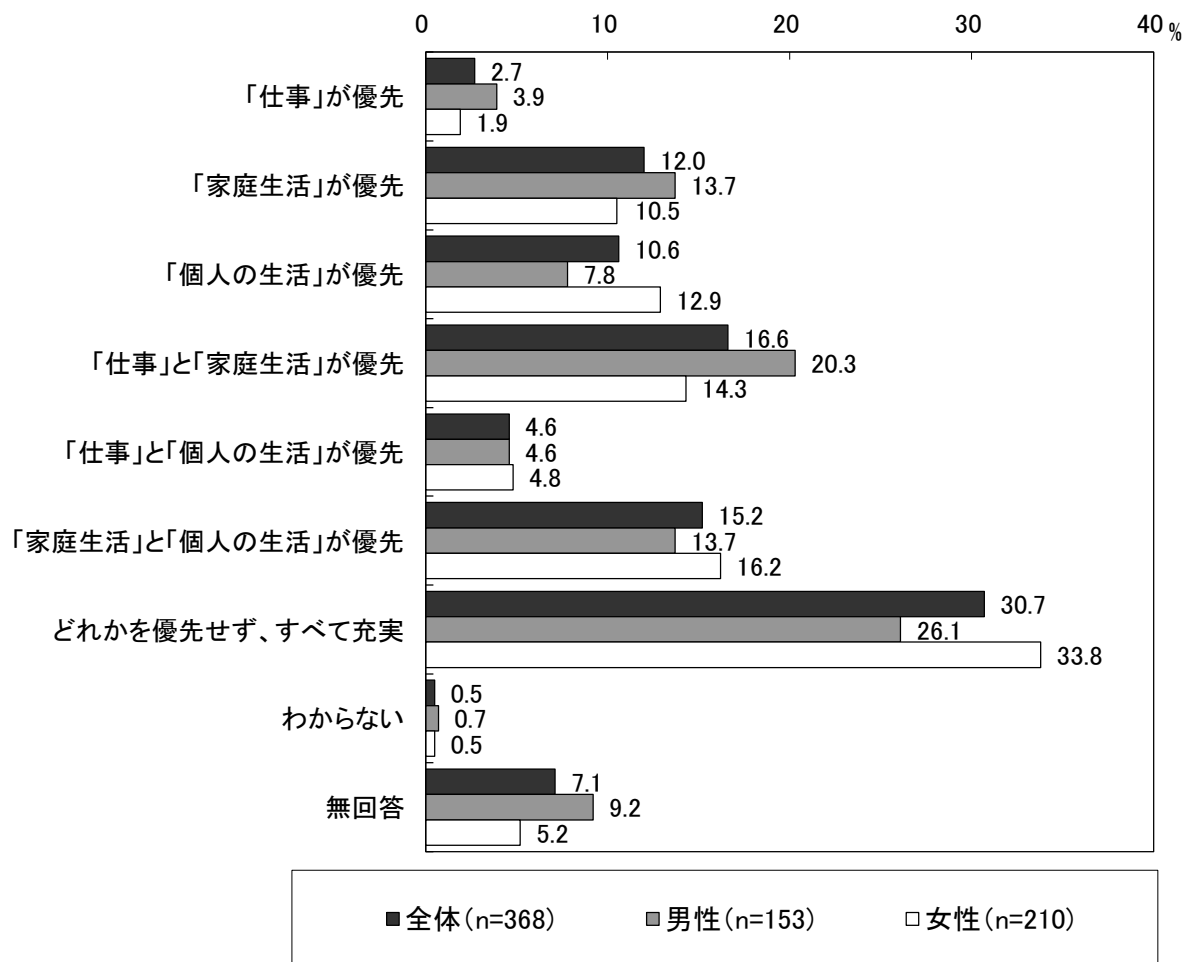
5 ワーク・ライフ・バランスについて

問20 あなたの生活のなかでの「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度について伺います。希望として優先したいものと、現実で優先されているものについて、次の中から選んで□の中に番号を記入してください。（番号はそれぞれ1つずつ記入）

希望

「どれかを優先せず、すべて充実」が30.7%と最も高く、次いで「「仕事」と「家庭生活」が優先」が16.6%、「家庭生活」と「個人の生活」が優先」が15.2%となっています。

性別にみると、女性で「「個人の生活」が優先」と「どれかを優先せず、すべて充実」が、男性に比べてやや高く、男性で「「仕事」と「家庭生活」が優先」20.3%と、女性に比べて6.0ポイント高くなっています。



【年齢別・職業別】

年齢別にみると、男性の20・30歳代と女性の30歳代で「家庭生活」が優先」が2割を超えて、男性の70歳代と女性の80歳以上で「仕事」と「家庭生活」が優先」が3割を超えて、男性の40歳代で「家庭生活」と「個人の生活」が優先」が37.0%と、他に比べて高くなっています。

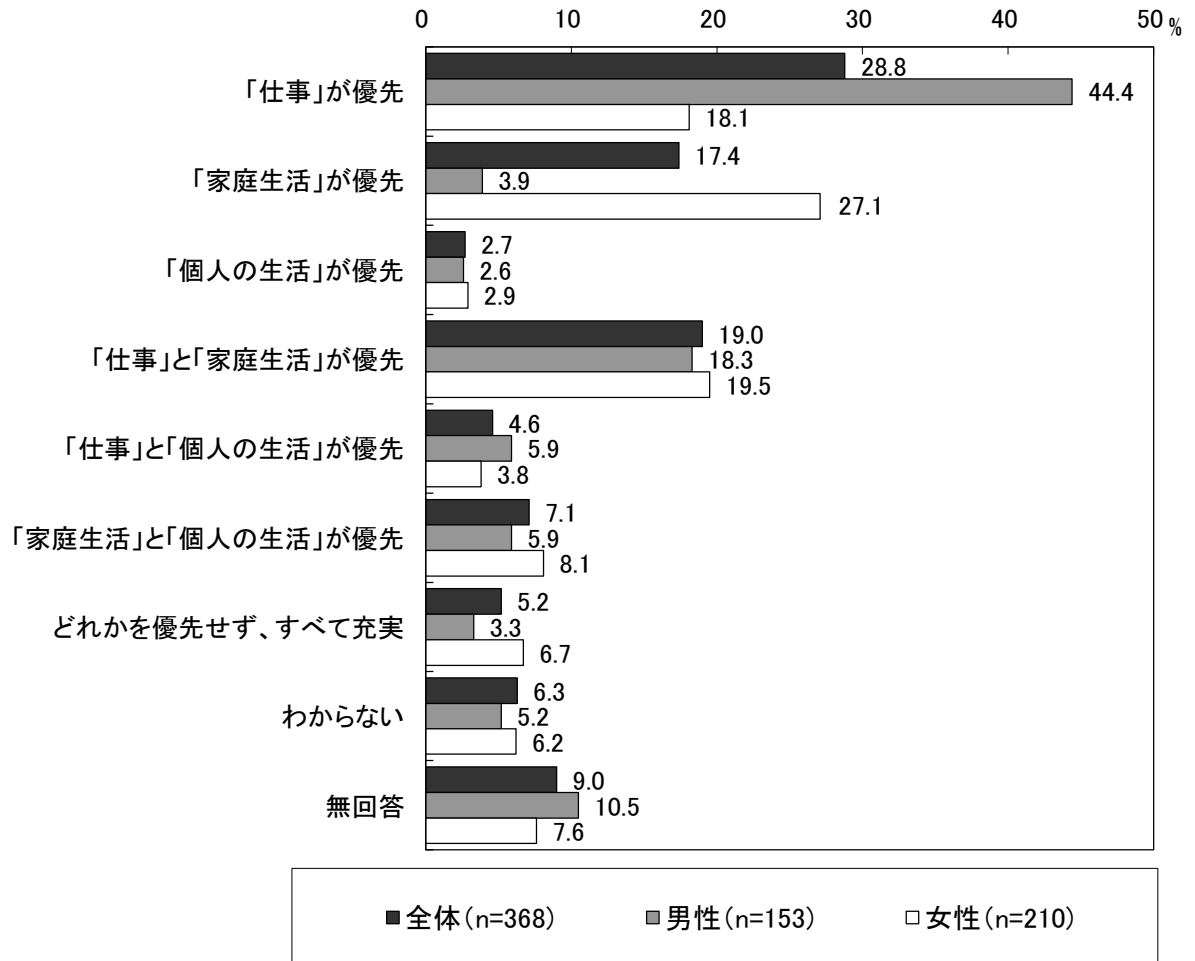
職業別にみると、男性の【派遣社員、契約社員、嘱託員】で「仕事」と「家庭生活」が優先」が50.0%、【学生】で「個人の生活」が優先」「どれかを優先せず、すべて充実」がそれぞれ50.0%、女性の【公務員、教員】で「どれかを優先せず、すべて充実」が80.0%と、他に比べて高くなっています。

	合計	「仕事」が優先	優先「家庭生活」が	が「個人の生活」	庭「仕事」と「家庭	先人の「仕事」が「個人	が「個人の生活」	「家庭生活」と	ず「どれかを優先せず、すべて充実	わからない	無回答
【年齢別・男性】											
20歳代	8	0.0	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0	0.0	
30歳代	16	6.3	25.0	12.5	18.8	12.5	6.3	18.8	0.0	0.0	
40歳代	27	3.7	14.8	7.4	7.4	3.7	37.0	22.2	0.0	3.7	
50歳代	33	6.1	12.1	0.0	21.2	0.0	21.2	30.3	3.0	6.1	
60歳代	28	0.0	14.3	3.6	25.0	3.6	3.6	39.3	0.0	10.7	
70歳代	39	5.1	5.1	12.8	30.8	7.7	5.1	17.9	0.0	15.4	
80歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
【年齢別・女性】											
20歳代	13	0.0	0.0	15.4	0.0	23.1	7.7	46.2	7.7	0.0	
30歳代	21	0.0	28.6	9.5	19.0	4.8	9.5	28.6	0.0	0.0	
40歳代	39	0.0	12.8	5.1	7.7	0.0	23.1	48.7	0.0	2.6	
50歳代	35	2.9	8.6	17.1	17.1	5.7	14.3	34.3	0.0	0.0	
60歳代	42	0.0	2.4	21.4	14.3	7.1	14.3	33.3	0.0	7.1	
70歳代	52	3.8	13.5	9.6	15.4	1.9	17.3	26.9	0.0	11.5	
80歳以上	8	12.5	0.0	12.5	37.5	0.0	25.0	0.0	0.0	12.5	
【職業別・男性】											
会社員、団体職員	69	4.3	17.4	4.3	17.4	7.2	26.1	21.7	1.4	0.0	
公務員、教員	9	0.0	33.3	11.1	22.2	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	
パート、アルバイト	7	0.0	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	14.3	
派遣社員、契約社員、嘱託員	6	0.0	0.0	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	
自営業、自由業	9	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1	44.4	0.0	11.1	
内職	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
家事専業(主婦・主夫)	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
学生	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	
無職	46	4.3	6.5	8.7	21.7	4.3	4.3	26.1	0.0	23.9	
その他	4	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0	
【職業別・女性】											
会社員、団体職員	25	4.0	4.0	8.0	16.0	16.0	8.0	44.0	0.0	0.0	
公務員、教員	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	80.0	0.0	0.0	
パート、アルバイト	59	1.7	13.6	18.6	15.3	3.4	11.9	33.9	0.0	1.7	
派遣社員、契約社員、嘱託員	5	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	
自営業、自由業	9	0.0	22.2	22.2	11.1	11.1	0.0	22.2	0.0	11.1	
内職	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
家事専業(主婦・主夫)	58	0.0	10.3	10.3	17.2	1.7	24.1	34.5	0.0	1.7	
学生	5	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0	0.0	
無職	43	4.7	9.3	11.6	11.6	2.3	18.6	23.3	0.0	18.6	
その他	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

現実

「仕事」が優先」が28.8%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」が優先」が19.0%、「家庭生活」が優先」が17.4%となっています。

性別にみると、男性で「仕事」が優先」が44.4%と、女性に比べて26.3ポイント高く、女性で「家庭生活」が優先」が27.1%と、男性に比べて23.2ポイント高くなっています。



【年齢別・職業別】

年齢別にみると、男性の70歳代以下で「仕事」が優先が3割半ばを超えて、男性の30・40・50歳代と女性の40・50・60歳代で「仕事」と「家庭生活」が優先が2割を超えています。また、女性の30歳代で「家庭生活」が優先が61.9%と、他に比べて高くなっています。

職業別にみると、男性の【学生】で「個人の生活」が優先が50.0%、女性の【公務員、教員】で「仕事」と「家庭生活」が優先が60.0%、女性の【家事専業（主婦・主夫）】で「家庭生活」が優先が56.9%と、他に比べて高くなっています。

	合計	「仕事」が優先	優先「家庭生活」が	「個人の生活」が優先	「仕事」と「家庭」が優先	「個人の生活」と「仕事」が優先	「個人の生活」と「家庭生活」が優先	「家庭生活」と「仕事」が優先	「家庭生活」が優先	わからない	無回答
【年齢別・男性】											
20歳代	8	37.5	12.5	12.5	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	
30歳代	16	50.0	6.3	6.3	31.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
40歳代	27	51.9	3.7	0.0	29.6	3.7	0.0	0.0	7.4	3.7	
50歳代	33	51.5	3.0	6.1	21.2	9.1	0.0	0.0	3.0	6.1	
60歳代	28	35.7	0.0	0.0	17.9	7.1	14.3	3.6	7.1	14.3	
70歳代	39	41.0	5.1	0.0	7.7	2.6	10.3	7.7	7.7	17.9	
80歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
【年齢別・女性】											
20歳代	13	15.4	15.4	15.4	7.7	15.4	0.0	15.4	7.7	7.7	
30歳代	21	14.3	61.9	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	0.0	0.0	
40歳代	39	12.8	15.4	5.1	38.5	0.0	7.7	10.3	7.7	2.6	
50歳代	35	17.1	34.3	0.0	22.9	2.9	5.7	8.6	5.7	2.9	
60歳代	42	21.4	23.8	0.0	23.8	2.4	11.9	4.8	4.8	7.1	
70歳代	52	23.1	21.2	1.9	11.5	5.8	7.7	3.8	9.6	15.4	
80歳以上	8	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	
【職業別・男性】											
会社員、団体職員	69	52.2	2.9	1.4	27.5	7.2	4.3	1.4	2.9	0.0	
公務員、教員	9	55.6	11.1	0.0	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
パート、アルバイト	7	42.9	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	
派遣社員、契約社員、嘱託員	6	66.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	
自営業、自由業	9	44.4	11.1	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	
内職	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
家事専業(主婦・主夫)	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
学生	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
無職	46	30.4	4.3	0.0	4.3	2.2	13.0	6.5	10.9	28.3	
その他	4	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	
【職業別・女性】											
会社員、団体職員	25	36.0	8.0	4.0	20.0	8.0	0.0	20.0	0.0	4.0	
公務員、教員	5	20.0	0.0	0.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	
パート、アルバイト	59	13.6	16.9	3.4	35.6	5.1	8.5	8.5	6.8	1.7	
派遣社員、契約社員、嘱託員	5	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	
自営業、自由業	9	33.3	22.2	0.0	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	
内職	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
家事専業(主婦・主夫)	58	15.5	56.9	0.0	3.4	0.0	10.3	5.2	6.9	1.7	
学生	5	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	
無職	43	14.0	18.6	4.7	14.0	4.7	9.3	0.0	9.3	25.6	
その他	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

【希望する「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度別】

希望の回答別にみると、概ねすべての項目で「仕事」が優先が、【どれかを優先せず、すべて充実】で「仕事」と「家庭生活」が優先が、それぞれ最も高くなっています。

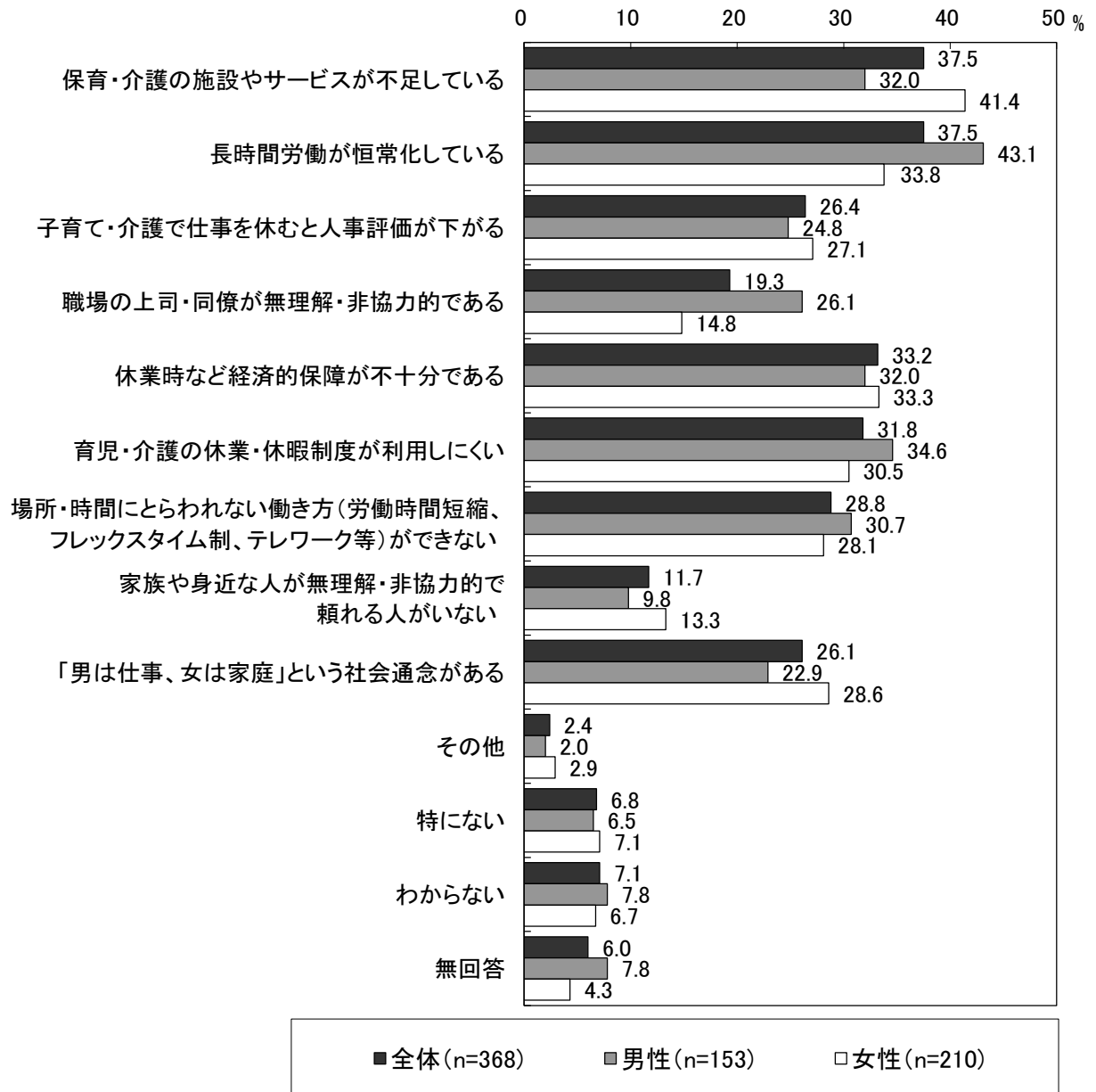
「希望」のとおり「現実」を選択している割合（斜体・下線部）をみると、【「仕事」が優先】と【「家庭生活」が優先】では3割台と他に比べて高くなっています。

	合計	「仕事」が優先	「家庭生活」が優先	先「個人の生活」が優先	活「仕事」と「家庭生活」が優先	生「仕事」と「個人の生活」が優先	人「家庭生活」と「個人の生活」が優先	すどれかを優先せず、すべて充実	わからない	無回答
【希望する「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度】										
「仕事」が優先	10	<u>30.0</u>	0.0	0.0	30.0	10.0	10.0	10.0	0.0	10.0
「家庭生活」が優先	44	38.6	<u>36.4</u>	0.0	9.1	6.8	2.3	4.5	2.3	0.0
「個人の生活」が優先	39	28.2	17.9	<u>5.1</u>	23.1	5.1	10.3	2.6	5.1	2.6
「仕事」と「家庭生活」が優先	61	44.3	14.8	1.6	<u>16.4</u>	3.3	6.6	3.3	4.9	4.9
「仕事」と「個人の生活」が優先	17	64.7	0.0	5.9	5.9	<u>17.6</u>	5.9	0.0	0.0	0.0
「家庭生活」と「個人の生活」が優先	56	32.1	25.0	0.0	26.8	3.6	<u>10.7</u>	1.8	0.0	0.0
どれかを優先せず、すべて充実	113	16.8	15.9	5.3	24.8	3.5	8.0	<u>10.6</u>	13.3	1.8
わからない	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	<u>100.0</u>	0.0

問21 ワーク・ライフ・バランスを阻害している要因になっていると思うのはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

「保育・介護の施設やサービスが不足している」「長時間労働が恒常化している」がそれぞれ 37.5%と最も高く、次いで「休業時など経済的保証が不十分である」が 33.2%となっています。

性別にみると、女性では「保育・介護の施設やサービスが不足している」が 41.4%と、男性に比べて 9.4 ポイント高く、男性では「長時間労働が恒常化している」が 43.1%と、女性に比べて 9.3 ポイント高くなっています。



【年齢別・働き方状況別】

年齢別にみると、男性の20・30・40・80歳以上で「長時間労働が恒常化している」が最も高く、男性の30歳代・80歳以上と女性の20歳代では5割を超えています。また、女性の80歳以上で「子育て・介護で仕事を休むと人事評価が下がる」が62.5%、男性の20・30・50・70歳代で「職場の上司・同僚が無理解・非協力的である」が3割を超えて、男性の70歳代と女性の30歳代・80歳以上で「男は仕事、女は家庭」という社会通念がある」が4割を超えており、他に比べて高くなっています。

働き方状況別にみると、【共働き】で「休業時など経済的保障が不十分である」が37.7%、【夫（男性・パートナー）のみ働いている】と【妻（女性・パートナー）のみ働いている】で「子育て・介護で仕事を休むと人事評価が下がる」が3割台と、他に比べて高くなっています。

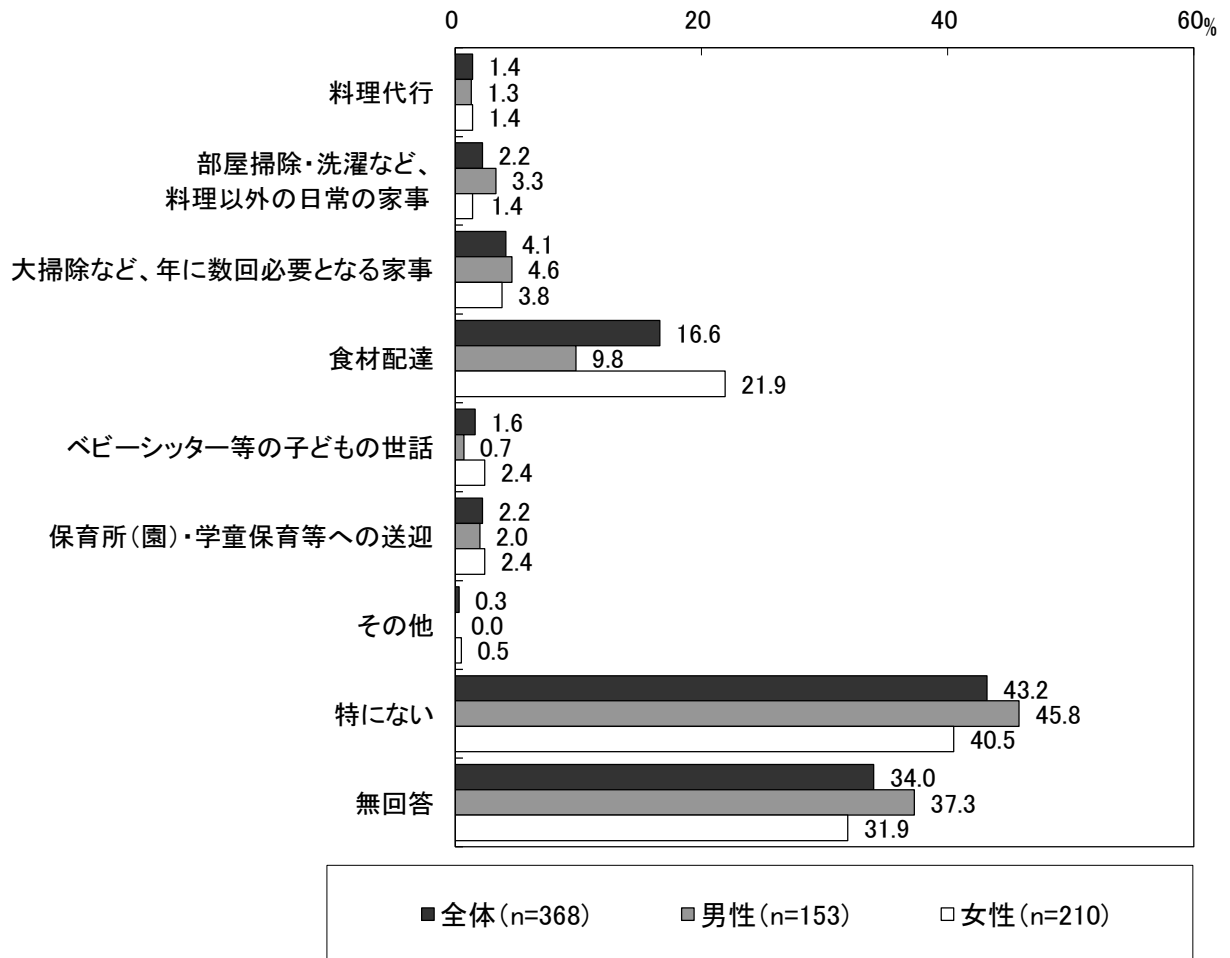
	合計	保育・介護の施設やサービスが不足している	長時間労働が恒常化している	子育て・介護で仕事を休むと人事評価が下がる	職場の上司・同僚が無理解・非協力的である	休業時など経済的保障が不十分である	育児・介護の休業・休暇制度が利用しにくい	場所・時間にとらわれない働き方（労働時間短縮、フレックスタイム等）ができない	家族や身近な人が無理解・非協力的で頼れる人がいない	「男は仕事、女は家庭」という社会通念がある	その他	特になし	わからない	無回答
【年齢別・男性】														
20歳代	8	0.0	37.5	0.0	37.5	25.0	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	12.5	0.0
30歳代	16	25.0	62.5	18.8	37.5	25.0	31.3	37.5	12.5	18.8	6.3	0.0	0.0	0.0
40歳代	27	33.3	48.1	18.5	11.1	37.0	29.6	25.9	0.0	18.5	3.7	0.0	11.1	3.7
50歳代	33	33.3	39.4	18.2	30.3	24.2	33.3	45.5	9.1	15.2	0.0	9.1	18.2	3.0
60歳代	28	35.7	35.7	35.7	14.3	28.6	39.3	42.9	10.7	14.3	3.6	14.3	3.6	10.7
70歳代	39	38.5	41.0	35.9	35.9	41.0	46.2	15.4	17.9	41.0	0.0	7.7	2.6	15.4
80歳以上	2	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
【年齢別・女性】														
20歳代	13	61.5	53.8	15.4	15.4	38.5	30.8	46.2	0.0	23.1	0.0	0.0	15.4	0.0
30歳代	21	42.9	38.1	38.1	9.5	28.6	23.8	38.1	14.3	42.9	4.8	9.5	0.0	0.0
40歳代	39	23.1	35.9	25.6	17.9	38.5	25.6	33.3	17.9	23.1	5.1	10.3	5.1	2.6
50歳代	35	25.7	28.6	28.6	8.6	31.4	28.6	31.4	25.7	31.4	8.6	8.6	5.7	0.0
60歳代	42	54.8	35.7	31.0	21.4	38.1	31.0	26.2	9.5	23.8	0.0	7.1	4.8	7.1
70歳代	52	48.1	28.8	17.3	11.5	28.8	36.5	17.3	5.8	26.9	0.0	5.8	11.5	9.6
80歳以上	8	50.0	25.0	62.5	25.0	25.0	37.5	12.5	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【働き方状況別】														
共働き	114	30.7	41.2	19.3	15.8	37.7	28.9	39.5	14.0	19.3	2.6	7.0	5.3	3.5
夫（男性・パートナー）のみ働いている	63	39.7	34.9	34.9	19.0	28.6	34.9	38.1	11.1	27.0	1.6	9.5	4.8	3.2
妻（女性・パートナー）のみ働いている	13	38.5	53.8	30.8	23.1	7.7	30.8	30.8	15.4	30.8	0.0	7.7	0.0	7.7
ともに無職	68	39.7	32.4	25.0	19.1	29.4	38.2	13.2	8.8	33.8	1.5	8.8	10.3	13.2
その他	1	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問22 家事代行等の外部サービスについて、利用したことがあるもの、今後利用したいと思うものをそれぞれをお答えください。(それぞれにあてはまる番号すべてを記入)

利用したことがあるもの

「特にない」が43.2%と最も高く、次いで「食材配達」が16.6%、「大掃除など、年に数回必要となる家事」が4.1%となっています。

性別にみると、女性で「食材配達」が21.9%と、男性に比べて12.1ポイント高くなっています。



【年齢別・働き方状況別】

年齢別にみると、女性の30歳代で「食材配達」が52.4%と、他に比べて高くなっています。

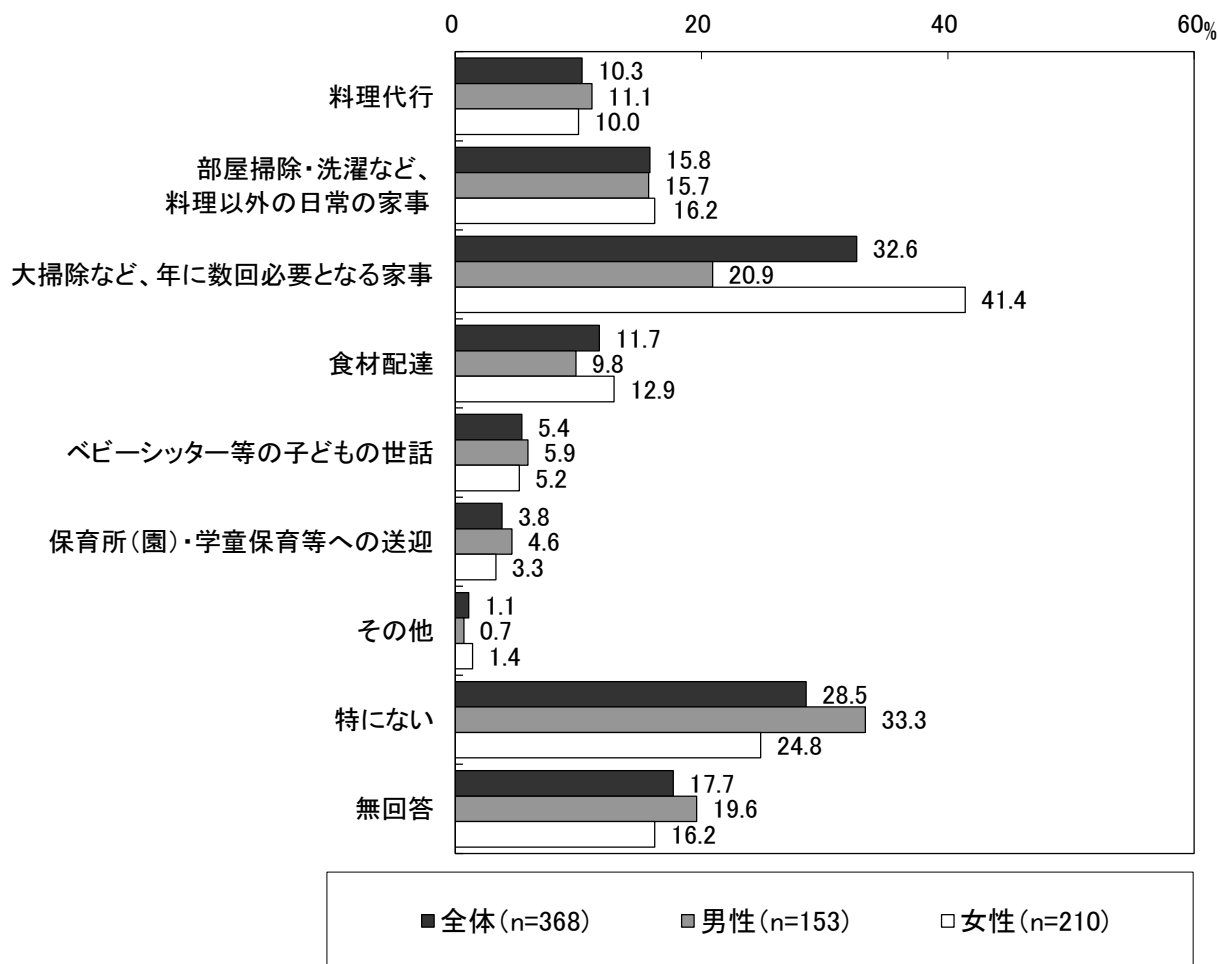
働き方状況別にみると、【共働き】で「食材配達」が27.2%と、他に比べて高くなっています。

	合計	料理代行	部屋掃除・洗濯など、料理以外の日常の家事	大掃除など、年に数回必要となる家事	食材配達	ベビーシッター等の子どもの世話	迎保育所（園）・学童保育等への送	その他	特にな	無回答
【年齢別・男性】										
20歳代	8	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	75.0	12.5
30歳代	16	0.0	0.0	6.3	18.8	0.0	0.0	0.0	43.8	37.5
40歳代	27	0.0	0.0	7.4	14.8	0.0	0.0	0.0	59.3	25.9
50歳代	33	3.0	3.0	6.1	9.1	0.0	0.0	0.0	54.5	24.2
60歳代	28	3.6	10.7	7.1	7.1	3.6	3.6	0.0	28.6	46.4
70歳代	39	0.0	2.6	0.0	5.1	0.0	5.1	0.0	38.5	51.3
80歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
【年齢別・女性】										
20歳代	13	0.0	0.0	0.0	23.1	0.0	0.0	0.0	61.5	15.4
30歳代	21	4.8	4.8	4.8	52.4	4.8	4.8	0.0	33.3	9.5
40歳代	39	0.0	0.0	2.6	23.1	2.6	5.1	0.0	48.7	25.6
50歳代	35	0.0	0.0	8.6	25.7	2.9	0.0	0.0	37.1	31.4
60歳代	42	0.0	2.4	2.4	11.9	2.4	0.0	0.0	45.2	35.7
70歳代	52	1.9	1.9	3.8	13.5	1.9	3.8	1.9	32.7	46.2
80歳以上	8	12.5	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	37.5
【働き方状況別】										
共働き	114	2.6	3.5	7.0	27.2	3.5	3.5	0.0	40.4	24.6
夫(男性・パートナー)のみ働いている	63	0.0	0.0	4.8	14.3	0.0	1.6	0.0	60.3	20.6
妻(女性・パートナー)のみ働いている	13	0.0	7.7	0.0	15.4	15.4	7.7	0.0	46.2	15.4
ともに無職	68	1.5	2.9	1.5	14.7	0.0	2.9	0.0	27.9	51.5
その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

今後利用したいと思うもの

「大掃除など、年に数回必要となる家事」が32.6%と最も高く、次いで「特にない」が28.5%、「部屋掃除・洗濯など、料理以外の日常の家事」が15.8%となっています。

性別にみると、女性で「大掃除など、年に数回必要となる家事」が41.4%と、男性に比べて20.5ポイント高く、男性で「特にない」が33.3%と、女性に比べて8.5ポイント高くなっています。



【年齢別・働き方状況別】

年齢別にみると、男性の30歳代で「部屋掃除・洗濯など、料理以外の日常の家事」「大掃除など、年に数回必要となる家事」が37.5%、女性の30・40・50・60歳代で「大掃除など、年に数回必要となる家事」が4割を超えて、女性の20歳代で「ベビーシッター等の子どもの世話」が23.1%と、他に比べて高くなっています。

働き方状況別にみると、【共働き】【夫（男性・パートナー）のみ働いている】【妻（女性・パートナー）のみ働いている】の“いずれかが働いている”で「大掃除など、年に数回必要となる家事」が3割半ばを超えて高くなっています。また、【夫（男性・パートナー）のみ働いている】で「特にない」が34.9%と、他に比べて割合が高くなっています。

	合計	料理代行	部屋掃除・洗濯など、料理以外の日常の家事	大掃除など、年に数回必要となる家事	食材配達	ベビーシッター等の子どもの世話	迎保育所（園）・学童保育等への送	その他	特にない	無回答
【年齢別・男性】										
20歳代	8	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	62.5	0.0
30歳代	16	25.0	37.5	37.5	12.5	12.5	6.3	0.0	25.0	6.3
40歳代	27	7.4	18.5	18.5	3.7	7.4	7.4	0.0	44.4	11.1
50歳代	33	15.2	12.1	24.2	12.1	6.1	3.0	0.0	33.3	12.1
60歳代	28	7.1	21.4	21.4	10.7	3.6	3.6	0.0	17.9	28.6
70歳代	39	7.7	5.1	15.4	10.3	2.6	5.1	2.6	33.3	33.3
80歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
【年齢別・女性】										
20歳代	13	7.7	23.1	15.4	0.0	23.1	15.4	7.7	30.8	7.7
30歳代	21	19.0	19.0	47.6	28.6	19.0	9.5	0.0	14.3	9.5
40歳代	39	12.8	25.6	46.2	15.4	7.7	7.7	0.0	28.2	10.3
50歳代	35	14.3	11.4	45.7	5.7	0.0	0.0	2.9	31.4	8.6
60歳代	42	2.4	4.8	47.6	7.1	2.4	0.0	2.4	28.6	16.7
70歳代	52	9.6	19.2	34.6	17.3	0.0	0.0	0.0	21.2	26.9
80歳以上	8	0.0	12.5	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5
【働き方状況別】										
共働き	114	16.7	21.9	37.7	9.6	7.9	7.0	0.9	25.4	12.3
夫（男性・パートナー）のみ働いている	63	4.8	6.3	34.9	15.9	11.1	1.6	1.6	34.9	7.9
妻（女性・パートナー）のみ働いている	13	7.7	30.8	38.5	15.4	0.0	7.7	0.0	15.4	7.7
ともに無職	68	10.3	11.8	25.0	16.2	1.5	1.5	0.0	26.5	29.4
その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

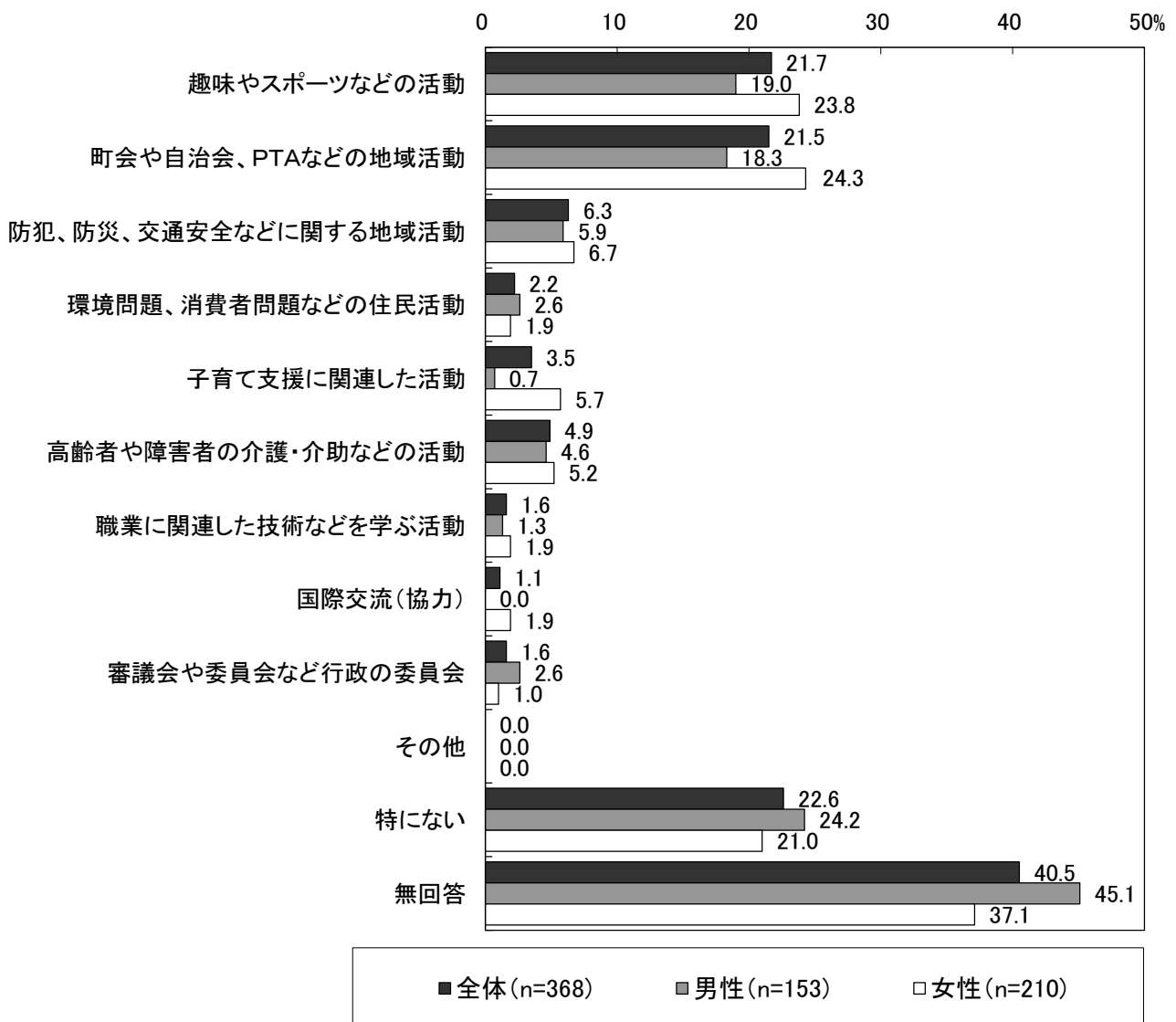
6 社会参加・地域参加について

問23 あなたは、次に挙げる地域での活動に、参加していますか。また、今後参加したい（今後
も参加したいものも含む。）と思われるのはどのような活動ですか。（それぞれあてはまる
ものすべてに○）

現在参加している活動

「特にない」が22.6%と最も高く、次いで「趣味やスポーツなどの活動」が21.7%、「町会や自治会、PTAなどの地域活動」が21.5%となっています。

性別にみると、女性で「趣味やスポーツなどの活動」「町会や自治会、PTAなどの地域活動」「子育て支援に関連した活動」が、男性に比べて約5ポイント高くなっています。



【年齢別】

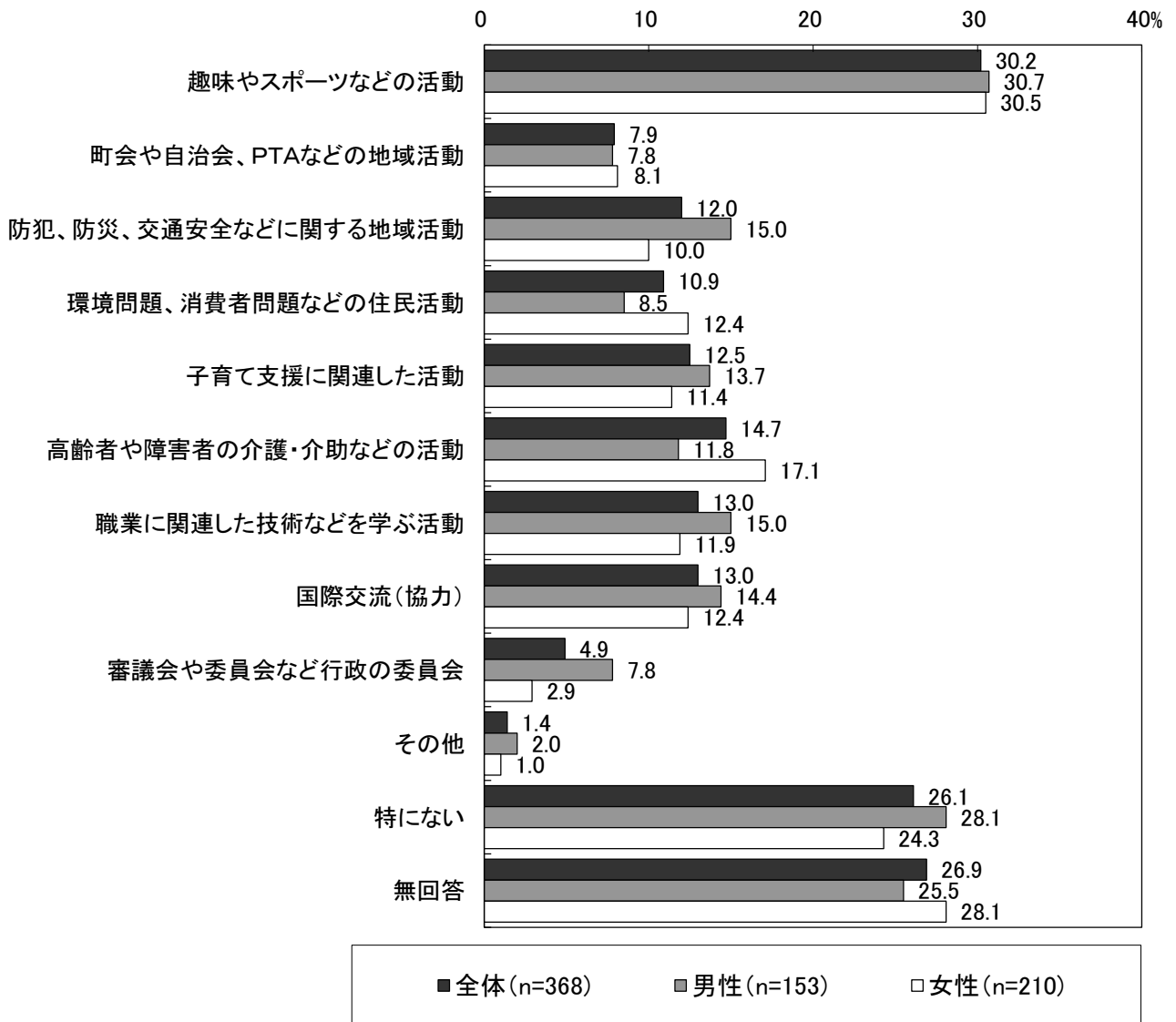
年齢別にみると、男性の70歳代と女性の60歳代以上で「趣味やスポーツなどの活動」が3割を超えて、男性の50・60歳代と女性の30歳代以上で「町会や自治会、PTAなどの地域活動」が2割を超えており、他に比べて高くなっています。

	合計	趣味やスポーツなどの活動	町会や自治会、PTAなどの地域活動	防犯、防災、交通安全などに関する地域活動	環境問題、消費者問題などの住民活動	子育て支援に関連した活動	高齢者や障害者の介護・介助などの活動	職業に関連した技術などを学ぶ活動	国際交流（協力）	審議会や委員会など行政の委員会	その他	特にない	無回答
【年齢別・男性】													
20歳代	8	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5	50.0
30歳代	16	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	31.3	62.5
40歳代	27	7.4	18.5	3.7	0.0	0.0	7.4	0.0	0.0	7.4	0.0	25.9	51.9
50歳代	33	21.2	24.2	9.1	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	3.0	0.0	24.2	36.4
60歳代	28	21.4	25.0	10.7	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	3.6	0.0	25.0	42.9
70歳代	39	33.3	17.9	5.1	10.3	2.6	10.3	2.6	0.0	0.0	0.0	17.9	38.5
80歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
【年齢別・女性】													
20歳代	13	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	30.8	46.2
30歳代	21	0.0	23.8	0.0	0.0	19.0	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	33.3	28.6
40歳代	39	10.3	28.2	5.1	5.1	10.3	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	20.5	38.5
50歳代	35	14.3	28.6	14.3	0.0	8.6	8.6	8.6	0.0	2.9	0.0	20.0	42.9
60歳代	42	35.7	21.4	4.8	0.0	2.4	4.8	0.0	2.4	0.0	0.0	23.8	31.0
70歳代	52	36.5	25.0	7.7	1.9	0.0	11.5	0.0	3.8	0.0	0.0	13.5	40.4
80歳以上	8	50.0	37.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	25.0

今後参加したい活動

「趣味やスポーツなどの活動」が30.2%と最も高く、次いで「特にない」が26.1%、「高齢者や障害者の介護・介助などの活動」が14.7%となっています。

性別にみると、男性で「防犯、防災、交通安全などに関する地域活動」が15.0%と、女性に比べて5.0ポイント高く、女性で「高齢者や障害者の介護・介助などの活動」が17.1%と、男性に比べて5.3ポイント高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、女性の20歳代で「趣味やスポーツなどの活動」「子育て支援に関連した活動」「職業に関連した技術などを学ぶ活動」「国際交流（協力）」が、男性の50歳代で「趣味やスポーツなどの活動」「国際交流（協力）」が、それぞれ最も高くなっています。

また、男性の30歳代と女性の30・40・50歳代で「趣味やスポーツなどの活動」が4割を超えて、他に比べて高くなっています。

	合計	趣味やスポーツなどの活動	町会や自治会、PTAなどの地域活動	防犯、防災、交通安全などに関する地域活動	環境問題、消費者問題などの住民活動	子育て支援に関連した活動	高齢者や障害者の介護・介助などの活動	職業に関連した技術などを学ぶ活動	国際交流（協力）	審議会や委員会など行政の委員会	その他	特になし	無回答
【年齢別・男性】													
20歳代	8	25.0	25.0	25.0	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	37.5	25.0
30歳代	16	50.0	25.0	31.3	12.5	31.3	12.5	31.3	18.8	12.5	6.3	25.0	6.3
40歳代	27	37.0	3.7	11.1	3.7	11.1	7.4	22.2	7.4	11.1	0.0	18.5	29.6
50歳代	33	33.3	9.1	15.2	12.1	15.2	18.2	24.2	33.3	9.1	3.0	24.2	12.1
60歳代	28	28.6	0.0	10.7	14.3	14.3	21.4	7.1	10.7	7.1	0.0	28.6	32.1
70歳代	39	20.5	5.1	12.8	2.6	5.1	2.6	2.6	5.1	2.6	2.6	38.5	33.3
80歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
【年齢別・女性】													
20歳代	13	38.5	15.4	23.1	23.1	38.5	30.8	38.5	38.5	7.7	7.7	23.1	15.4
30歳代	21	47.6	4.8	9.5	0.0	28.6	4.8	14.3	19.0	0.0	0.0	23.8	14.3
40歳代	39	43.6	10.3	20.5	15.4	15.4	23.1	17.9	17.9	7.7	0.0	25.6	17.9
50歳代	35	40.0	2.9	5.7	11.4	0.0	5.7	8.6	14.3	0.0	0.0	20.0	31.4
60歳代	42	28.6	9.5	9.5	14.3	7.1	21.4	11.9	4.8	2.4	0.0	26.2	21.4
70歳代	52	11.5	9.6	3.8	13.5	3.8	17.3	1.9	3.8	1.9	1.9	21.2	48.1
80歳以上	8	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	12.5	12.5	0.0	0.0	50.0	25.0

7 人権について

問24 あなたは、LGBT等（性的少数者）についてどの程度知っていますか。（〇は1つ）

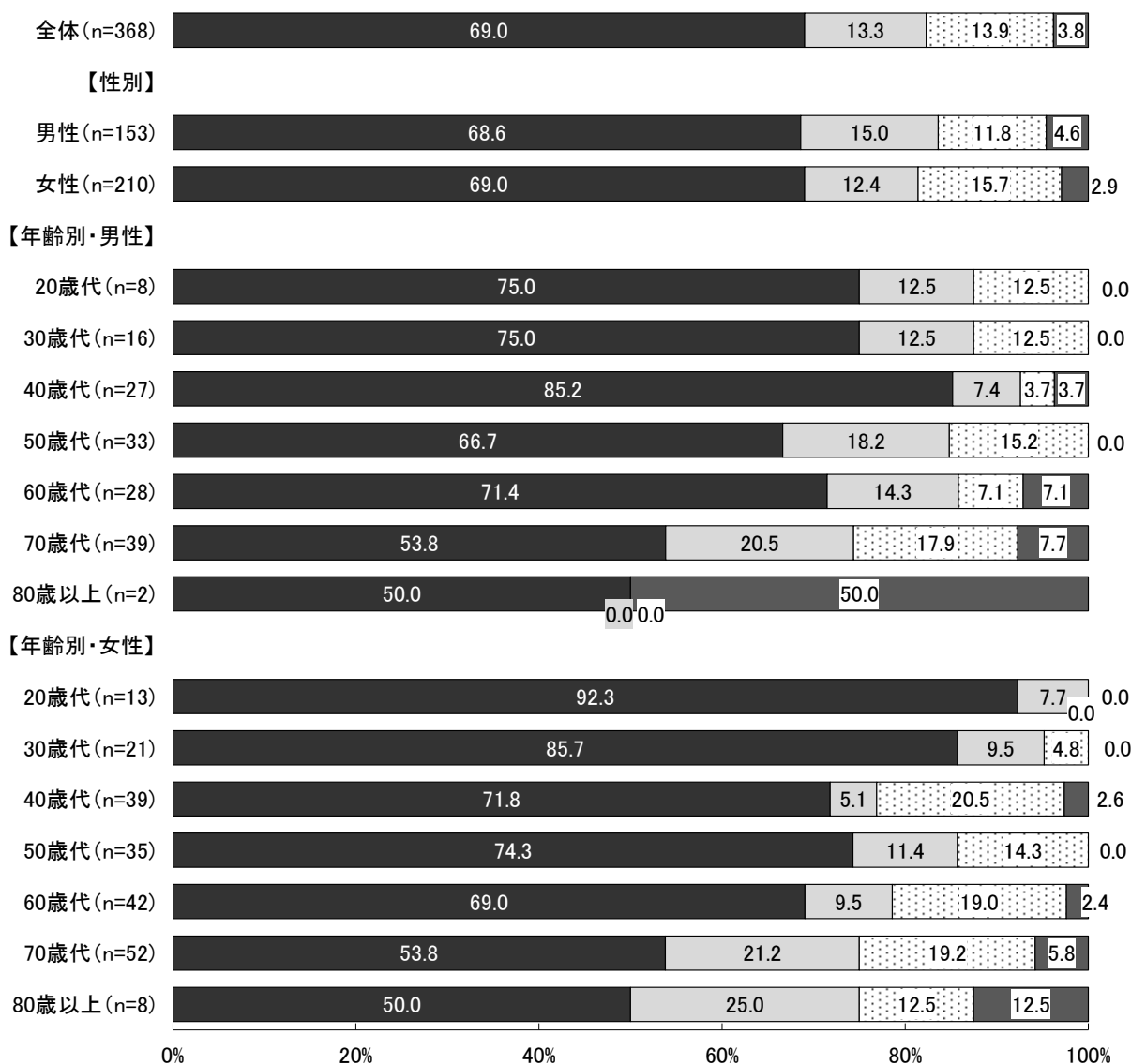
◆LGBT等（性的少数者）

近年、性同一性障害者、異性装者、同性愛者や両性愛者、先天的に身体上の性別が不明瞭である人（インターセックス）など、多様な性の在り方について、女性同性愛者（Lesbian）、男性同性愛者（Gay）、両性愛者（Bisexual）、トランスジェンダー（Transgender：身体の性別とは異なる性別を生きる／生きたいと望む人）の頭文字を用いて、LGBTと表現している。

「言葉も意味も両方を知っている」が69.0%と最も高く、次いで「言葉も意味も知らなかった」が13.9%、「言葉は聞いたことはあるが、意味は知らない」が13.3%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

年齢別にみると、男女ともに70歳代以上で「言葉も意味も両方を知っている」が5割台と、他に比べて低くなっています。

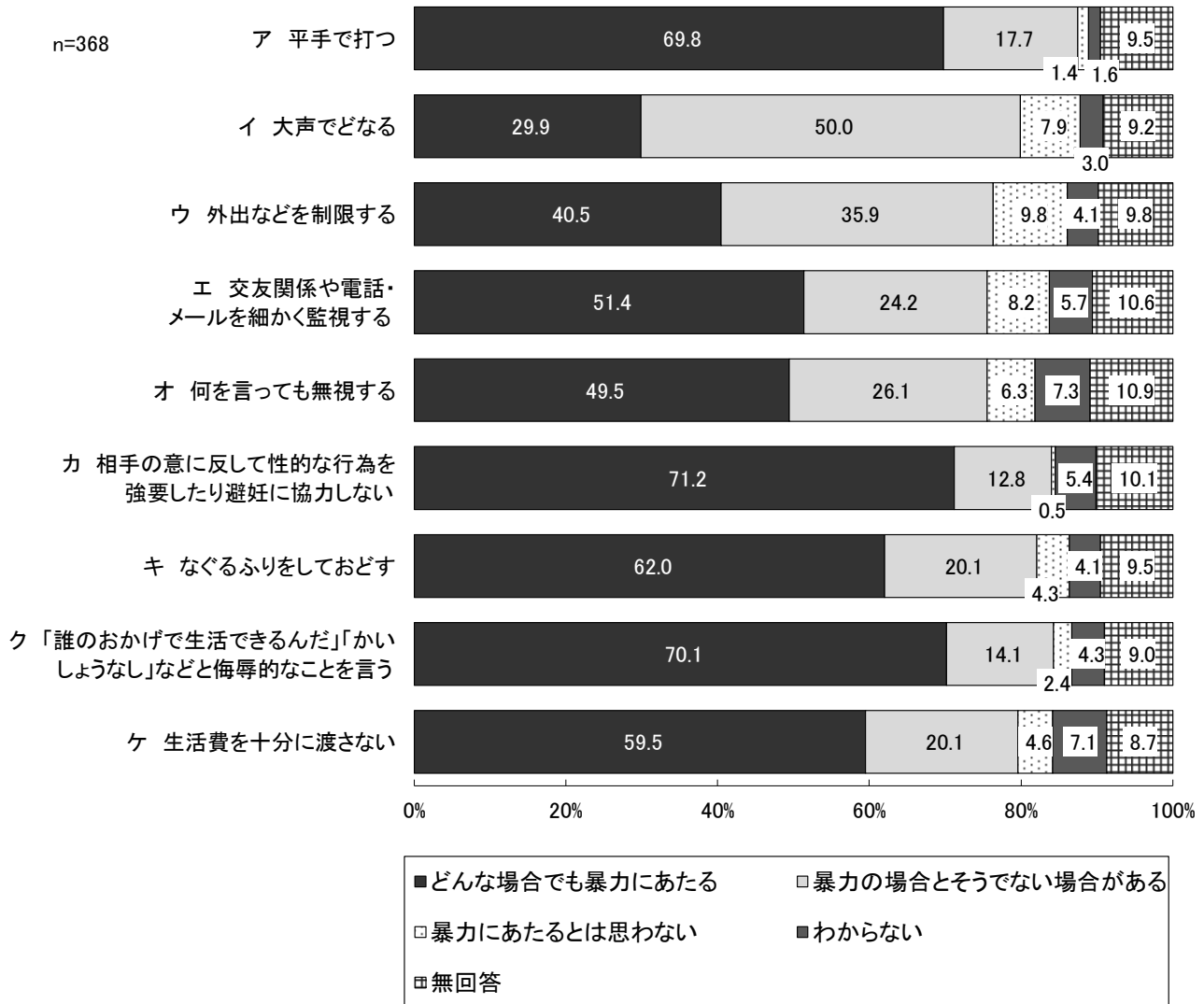


言葉も意味も両方を知っている 言葉は聞いたことはあるが、意味は知らない
 言葉も意味も知らなかった 無回答

問25 次のようなことが配偶者やパートナー（*）との間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。（ア～ケまでそれぞれ〇は1つ）

(*)「配偶者やパートナー」とは、夫・妻(事実婚や別居中を含む。)、元夫・妻、同棲相手、恋人、元恋人など、一定期間親密な関係にある(あった)相手をさします。

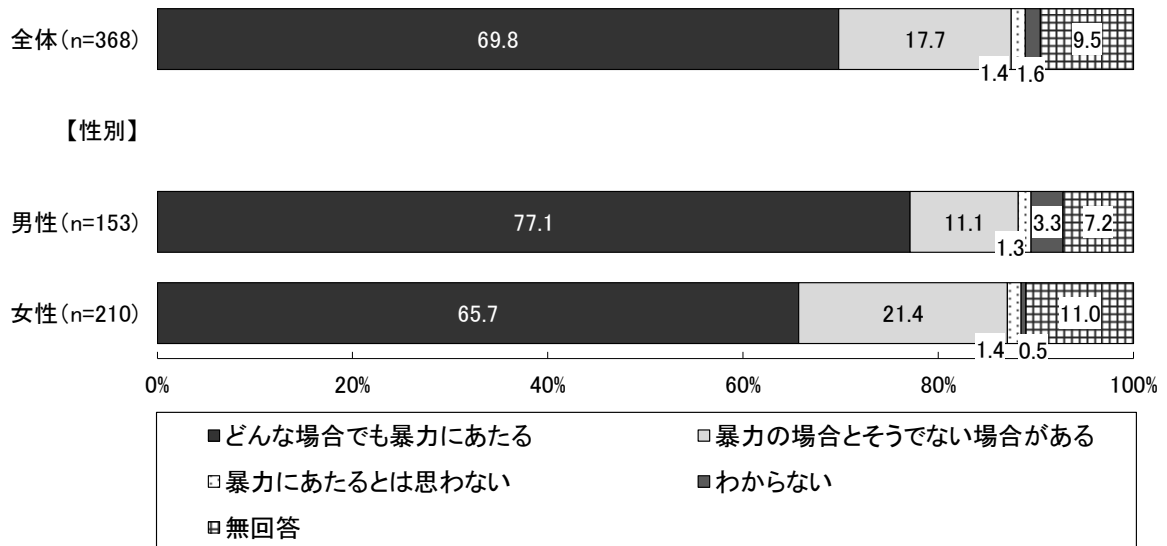
「どんな場合でも暴力にあたる」では、【相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない】が71.2%と最も高く、次いで【「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことを言う】が70.1%、【平手で打つ】が69.8%となっています。



ア 平手で打つ

「どんな場合でも暴力にあたる」が69.8%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が17.7%、「わからない」が1.6%となっています。

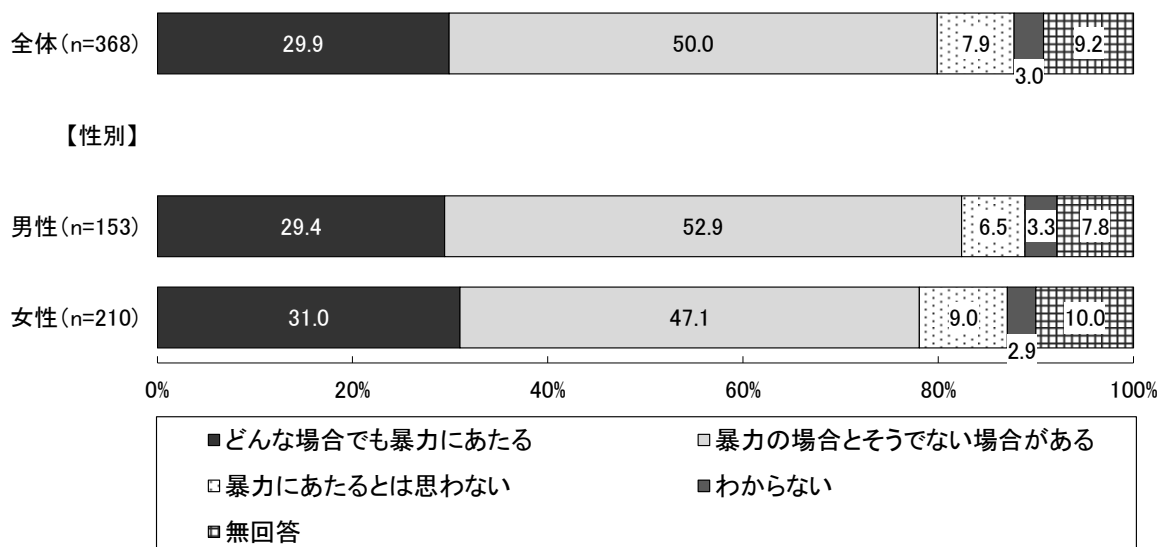
性別にみると、男性で「どんな場合でも暴力にあたる」が77.1%と、女性に比べて11.4ポイント高くなっています。



イ 大声でどなる

「暴力の場合とそうでない場合がある」が50.0%と最も高く、次いで「どんな場合でも暴力にあたる」が29.9%、「暴力にあたるとは思わない」が7.9%となっています。

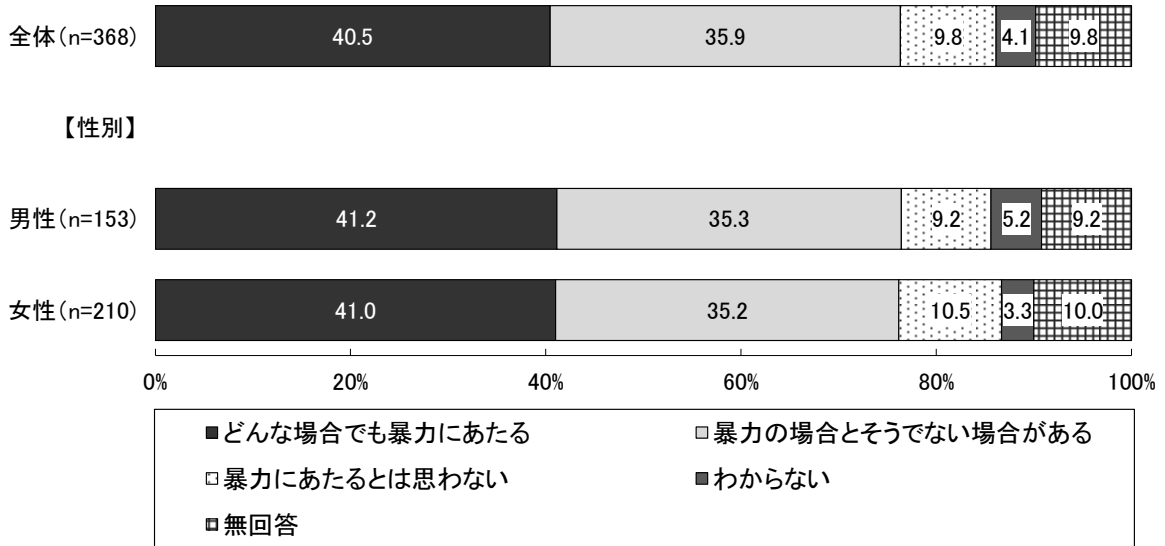
性別にみると、男性で「暴力の場合とそうでない場合がある」が52.9%と、女性に比べて5.8ポイント高くなっています。



ウ 外出などを制限する

「どんな場合でも暴力にあたる」が40.5%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が35.9%、「暴力にあたるとは思わない」が9.8%となっています。

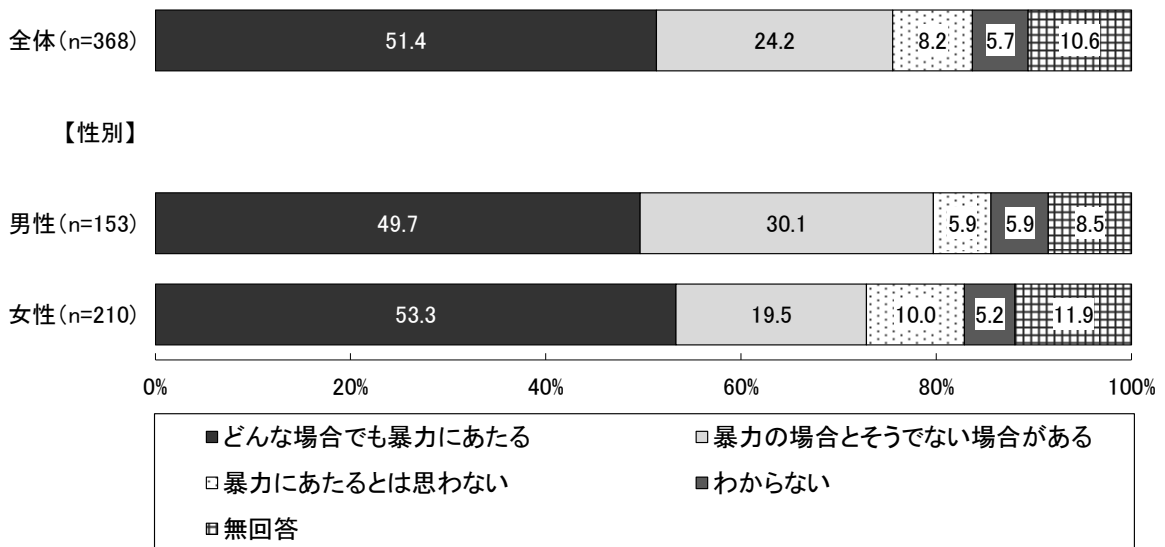
性別にみると、全体と同様の傾向となっています。



エ 交友関係や電話・メールを細かく監視する

「どんな場合でも暴力にあたる」が51.4%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が24.2%、「暴力にあたるとは思わない」が8.2%となっています。

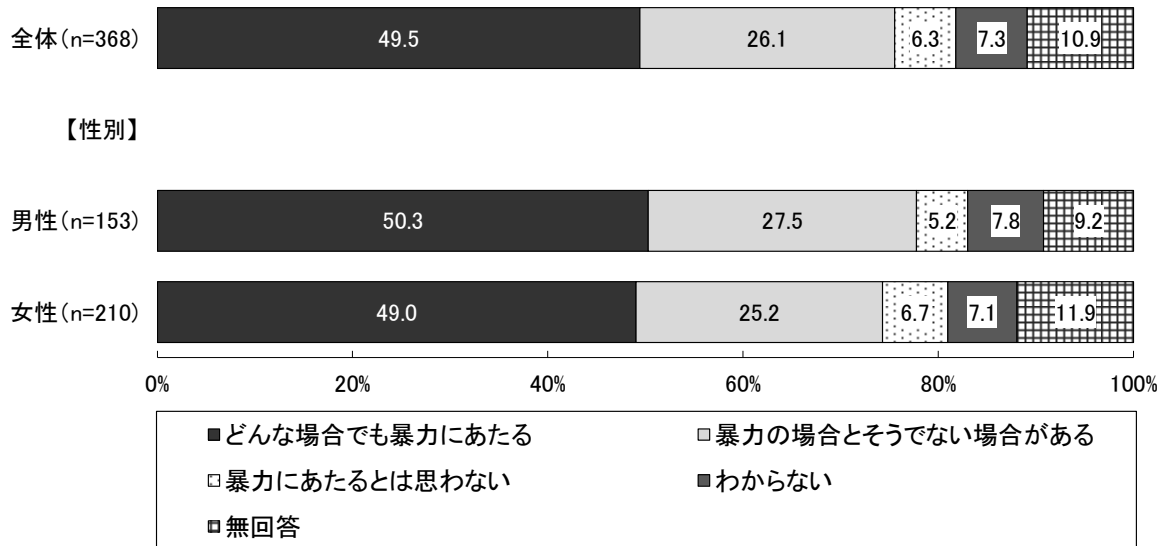
性別にみると、男性で「暴力の場合とそうでない場合がある」が30.1%と、女性に比べて10.6ポイント高くなっています。



オ 何を言っても無視する

「どんな場合でも暴力にあたる」が49.5%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が26.1%、「わからない」が7.3%となっています。

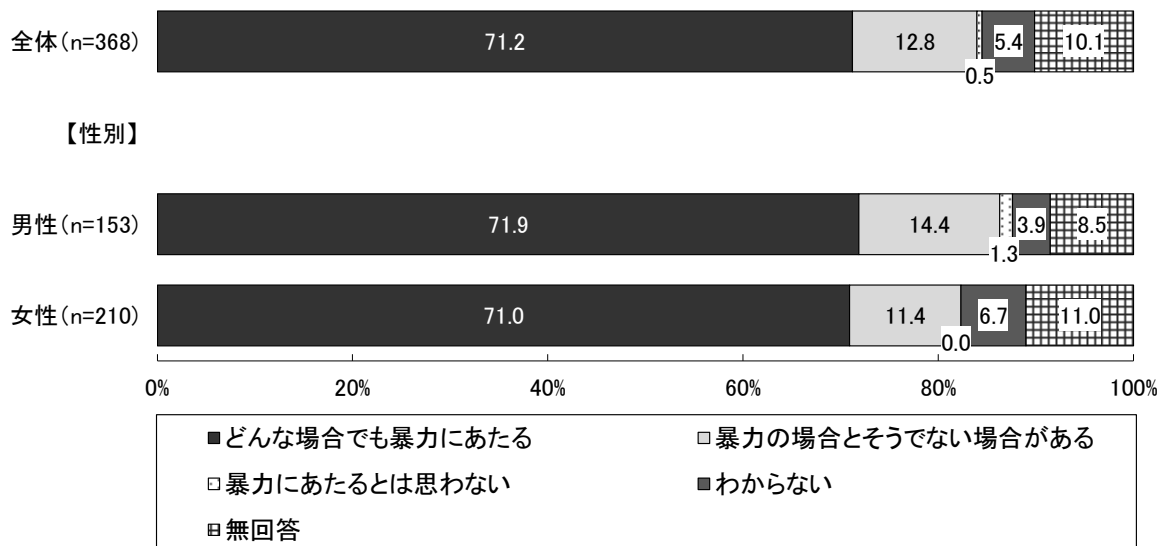
性別にみると、全体と同様の傾向となっています。



カ 相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない

「どんな場合でも暴力にあたる」が71.2%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が12.8%、「わからない」が5.4%となっています。

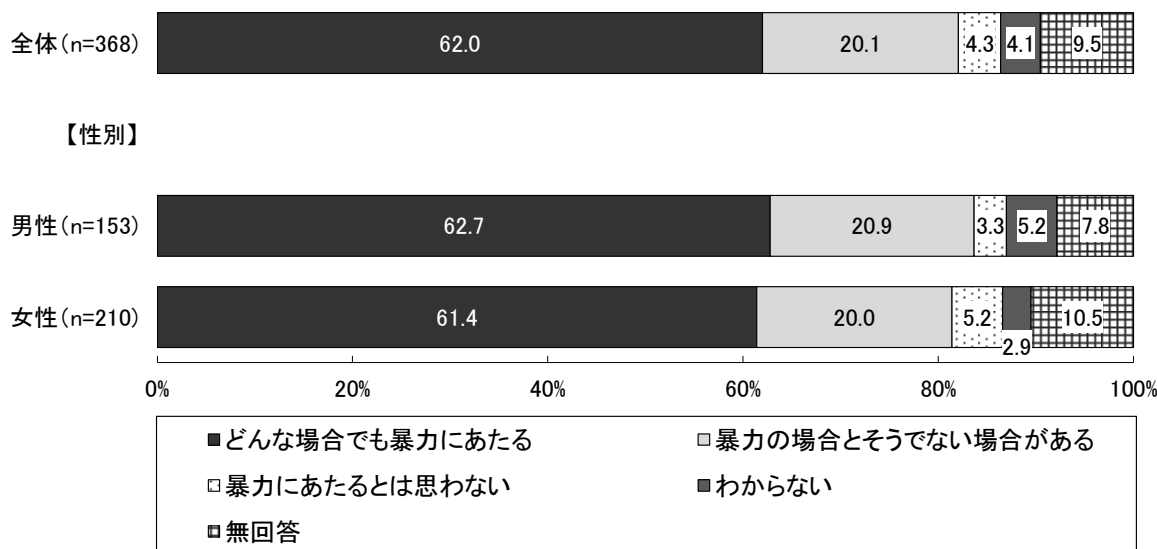
性別にみると、全体と同様の傾向となっています。



キ なぐるふりをしておどす

「どんな場合でも暴力にあたる」が62.0%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が20.1%、「暴力にあたるとは思わない」が4.3%となっています。

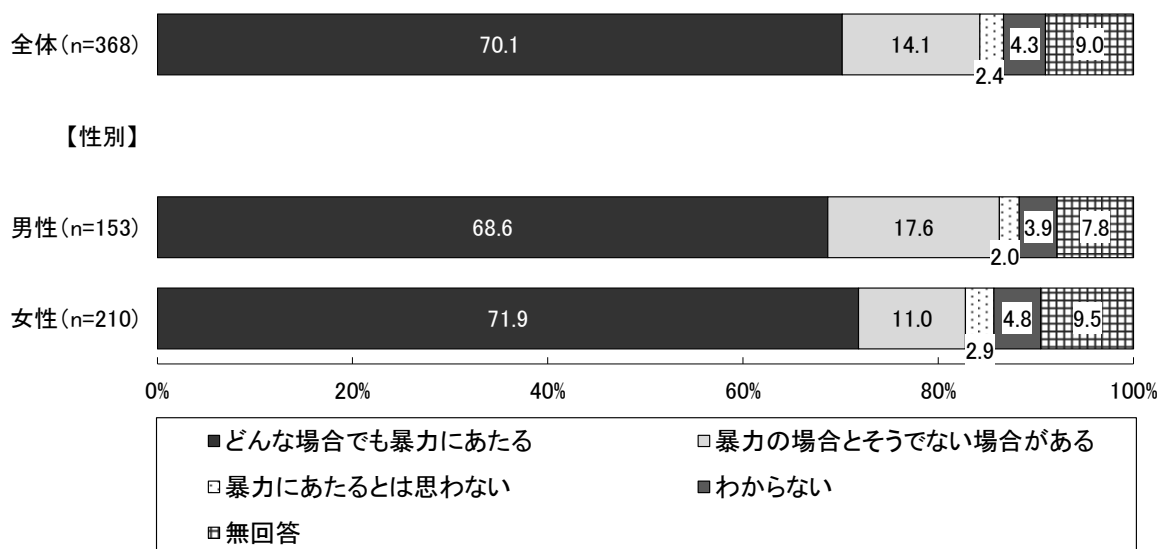
性別にみると、全体と同様の傾向となっています。



ク 「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことを言う

「どんな場合でも暴力にあたる」が70.1%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が14.1%、「わからない」が4.3%となっています。

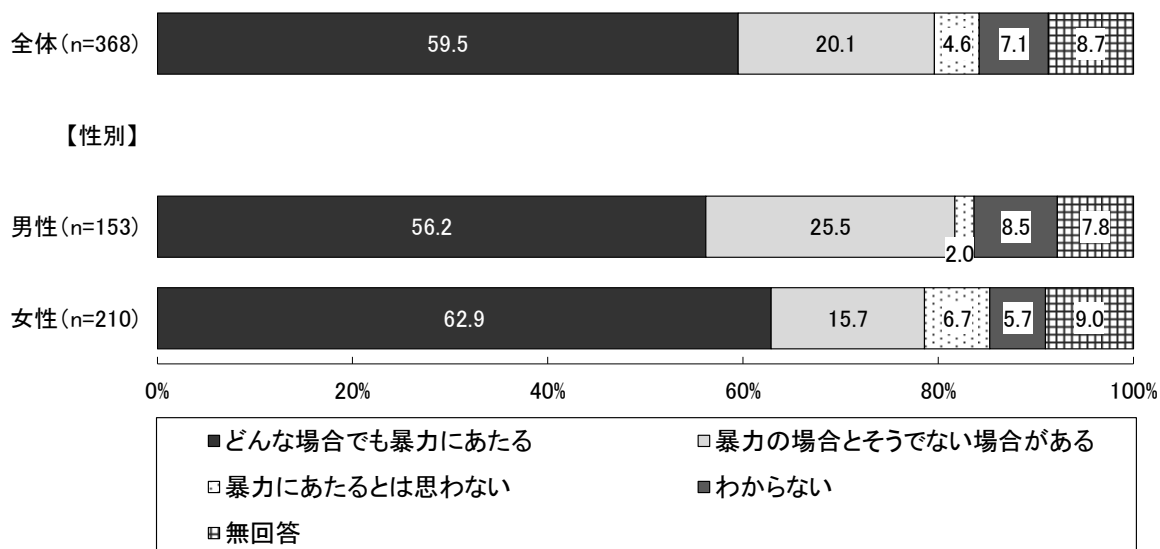
性別にみると、男性で「暴力の場合とそうでない場合がある」が17.6%と、女性に比べて6.6ポイント高くなっています。



ケ 生活費を十分に渡さない

「どんな場合でも暴力にあたる」が59.5%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が20.1%、「わからない」が7.1%となっています。

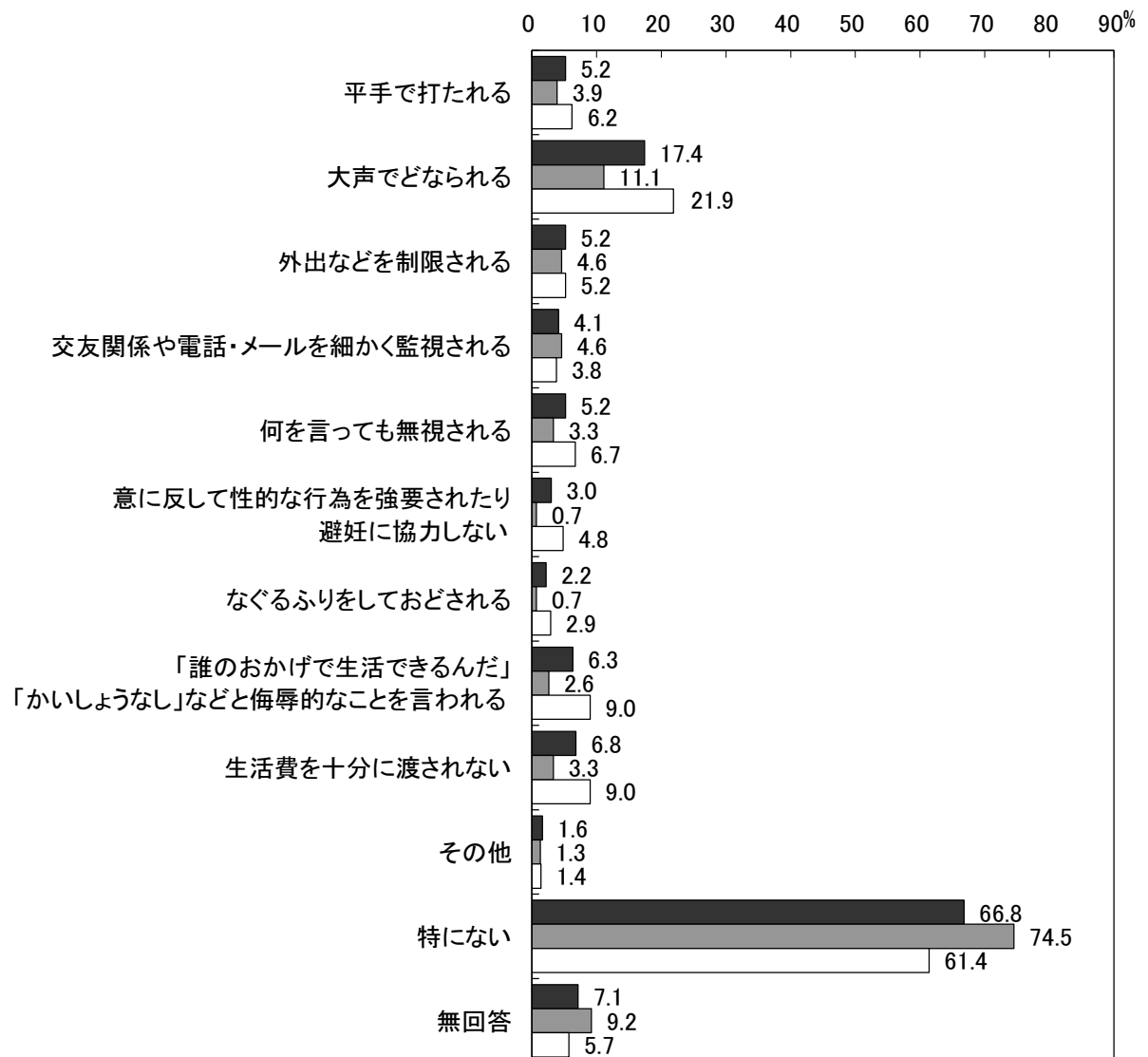
性別にみると、男性で「暴力の場合とそうでない場合がある」が25.5%と、女性に比べて9.8ポイント高くなっています。



問26 あなたは、これまでに配偶者やパートナーから、次のような行為をされたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「特にない」が66.8%と最も高く、次いで「大声でどなられる」が17.4%、「生活費を十分に渡されない」が6.8%となっています。

性別にみると、女性で「大声でどなられる」が21.9%と、男性に比べて10.8ポイント、男性で「特にない」が74.5%と、女性に比べて13.1ポイント高くなっています。



■ 全体 (n=368) ■ 男性 (n=153) □ 女性 (n=210)

【年齢別・婚姻状況別】

年齢別にみると、女性の80歳以上で「大声で怒鳴られる」が50.0%と、他に比べて高くなっています。

婚姻状況別にみると、【していない（離別・死別など）】で「特にない」が45.7%と、他に比べて低くなっています。また、「生活費を十分に渡されない」が26.1%と、他に比べて高くなっています。

	合計	平手で打たれる	大声で怒られる	外出などを制限される	交友関係や電話・メールを細かく監視される	何を言っても無視される	意に反して性的な行為を強要されたり避妊に協力しない	なぐるふりをしておどされる	「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしようなし」などと侮辱的なことを言われる	生活費を十分に渡されない	その他	特にない	無回答
【年齢別・男性】													
20歳代	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	87.5	12.5
30歳代	16	6.3	12.5	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3	0.0	81.3	6.3
40歳代	27	3.7	11.1	7.4	11.1	3.7	0.0	0.0	3.7	7.4	0.0	70.4	7.4
50歳代	33	3.0	12.1	3.0	3.0	9.1	3.0	3.0	3.0	0.0	3.0	75.8	6.1
60歳代	28	3.6	14.3	7.1	3.6	3.6	0.0	0.0	0.0	3.6	3.6	71.4	7.1
70歳代	39	5.1	10.3	2.6	2.6	0.0	0.0	0.0	2.6	2.6	0.0	74.4	12.8
80歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
【年齢別・女性】													
20歳代	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	92.3	7.7
30歳代	21	0.0	14.3	9.5	0.0	14.3	0.0	0.0	4.8	4.8	0.0	61.9	4.8
40歳代	39	5.1	25.6	2.6	5.1	10.3	5.1	2.6	2.6	10.3	2.6	59.0	7.7
50歳代	35	5.7	17.1	5.7	5.7	5.7	11.4	2.9	17.1	11.4	2.9	54.3	8.6
60歳代	42	7.1	28.6	2.4	4.8	2.4	4.8	2.4	14.3	9.5	2.4	54.8	4.8
70歳代	52	9.6	21.2	7.7	3.8	5.8	3.8	3.8	7.7	9.6	0.0	71.2	3.8
80歳以上	8	12.5	50.0	12.5	0.0	12.5	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0	25.0	0.0
【婚姻状況別】													
している（事実婚を含む）	262	4.2	17.9	5.0	3.8	6.1	3.1	2.3	7.6	4.6	0.4	70.2	4.6
していない（離別・死別など）	46	13.0	21.7	8.7	8.7	4.3	6.5	2.2	6.5	26.1	6.5	45.7	10.9
していない（未婚）	55	3.6	9.1	1.8	1.8	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	70.9	16.4

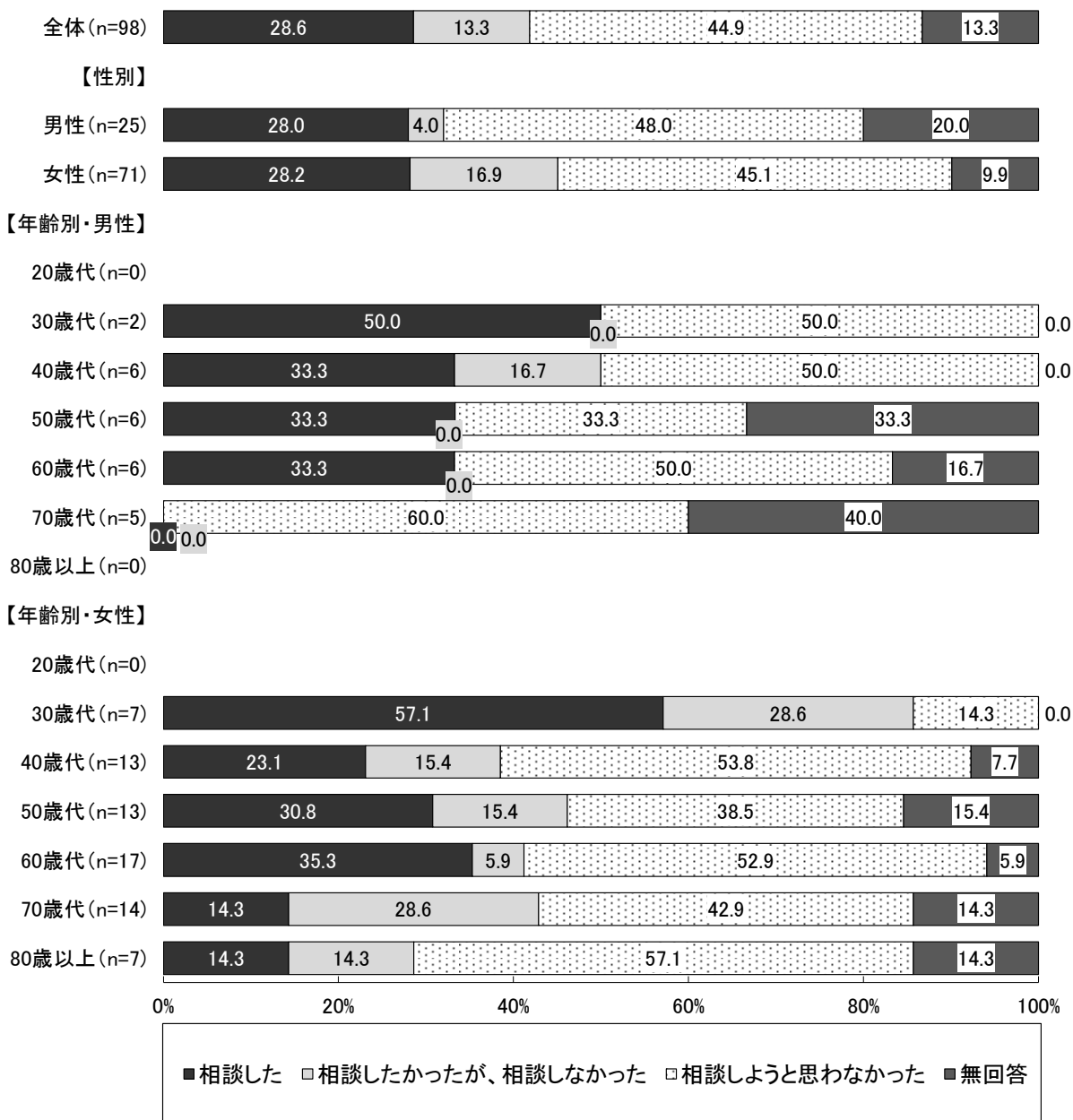
問 26 で「11 特にない」以外に1 つでも○をつけた方にお聞きします。

問27 あなたは、問26であげたような経験をしたことを誰かに相談したり、打ち明けたりしましたか。(○は1つ)

「相談しようと思わなかった」が44.9%と最も高く、次いで「相談した」が28.6%、「相談したかったが、相談しなかった」が13.3%となっています。

性別にみると、女性で「相談したかったが、相談しなかった」が16.9%と、男性に比べて12.9ポイント高くなっています。

年齢別にみると、男女ともに30歳代で「相談した」が5割台と、他に比べて高くなっています。



【暴力を受けた内容別】

暴力を受けた内容別にみると、【なぐるふりをしておどされる】と【生活費を十分に渡されない】で「相談した」が最も高くなっています。

また、「相談したかったが、相談しなかった」と「相談しようと思わなかった」を合わせた“相談しなかった”をみると、【意に反して性的な行為を強要されたり避妊に協力しない】で8割を超えて高くなっています。

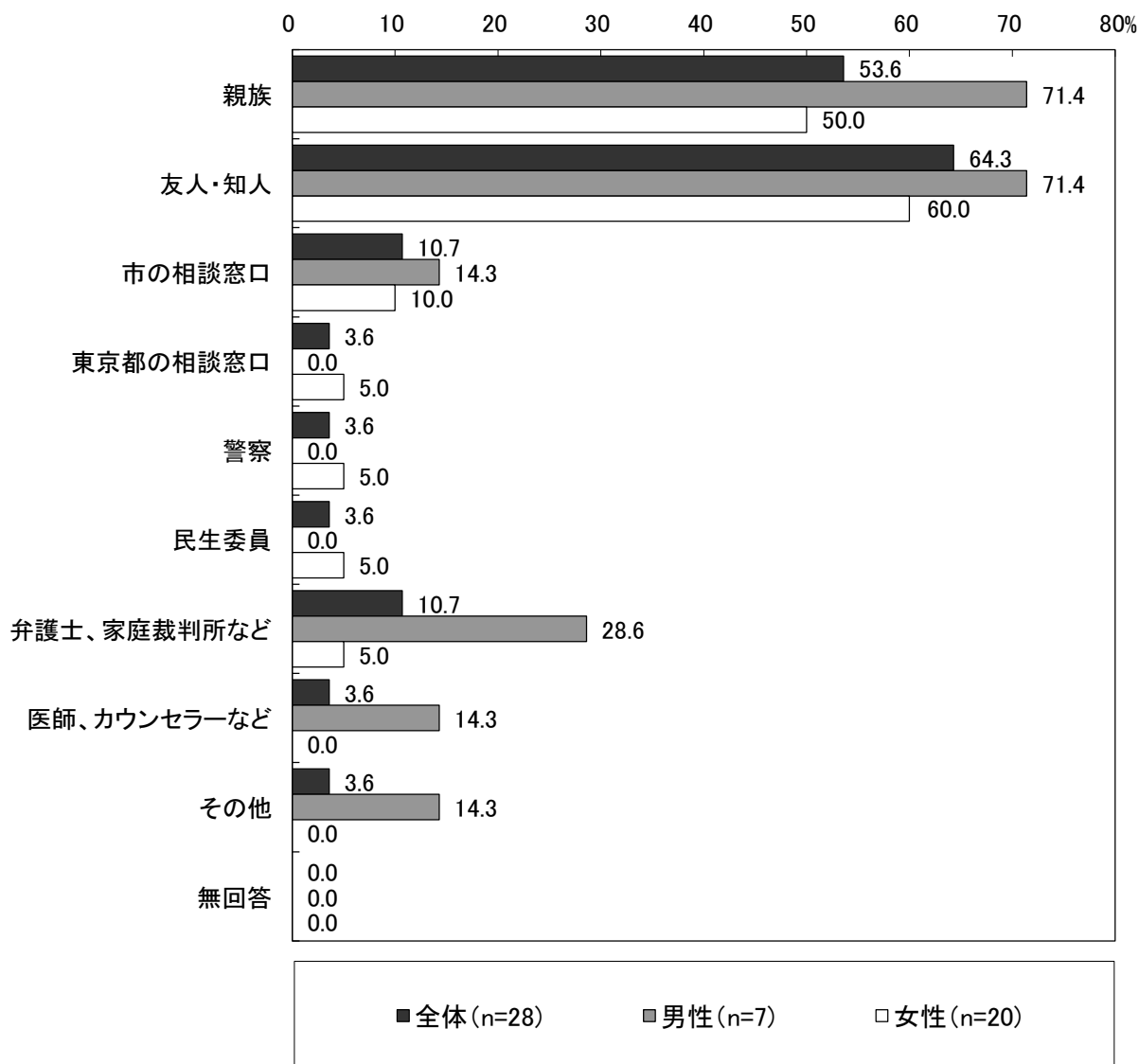
	合計	相談した	あなたが相談したか	相談しなかったか	無回答
【暴力を受けた内容】					
平手で打たれる	19	15.8	10.5	57.9	15.8
大声でどなられる	64	28.1	10.9	53.1	7.8
外出などを制限される	19	31.6	10.5	42.1	15.8
交友関係や電話・メールを細かく監視される	15	20.0	13.3	53.3	13.3
何を言っても無視される	19	26.3	26.3	36.8	10.5
意に反して性的な行為を強要されたり避妊に協力しない	11	9.1	36.4	45.5	9.1
なぐるふりをしておどされる	8	50.0	12.5	12.5	25.0
「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことを言われる	23	34.8	13.0	39.1	13.0
生活費を十分に渡されない	25	36.0	28.0	28.0	8.0
その他	6	0.0	16.7	16.7	66.7

問 27 で「1 相談した」とお答えの方にお聞きします。

問 28 あなたが相談した相手はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「友人・知人」が 64.3%と最も高く、次いで「親族」が 53.6%、「市の相談窓口」「弁護士、家庭裁判所など」がそれぞれ 10.7%となっています。

性別にみると、男性で「親族」「友人・知人」「弁護士、家庭裁判所など」「医師、カウンセラーなど」「その他」が、女性に比べて 10 ポイント以上高くなっています。

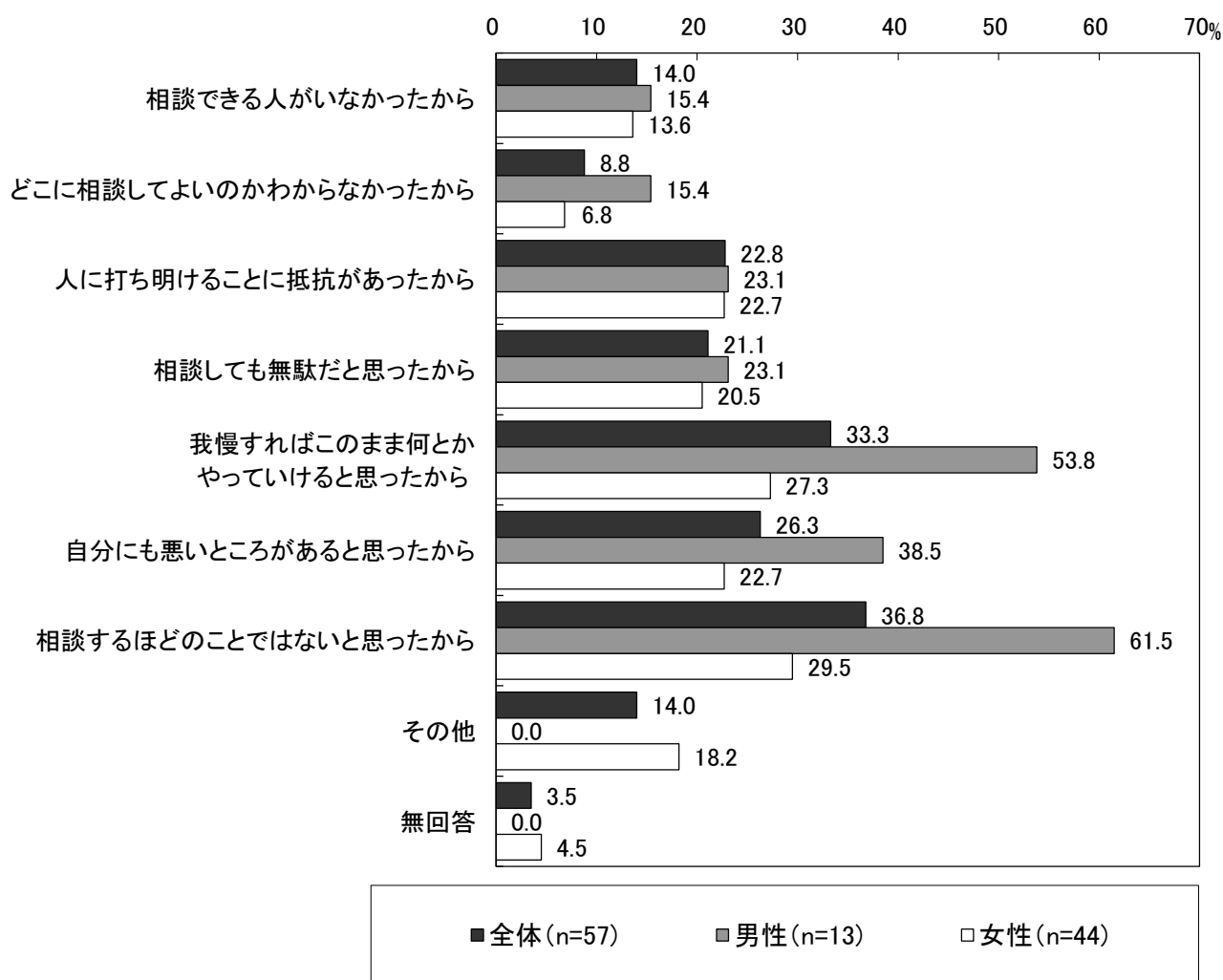


問 27 で「2」または「3」（相談しなかった）とお答えの方にお聞きします。

問 29 その理由は次のうちのどれですか。（あてはまるものすべてに○）

「相談するほどのことではないと思ったから」が 36.8%と最も高く、次いで「我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから」が 33.3%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が 26.3%となっています。

性別にみると、男性で「我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」が、女性に比べて 10 ポイント以上高い割合となっています。一方女性で「その他」が 18.2%と、男性に比べて 18.2 ポイント高くなっています。

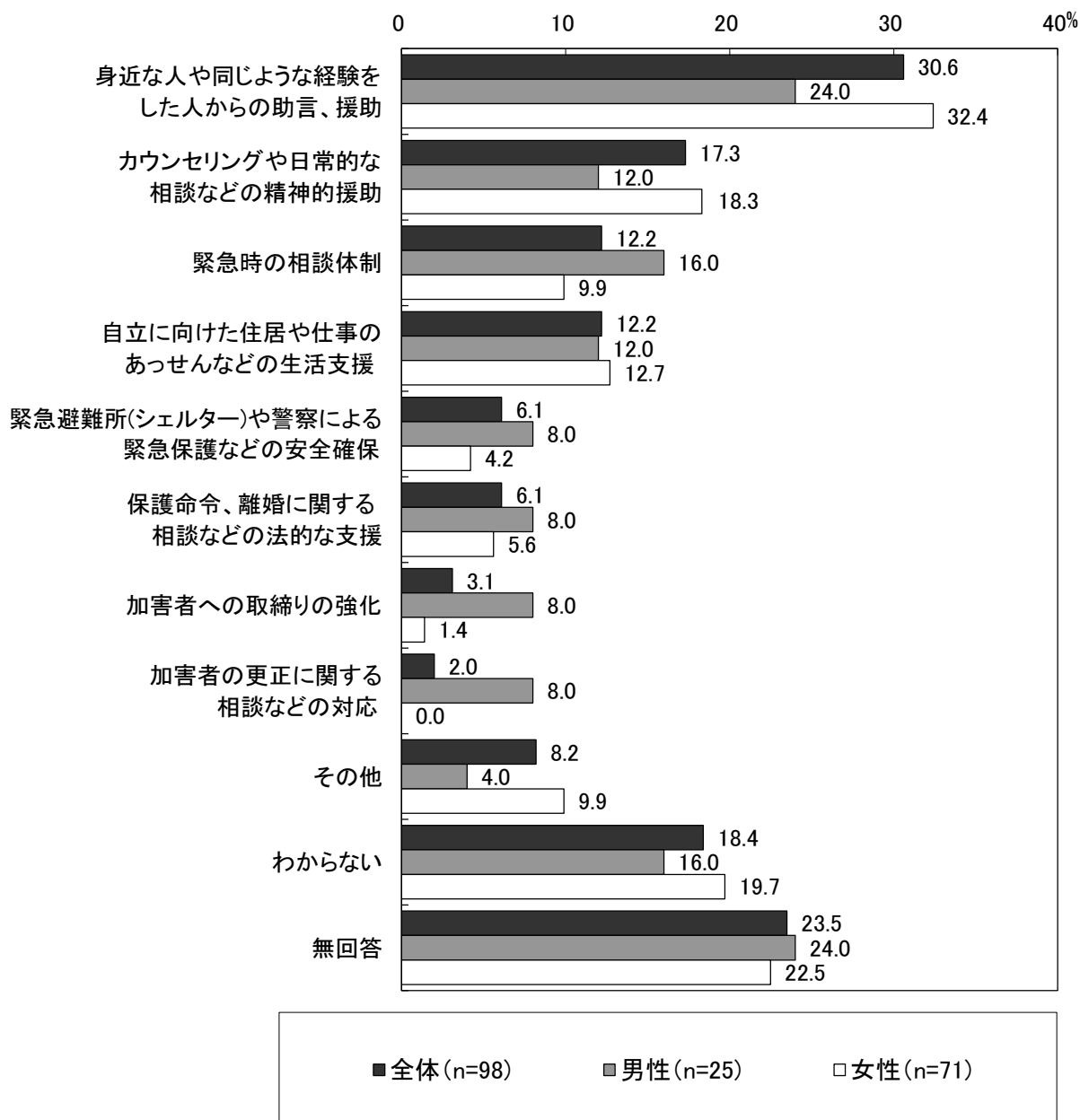


問 26 で「11 特にない」以外に1 つでも○をつけた方にお聞きします。

問30 あなたは、その時どのような助けがあればよいと思いましたか。(あてはまるものすべてに○)

「身近な人や同じような経験をした人からの助言、援助」が 30.6%と最も高く、次いで「わからない」が 18.4%、「カウンセリングや日常的な相談などの精神的援助」が 17.3%となっています。

性別にみると、女性で「身近な人や同じような経験をした人からの助言、援助」「カウンセリングや日常的な相談などの精神的援助」「その他」が、男性に比べて高くなっています。

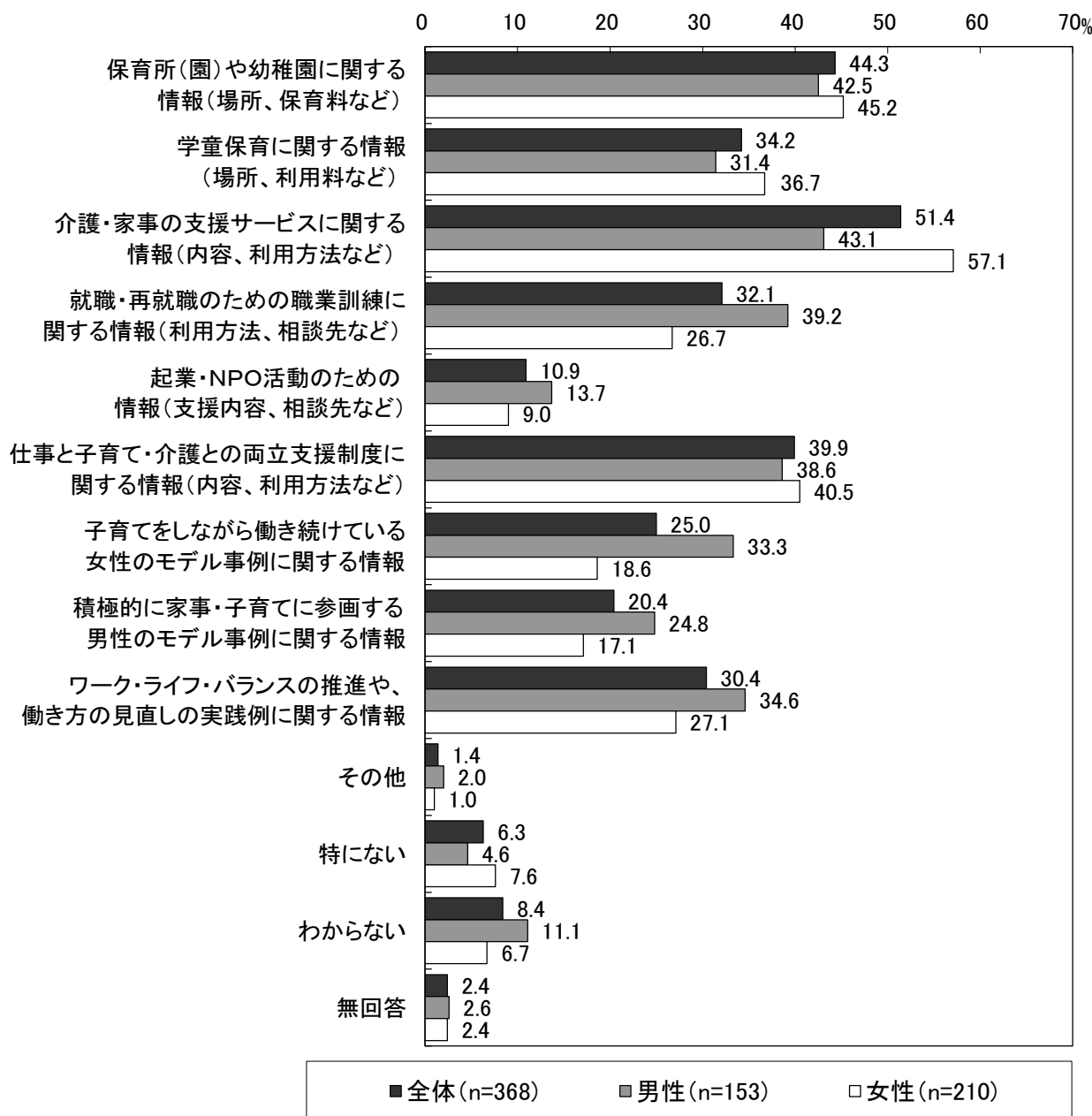


8 男女共同参画の推進について

問31 あなたは、ワーク・ライフ・バランスの実現や、女性の活躍推進の取組に関する情報のうち、どの情報が特に必要になると感じますか。（あてはまるものすべてに○）

「介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法など）」が51.4%と最も高く、次いで「保育所（園）や幼稚園に関する情報（場所、保育料など）」が44.3%、「仕事と子育て・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など）」が39.9%となっています。

性別にみると、女性で「介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法など）」が57.1%と、男性に比べて14.0ポイント、男性で「就職・再就職のための職業訓練に関する情報（利用方法、相談先など）」が39.2%、「子育てをしながら働き続けている女性のモデル事例に関する情報」が33.3%と、女性に比べて10ポイント以上高くなっています。



【年齢別】

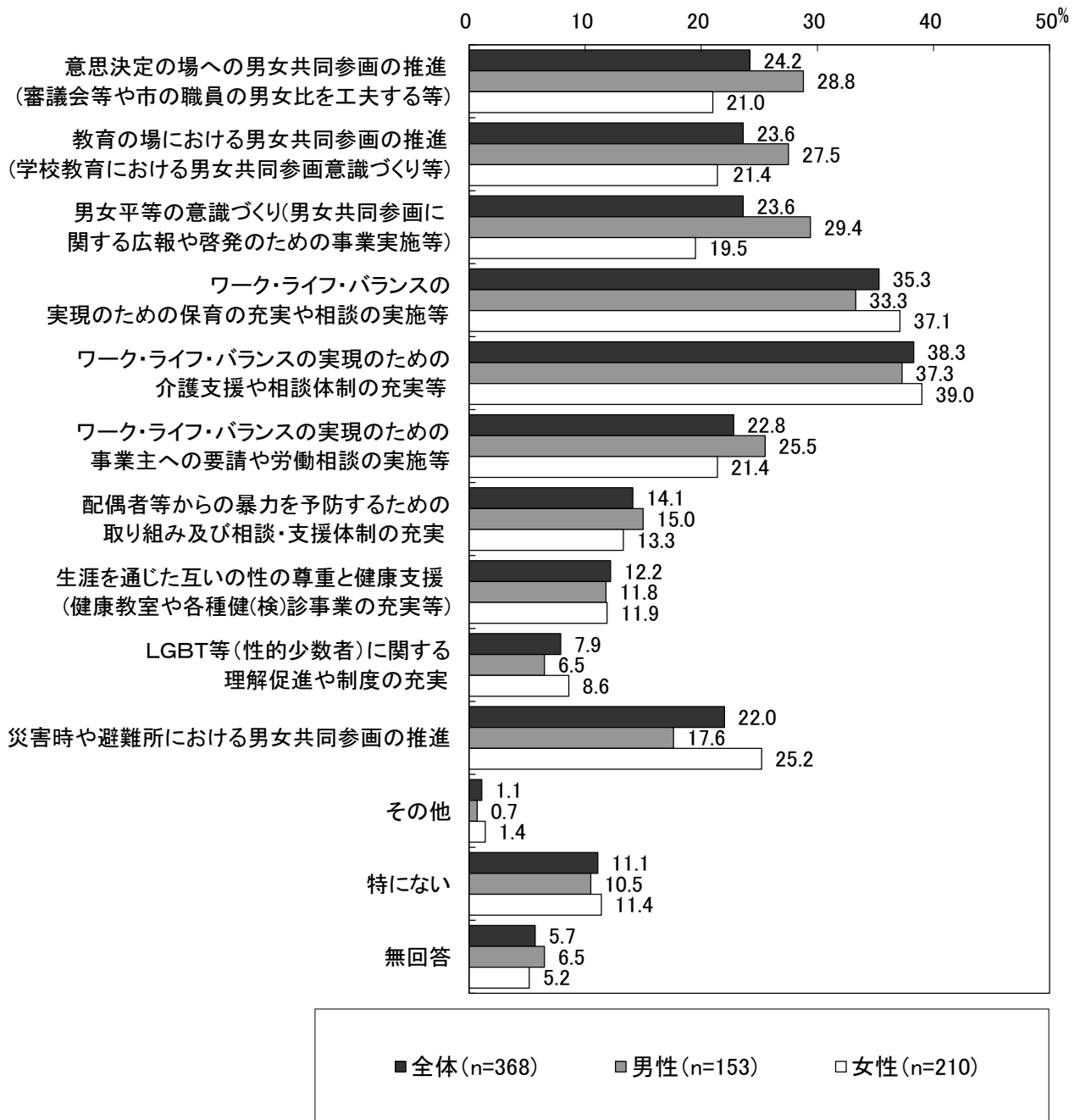
年齢別にみると、男性の20歳代で「仕事と子育て・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など）」「ワーク・ライフ・バランスの推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報」が、女性の30歳代で「保育所（園）や幼稚園に関する情報（場所、保育料など）」「学童保育に関する情報（内容、利用方法など）」が、他に比べて特に高くなっています。

	合計	報 保育所（園）や幼稚園に関する情報（場所、保育料など）	学 学童保育に関する情報（場所、利用料など）	介 介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法など）	就 就職・再就職のための職業訓練に関する情報（利用方法、相談先など）	起 起業・NPO活動のための情報（支援内容、相談先など）	法 制度に関する情報（内容、利用方法など）	仕 仕事と子育て・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など）	女 子育てをしながら働き続けている女性のモデル事例に関する情報	積 積極的に家事・子育てに参画する男性のモデル事例に関する情報	す や、働き方の見直しの実践例に関する情報	ワーク・ライフ・バランスの推進	その他	特 特にな	わ わからない	無 無回答
【年齢別・男性】																
20歳代	8	62.5	50.0	25.0	50.0	12.5	75.0	25.0	37.5	62.5	12.5	0.0	12.5	0.0		
30歳代	16	68.8	37.5	37.5	31.3	0.0	50.0	31.3	25.0	37.5	0.0	0.0	12.5	0.0		
40歳代	27	51.9	40.7	40.7	48.1	22.2	40.7	48.1	33.3	51.9	0.0	0.0	7.4	3.7		
50歳代	33	33.3	33.3	42.4	45.5	33.3	36.4	27.3	24.2	42.4	3.0	9.1	9.1	0.0		
60歳代	28	35.7	14.3	46.4	39.3	10.7	28.6	32.1	21.4	14.3	3.6	10.7	17.9	0.0		
70歳代	39	35.9	30.8	51.3	30.8	0.0	35.9	33.3	20.5	25.6	0.0	0.0	10.3	5.1		
80歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0		
【年齢別・女性】																
20歳代	13	53.8	46.2	46.2	23.1	23.1	53.8	30.8	23.1	23.1	0.0	0.0	23.1	0.0		
30歳代	21	81.0	61.9	33.3	38.1	4.8	42.9	19.0	14.3	38.1	0.0	0.0	0.0	0.0		
40歳代	39	46.2	48.7	51.3	30.8	10.3	41.0	28.2	23.1	51.3	5.1	5.1	10.3	0.0		
50歳代	35	51.4	31.4	65.7	40.0	5.7	54.3	20.0	20.0	22.9	0.0	14.3	5.7	0.0		
60歳代	42	42.9	35.7	66.7	28.6	14.3	47.6	9.5	14.3	21.4	0.0	4.8	2.4	4.8		
70歳代	52	25.0	17.3	61.5	9.6	3.8	21.2	9.6	9.6	15.4	0.0	13.5	7.7	5.8		
80歳以上	8	50.0	50.0	50.0	25.0	12.5	37.5	50.0	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0		

問32 男女共同参画社会を実現していくために、今後、市はどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。(〇は3つまで)

「ワーク・ライフ・バランスの実現のための介護支援や相談体制の充実等」が38.3%と最も高く、次いで「ワーク・ライフ・バランスの実現のための保育の充実や相談の実施等」が35.3%、「意思決定の場への男女共同参画の推進（審議会等や市の職員の男女比を工夫する等）」が24.2%となっています。

性別にみると、男性で「意思決定の場への男女共同参画の推進（審議会等や市の職員の男女比を工夫する等）」「男女平等の意識づくり（男女共同参画に関する広報や啓発のための事業実施等）」が、女性に比べて高く、女性で「災害時や避難所における男女共同参画の推進」が25.2%と、男性と比べて7.6ポイント高くなっています。



問33 最後に、市の男女共同参画施策について、ご意見がありましたらお書きください。

主な意見を以下のとおり内容ごとにまとめました。

男女共同参画施策全般について

- 男性も女性も自らの能力を十分に発揮出来、幸せな社会となる事を願います。
- 男女不平等だ。現状ではまだまだ困難に思える。取組が市民全体に浸透しているかは疑問である。
- 協力できることは、進んでほしい。前向きに考えていきます。
- 東大和市男女共同施策は進んでいると思う。
- 性別や年齢や立場よりも、思想や意欲や能力を重視するべきではないか。
- 男女共同参画を推進させるには、先ず生活が安定しなければ実現は難しい。
- 夫婦別姓希望。

子育て支援について

- 保育所、保育士の給与増、人員増強、学童保育、子どもの居場所の充実等、具体的に出来る可視化された内容に対する充実策を早急に実施すべき。
- 子どもがいると身動きがとれなく社会参加が難しい。働いている働いていないに関わらず子どもを預けられるよう保育施設を増やしてほしい。PTAの外部委託。
- 共働きが当たり前の時代、手助けできるリタイア組をもっと活躍できる様なシステムを入れ地域で子育ての手伝いができる様にしたい。

意識づくり・教育について

- 教育から、家庭や人は多種多様と子供達に教えてあげてください。性教育やLGBTについての教育が充実することを願います。
- 男女共同参画について多くの人に関心を持ってもらいたい。市報やイベントを通じて子供から大人まで周知させる事が大切。
- 男女共同参画についてもっと身近に意識ができるような事や場があればと思います。

家庭生活・地域活動について

- 年々増えて行く消費税、毎月給与から何万円も引かれる税金。高くて施設には入れない認知症の老人。結婚・子育て以前の問題。
- 小さい頃からの学校や家庭での教育で男も対等に家のことができるように教育することが大切。
- PTA活動に男性をもっと参画させるべき。

LGBT等（性的少数者）について

- ゆくゆくは「パートナーシップ制度」が東大和市でもできるようになることを望みます。
- 最初の質問で男性と女性しか選択肢が無い事がまず間違っていると思う。せめて「その他」の選択ができるようにしたい。

働き方・働く場の改革について

- 政府機関や大企業では女性に優位になりすぎて、男性に不利に差別となっている一方、地方、都区外、中小企業の低賃金の家庭を中心とした社会では、男性優位で女性は差別されていると思う。
- 非正規職員の労働条件、賃金の改善。

行政の男女共同参画について

- 市民のロールモデルとして市役所・市議会が年齢、性別、立場、職種、上下にとらわれず働いて下さい。
- 東大和市の男女共同参画施策の推進については、一市民として高く評価し、賛同する。

その他要望

- 行政サービスや生活に関すること
- アンケートの設計に関すること

IV 調査票

東大和市男女共同参画に関する 市民意識調査

～アンケート調査にご協力をお願いします～

日頃から市政にご理解とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

東大和市では、「東大和市男女共同参画推進計画」を策定し、男女共同参画社会の実現を目指して、総合的な取り組みを行ってまいりました。

これまで、平成13年に第一次計画、平成23年に第二次計画を策定いたしましたが、社会情勢の変化や今日の男女共同参画に関する課題に対応するため、新たな計画を策定することとなりました。

この調査は、市内にお住まいの20歳以上の方を無作為に抽出させていただき行うもので、市民の皆様の考え方やご意見などを伺い、計画策定の基礎資料とすることを目的として実施するものです。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査についてご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

令和元年 12月 東大和市長 尾崎 保夫

□■□ ご記入にあたっての注意事項 □■□

- ① あて名の方ご本人がお答えください。また、ご本人が記入できない場合は、ご家族の方がご本人のお考えを聞きながらご記入ください。
- ② 回答は、あてはまる答えの番号を○で囲むか、回答欄に回答を記入してください。「その他」を選んだ場合は、その具体的な内容を（ ）の中に記入してください。
- ③ 選択する答えの数は「○は1つ」「あてはまるものすべてに○」などの案内にしたがってください。
- ④ ご記入後は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、12月16日（月）までにご投函ください。

※調査票は無記名で、統計的に処理します。ご記入いただいた個々の調査票を公表したり、調査の目的以外に使用したりすることは一切ありません。

お問い合わせ：東大和市役所 市民部 地域振興課 消費・共同参画係
電話：042-563-2111（内線1712・1715）FAX：042-563-5931

問7で「1」「2」「3」「4」「5」「10」のいずれか（自宅外で働いている）をお答えの方にお聞きします。

問8 あなたのお勤め先までの所要時間はどのくらいですか。（○は1つ）

- | | | |
|--------------|-----------------|---------|
| 1 30分未満 | 3 1時間以上1時間30分未満 | 5 2時間以上 |
| 2 30分以上1時間未満 | 4 1時間30分以上2時間未満 | |

問7で「3」「4」「6」のいずれか（パート、アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託員、内職の方）をお答えの方にお聞きします。

問9 あなたが、パート、アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託員、内職のいずれかの働き方を選んでいる理由は何ですか。（○は2つまで）

- 1 正社員の仕事が見つからなかったから
- 2 正社員では時間的、体力的に家庭と両立することが難しいから
- 3 自分の生活にあわせた時間で働けるから
- 4 税金や社会保障等で被扶養者の適用が受けられる範囲で働きたいから
- 5 仕事に責任が出てくるのが負担になるから
- 6 習いごとや趣味などと両立させたいから
- 7 地域活動やボランティア活動などと両立させたいから
- 8 保育所（園）など子育てのための環境が整っていないから
- 9 施設など介護のための環境が整っていないから
- 10 長く勤めるつもりがないから
- 11 家族の同意が得やすいから
- 12 その他（ ）

問7で「7」「9」のいずれか（家事専業（主婦・主夫）、無職の方）をお答えの方にお聞きします。

問10 あなたが家事専業（主婦・主夫）、無職を選んでいる理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1 経済的に働く必要がないため | 6 希望の仕事が見つからないため |
| 2 家事の負担が大きいため | 7 社会に出たくないため |
| 3 子育ての負担が大きいため | 8 高齢であるため |
| 4 親や病気の家族の介護・世話をするため | 9 その他（ ） |
| 5 配偶者など家族が就労を望まないため | 10 特に理由はない |

問11 離職の経験と、その理由についてお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）

- 1 結婚または出産・子育てのため離職したことがある
- 2 介護・看護のため離職したことがある
- 3 異動・転職・起業等のため離職したことがある
- 4 配偶者の異動・転職・起業等のため離職したことがある
- 5 離職したことはない
- 6 その他（ ）

2 男女共同参画に関する意識について

問12 次のような場で男女が平等になっていると思いますか。あなたの感じ方に最も近いものを選んでください。（ア～キまでそれぞれ○は1つ）

	男性の方が優遇されている	男性の方が優遇さ れている	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	男女平等である	女性の方が優遇さ れている	女性の方が優遇さ れている	わからない
ア 法律・制度の上	1	2	3	4	5	6	
イ 社会通念・習慣・しきたり	1	2	3	4	5	6	
ウ 政治の場	1	2	3	4	5	6	
エ 家事・子育て・介護等家庭生活の場	1	2	3	4	5	6	
オ 地域活動の場	1	2	3	4	5	6	
カ 職場	1	2	3	4	5	6	
キ 学校教育の場	1	2	3	4	5	6	

問13 次の東大和市が男女共同参画推進のために行っている事業や男女共同参画に関する用語について、あなたが知っているものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 男女共同参画に関する催し（パネル展・講座）
- 2 東大和市男女共同参画推進月間（2月）に開催する男女共同参画フォーラム
- 3 男女共同参画川柳の募集
- 4 男女共同参画苦情等処理窓口の開設
- 5 男女共同参画情報誌「はーもにい」の発行
- 6 東大和市男女共同参画推進計画の年次報告書の発行
- 7 東大和市男女共同参画推進審議会の設置
- 8 市報・ホームページを利用した男女共同参画に関する広報・啓発
- 9 男女共同参画社会基本法
- 10 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）
- 11 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）
- 12 ドメスティック・バイオレンス（DV）
- 13 デートDV
- 14 マタニティ・ハラスメント
- 15 バタニティ・ハラスメント
- 16 リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）
- 17 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
- 18 どれも知らない

□ ■ □用語について□ ■ □

◆男女共同参画社会基本法

男女共同参画社会の形成に関し、基本理念を定め、並びに国、地方公共団体及び国民の責務を明らかにするとともに、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の基本となる事項を定めることにより、男女参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進することを目的として、平成 11 年に施行された。

◆配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV 防止法)

配偶者からの暴力に係る通報、相談、保護、自立支援等の体制を整備し、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図ることを目的として、平成 16 年に施行。「配偶者」には婚姻の届出をしていない「事実婚」を含むほか、性別を問わない。「暴力」は身体に対する暴力またはこれに準ずる心身に有害な影響を及ぼす言動を指す。また、離婚後の暴力を含んでいる。

◆女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)

平成 27 年8月に成立。これにより、平成 28 年4月1日から、労働者 301 人以上の大企業は、女性の活躍推進に向けた行動計画の策定などが義務付けられている。

◆ドメスティック・バイオレンス(DV)

配偶者やパートナー、恋人を含む親密な関係にある男女の間で起きる身体的、精神的、性的、経済的暴力等のこと。

◆デートDV

恋人などの親密な関係にある者(配偶者等を除く)の一方から他方に対してふるわれる身体的、精神的、性的、経済的暴力等のこと。

◆マタニティ・ハラスメント/パタニティ・ハラスメント

「マタニティ・ハラスメント」は働く女性が自身の妊娠・出産をきっかけに、「パタニティ・ハラスメント」は配偶者等の妊娠・出産をきっかけに、職場で精神的・肉体的な嫌がらせを受けたり、不当な扱いを受けたりすることを意味することば。

◆リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)

個人の自己決定権を保障する考え方で、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持し、子どもを産むかどうか、いつ産むか、どれくらいの間隔で産むかなどについて選択し、自ら決定する権利のことをいう。

◆ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)

一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、人生の各段階に応じて様々な生き方が選択・実現できることを示す。

3 家庭生活について

問14 家庭における男女の役割分担について、理想はどうあるべきだと思いますか。また、実際に結婚している方や、パートナーと同居している方の状況はどうか。次の中から、あなたの考え方に最も近いものを選んで□の中に番号を記入してください。（番号はそれぞれ1つずつ記入）

現在結婚している方、パートナーと同居している方にお聞きします。

理想は

実際は

- 1 男性は仕事、女性は家事・子育て・介護を分担する
- 2 男性は仕事、女性は家事・子育て・介護にさしつかえない範囲で仕事をする
- 3 男女とも仕事をし、家事・子育て・介護は主に女性が分担する
- 4 男女とも仕事をし、家事・子育て・介護は主に男性が分担する
- 5 男女とも仕事をし、家事・子育て・介護は男女がともに分担する
- 6 男女とも仕事をし、家事・子育て・介護は家族や民間サービスなどに任せる
- 7 女性は仕事、男性は家事・子育て・介護を分担する
- 8 女性は仕事、男性は家事・子育て・介護にさしつかえない範囲で仕事をする
- 9 その他（ ）

問15 次にあげる子育てに対する考え方について、あなたはごどう思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。（A～カまでそれぞれ○は1つ）

	そう 思う	そう 思う どちらか といえ ば	そう 思わ ない どちらか といえ ば	そう 思わ ない	わ か ら な い
ア 女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てるのがよい	1	2	3	4	5
イ 女の子も、経済的自立ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
ウ 男の子も、家事ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
エ 母親は、子どもが3歳になるまでは子育てに専念するのがよい	1	2	3	4	5
オ 父親はもっと子育てに関わる方がよい	1	2	3	4	5
カ 子育ては地域社会の支援も必要である	1	2	3	4	5

問19 あなたは、女性が働き続けたり、結婚・出産等の後に再就職しやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- 1 再就職のための講座・セミナーの充実や求人情報の提供を行う
- 2 元の職場に復帰できるようにする
- 3 男性の家事・子育てへの参加を促進する
- 4 保育所(園)、学童保育などの子育てしやすい環境を充実させる
- 5 女性が働くことに対する家族の理解を深める
- 6 家事代行や介護サービス等を利用することにより家事負担を軽減する
- 7 場所・時間にとらわれない働き方(労働時間短縮、フレックスタイム制、テレワーク等)を実現する
- 8 育児・介護のための休業・休暇制度を充実させる
- 9 昇進・昇給などの職場での男女平等を進める
- 10 非正規職員の労働条件を改善する
- 11 その他()
- 12 わからない

5 ワーク・ライフ・バランスについて

問20 あなたの生活のなかでの「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度について伺います。希望として優先したいものと、現実で優先されているものについて、次の中から選んで□の中に番号を記入してください。(番号はそれぞれ1つずつ記入)

希望は

現実には

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 「仕事」が優先 | 5 「仕事」と「個人の生活」が優先 |
| 2 「家庭生活」が優先 | 6 「家庭生活」と「個人の生活」が優先 |
| 3 「個人の生活」が優先 | 7 どれかを優先せず、すべて充実 |
| 4 「仕事」と「家庭生活」が優先 | 8 わからない |

問21 ワーク・ライフ・バランスを阻害している要因になっていると思うのはどれですか。(あてはまるものすべてに〇)

- 1 保育・介護の施設やサービスが不足している
- 2 長時間労働が恒常化している
- 3 子育て・介護で仕事を休むと人事評価が下がる
- 4 職場の上司・同僚が無理解・非協力的である
- 5 休業時など経済的保障が不十分である
- 6 育児・介護の休業・休暇制度が利用しにくい
- 7 場所・時間にとらわれない働き方(労働時間短縮、フレックスタイム制、テレワーク等)ができない
- 8 家族や身近な人が無理解・非協力的で頼れる人がいない
- 9 「男は仕事、女は家庭」という社会通念がある
- 10 その他()
- 11 特にない
- 12 わからない

問22 家事代行等の外部サービスについて、利用したことがあるもの、今後利用したいと思うものをそれぞれをお答えください。(それぞれにあてはまる番号すべてを記入)

利用した 利用したいと思う

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1 料理代行 | 5 ベビーシッター等の子どもの世話 |
| 2 部屋掃除・洗濯など、料理以外の日常の家事 | 6 保育所(園)・学童保育等への送迎 |
| 3 大掃除など、年に数回必要となる家事 | 7 その他() |
| 4 食材配達 | 8 特になし |

6 社会参加・地域参加について

問23 あなたは、次に挙げる地域での活動に、参加していますか。また、今後参加したい(今後も参加したいものも含む。)と思われるのはどのような活動ですか。
(ア、イについてそれぞれあてはまるものすべてに○)

ア 現在参加している	イ 今後参加したい	選択肢
1	1	趣味やスポーツなどの活動
2	2	町会や自治会、PTAなどの地域活動
3	3	防犯、防災、交通安全などに関する地域活動
4	4	環境問題、消費者問題などの住民活動
5	5	子育て支援に関連した活動
6	6	高齢者や障害者の介護・介助などの活動
7	7	職業に関連した技術などを学ぶ活動
8	8	国際交流(協力)
9	9	審議会や委員会など行政の委員会
10	10	その他()
11	11	特になし

7 人権について

問24 あなたは、LGBT等(性的少数者)についてどの程度知っていますか。(○は1つ)

- 1 言葉も意味も両方を知っている
- 2 言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない
- 3 言葉も意味も知らなかった

◆LGBT等(性的少数者)

近年、性同一性障害者、異性装者、同性愛者や両性愛者、先天的に身体上の性別が不明瞭である人(インターセックス)など、多様な性の在り方について、女性同性愛者(Lesbian)、男性同性愛者(Gay)、両性愛者(Bisexual)、トランスジェンダー(Transgender: 身体の性別とは異なる性別を生きる/生きたいと望む人)、の頭文字を用いて、LGBTと表現している。

問26で「11 特にない」以外に1つでも○をつけた方にお聞きします。

問27 あなたは、問26であげたような経験をしたことを誰かに相談したり、打ち明けたりしましたか。(○は1つ)

- 1 相談した
- 2 相談したかったが、相談しなかった
- 3 相談しようと思わなかった

問27で「1 相談した」とお答えの方にお聞きします。

問28 あなたが相談した相手はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----------|------------|---------------|
| 1 親族 | 4 東京都の相談窓口 | 7 弁護士、家庭裁判所など |
| 2 友人・知人 | 5 警察 | 8 医師、カウンセラーなど |
| 3 市の相談窓口 | 6 民生委員 | 9 その他 () |

問27で「2」または「3」(相談しなかった)とお答えの方にお聞きします。

問29 その理由は次のうちのどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 相談できる人がいなかったから
- 2 どこに相談してよいのかわからなかったから
- 3 人に打ち明けることに抵抗があったから
- 4 相談しても無駄だと思ったから
- 5 我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから
- 6 自分にも悪いところがあると思ったから
- 7 相談するほどのことではないと思ったから
- 8 その他 ()

問26で「11 特にない」以外に1つでも○をつけた方にお聞きします。

問30 あなたは、その時どのような助けがあればよいと思いましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 身近な人や同じような経験をした人からの助言、援助
- 2 カウンセリングや日常的な相談などの精神的援助
- 3 緊急時の相談体制
- 4 自立に向けた住居や仕事のあっせんなどの生活支援
- 5 緊急避難所(シェルター)や警察による緊急保護などの安全確保
- 6 保護命令、離婚に関する相談などの法的な支援
- 7 加害者への取締りの強化
- 8 加害者の更正に関する相談などの対応
- 9 その他 ()
- 10 わからない

8 男女共同参画の推進について

問31 あなたは、ワーク・ライフ・バランスの実現や、女性の活躍推進の取り組みに関する情報のうち、どの情報が特に必要になると感じますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 保育所（園）や幼稚園に関する情報（場所、保育料など）
- 2 学童保育に関する情報（場所、利用料など）
- 3 介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法など）
- 4 就職・再就職のための職業訓練に関する情報（利用方法、相談先など）
- 5 起業・NPO活動のための情報（支援内容、相談先など）
- 6 仕事と子育て・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など）
- 7 子育てをしながら働き続けている女性のモデル事例に関する情報
- 8 積極的に家事・子育てに参画する男性のモデル事例に関する情報
- 9 ワーク・ライフ・バランスの推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報
- 10 その他（ ）
- 11 特にない
- 12 わからない

問32 男女共同参画社会を実現していくために、今後、市はどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。（○は3つまで）

- 1 意思決定の場への男女共同参画の推進(審議会等や市の職員の男女比を工夫する等)
- 2 教育の場における男女共同参画の推進(学校教育における男女共同参画意識づくり等)
- 3 男女平等の意識づくり(男女共同参画に関する広報や啓発のための事業実施等)
- 4 ワーク・ライフ・バランスの実現のための保育の充実や相談の実施等
- 5 ワーク・ライフ・バランスの実現のための介護支援や相談体制の充実等
- 6 ワーク・ライフ・バランスの実現のための事業主への要請や労働相談の実施等
- 7 配偶者等からの暴力を予防するための取り組み及び相談・支援体制の充実
- 8 生涯を通じた互いの性の尊重と健康支援(健康教室や各種健(検)診事業の充実等)
- 9 L G B T等(性的少数者)に関する理解促進や制度の充実
- 10 災害時や避難所における男女共同参画の推進
- 11 その他（ ）
- 12 特にない

問33 最後に、市の男女共同参画施策について、ご意見がありましたらお書きください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

東大和市
男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

発行年月:令和2年3月
発行:東大和市地域振興課
〒207-8585 東大和市中心 3-930
電話:042-563-2111(内線 1712) FAX:042-563-5931